

遠軽町子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査結果報告書

(就学前児童)

令和6年3月

遠 軽 町

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
2	家族の状況について	2
3	子どもの育ちをめぐる環境について	4
4	子どもの保護者の就労状況について	9
5	妊娠・出産・子育てと就労の継続について	21
6	子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	23
7	地域の子育て支援事業の利用状況	33
8	土曜・休日や長期休み中の教育・保育事業の利用希望について	35
9	夜間保育の利用希望について	39
10	子どもの病気の際の対応について	42
11	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	49
12	小学校就学後の放課後の過ごし方について	54
13	職場の両立支援制度について	61
14	子育て環境や支援について	68
15	出生数が減少する現状における保育所について	73
16	調査票	77

I 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「遠軽町子ども・子育て支援事業計画」策定のための基礎資料として、対象となるお子さんの保護者の就労状況、サービス利用の実態、子育てに関する意識・意見を把握することを目的に実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	町内の就学前児童のいる世帯
配布数	576
抽出法	無作為抽出
調査方法	案内文にて調査依頼、WEB調査にて回収
調査時期	令和6年1月
調査地域	遠軽町全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	576
有効回収数	276
有効回収率	47.9%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- ④【前回調査との比較】は、本町において平成30年に実施した「子ども・子育て支援事業計画策定に伴うアンケート調査」との比較を行ったものである。

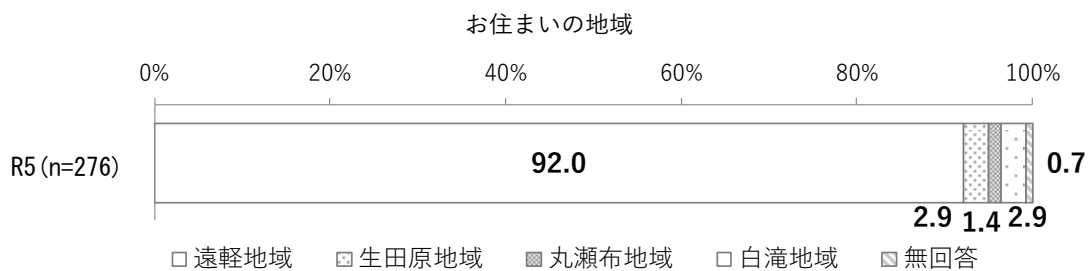
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

1. お住まいの地域

問 1 お住まいの地区はどちらですか。

住まいの地域は、「遠軽地域」が 92.0%と最も多く、「生田原地域」「白滝地域」がともに 2.9%、「丸瀬布地域」が（1.4%）となっている。



2 家族の状況について

1. お子さんの年齢

問 2 宛名のお子さんの生年月をご入力ください。（□内に数字を入力）

子どもの年齢は、「4歳」が 18.1%と最も多く、次いで「5歳以上」（17.8%）、「3歳」（16.7%）、「2歳」（15.6%）、「1歳」（14.5%）、「0歳」（13.0%）となっている。



2. 回答者

問 3 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

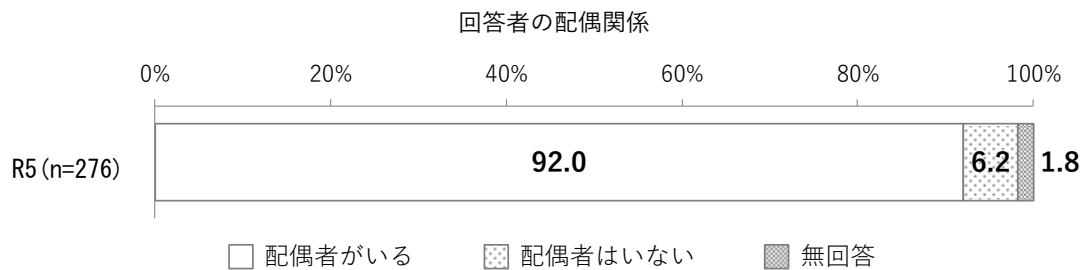
回答者は、「母親」（80.1%）、「父親」（19.2%）となっている。



3. 回答者の配偶関係

問 4 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

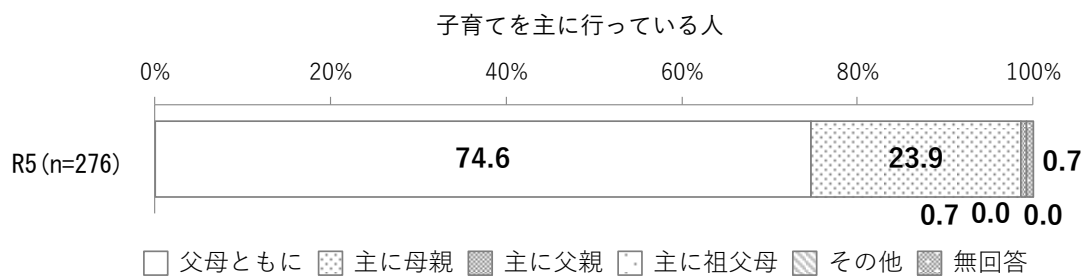
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」(92.0%)、「配偶者はいない」(6.2%)となっている。



4. 子育てを主に行っている人

問 5 宛名のお子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

子育てを主に行っている人は、「父母ともに」が74.6%と最も多く、次いで「主に母親」(23.9%)、「主に父親」(0.7%)となっている。



3 子どもの育ちをめぐる環境について

1. 子育てに日常的にかかわっている人

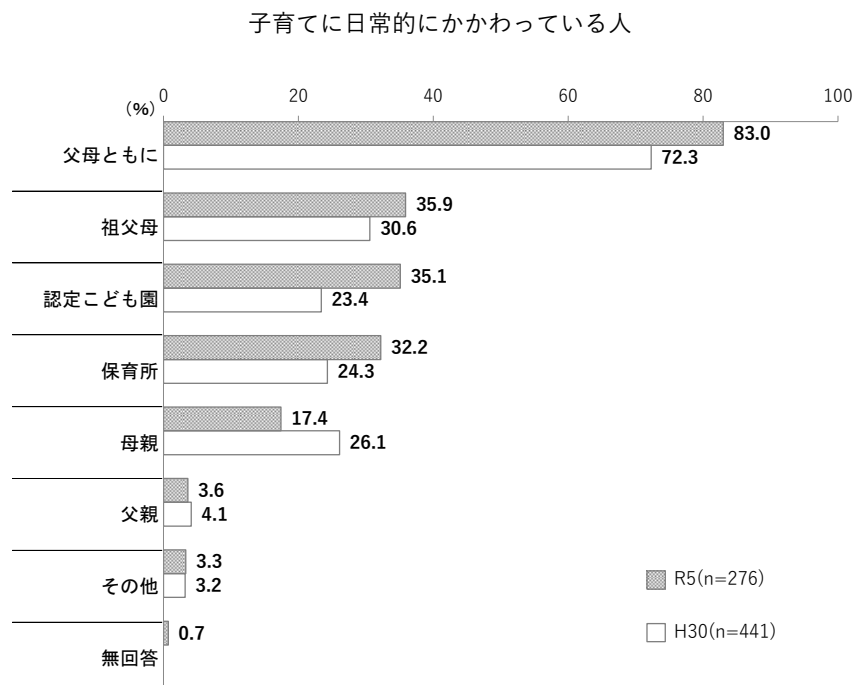
問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまる番号すべて）

子育てに日常的にかかわっている人は、「父母ともに」が83.0%と最も多く、次いで「祖父母」（35.9%）、「認定こども園」（35.1%）、「保育所」（32.2%）、「母親」（17.4%）、「父親」（3.6%）となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「認定こども園」で12ポイント、「父母ともに」で11ポイント、「保育所」で8ポイント高くなっている。

一方、「母親」で9ポイント低下している。



※平成30年度では「幼稚園」の選択肢あり

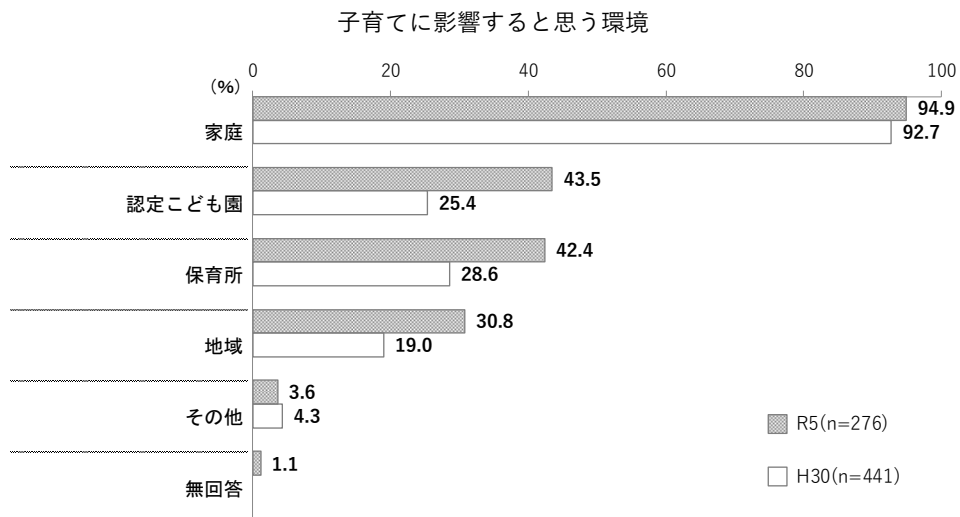
2. 子育てに影響すると思う環境

問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響すると思われる環境をお答えください。（あてはまる番号すべて）

子育てに影響すると思う環境は、「家庭」が94.9%と最も多く、次いで「認定こども園」（43.5%）、「保育所」（42.4%）、「地域」（30.8%）となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、全ての項目で高くなっており、「家庭」以外の項目で12ポイント以上高くなっている。



※令和 30 年度では「幼稚園」の選択肢あり

3. お子さんをみてもらえる親族・知人

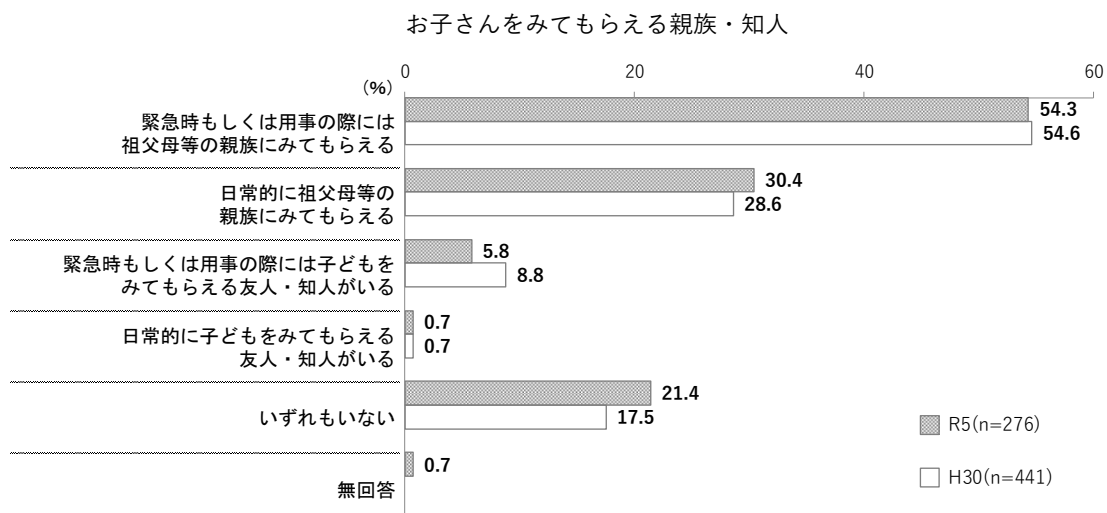
問 8 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまる番号すべて）

お子さんをみてもらえる親族・知人は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 54.3%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(30.4%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(5.8%) などとなっている。

一方、「いずれもない」は 21.4%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「いずれもない」でやや高くなっている。



3-1. 祖父母等の親族にみてもらう状況

問 8 で「1～2.祖父母や親族にお子さんをみてもらえる」に○をした方におうかがいします。

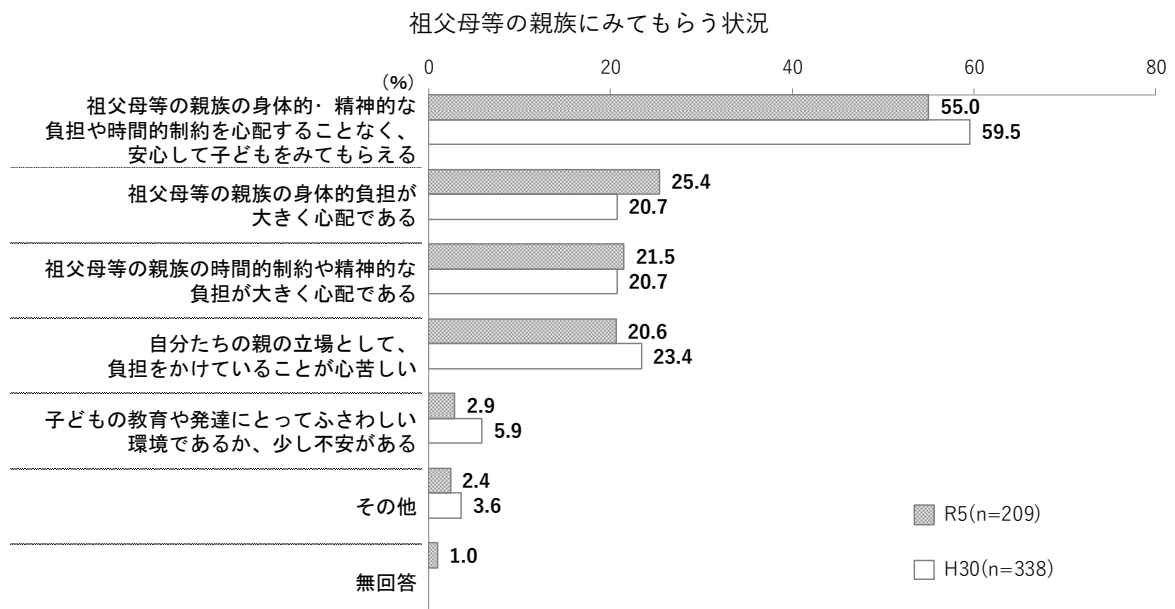
問 8 - 1 父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

(あてはまる番号すべて)

祖父母等の親族にみてもらう状況は、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 55.0%と最も多く、次いで「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(25.4%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(21.5%)、「自分たちの親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(20.6%) などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」でやや高くなっている。



3-2. 友人・知人にみてもらう状況

問 8 で「3～4.友人・知人にお子さんをみてもらえる」に○をした方におうかがいします。

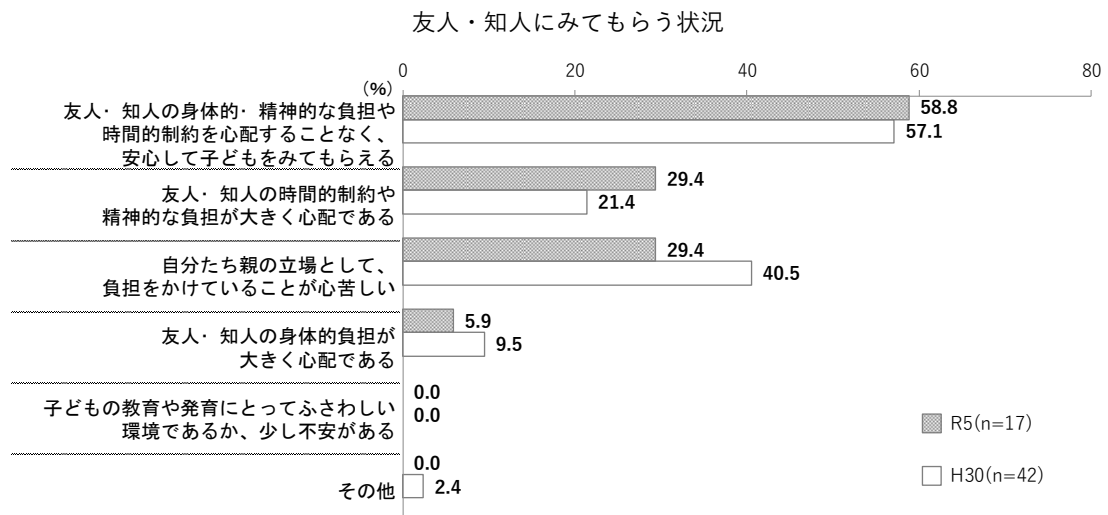
問 8 - 2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(あてはまる番号すべて)

友人・知人にみてもらう状況では、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 58.8%と最も多く、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がともに 29.4%などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」で 8 ポイント高くなっている。

一方、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」で 11 ポイント低い。



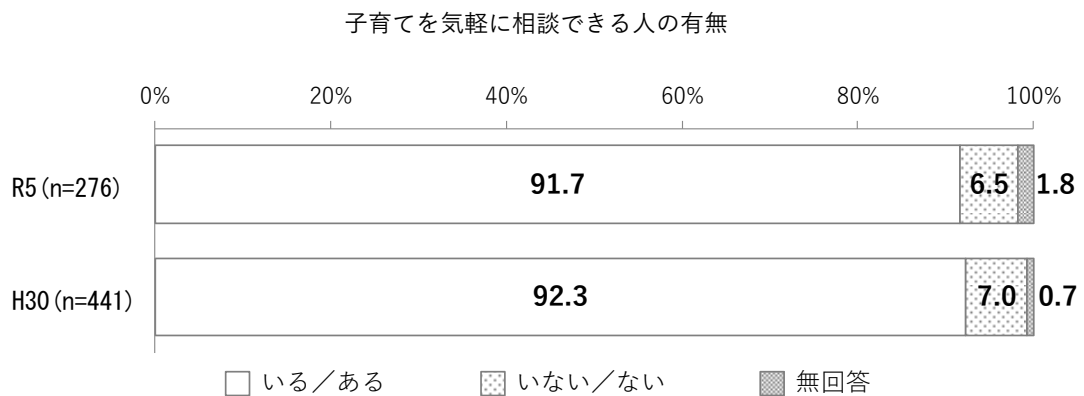
4. 子育てを気軽に相談できる人の有無

問9 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

子育てを気軽に相談できる人の有無では、「いる／ある」(91.7%)、「いない／ない」(6.5%)となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、大きな違いは見られない。



4-1. 相談先

問 9 で「1.いる／ある」に○をした方におうかがいします。

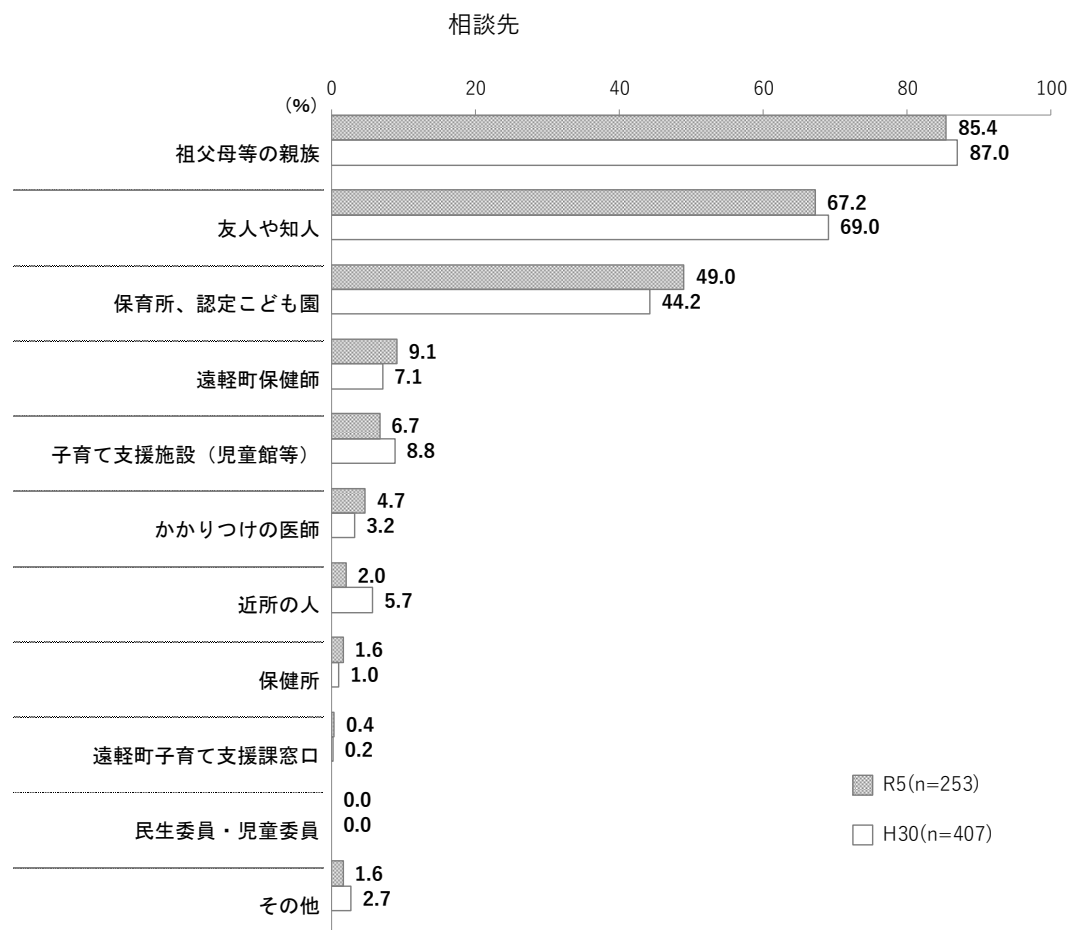
問 9- 1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

（あてはまる番号 3 つまで）

相談先は、「祖父母等の親族」が 85.4%と最も多く、次いで「友人や知人」（67.2%）、「保育所、認定こども園」（49.0%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「保育所、認定こども園」で 5 ポイント高くなっている。



※平成 30 年度では「保育所、幼稚園、認定こども園」と表現が異なる

4 子どもの保護者の就労状況について

1. 母親の就労状況

問 10 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、農業、家族従事者含む）についてお答えください。

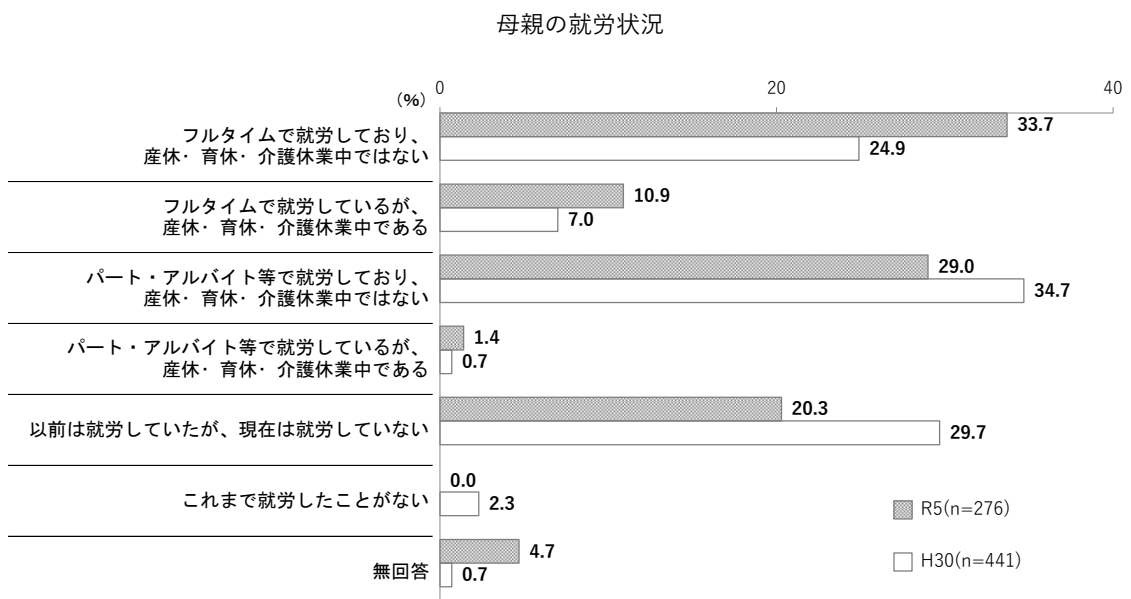
（1）母親【父子家庭の場合、記入は不要です】

母親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が33.7%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（29.0%）、「以前は就労していたが現在はしていない」（20.3%）、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」（10.9%）となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で9ポイント高くなっている。

一方、「以前は就労していたが現在はしていない」で9ポイント、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で6ポイント低くなっている。



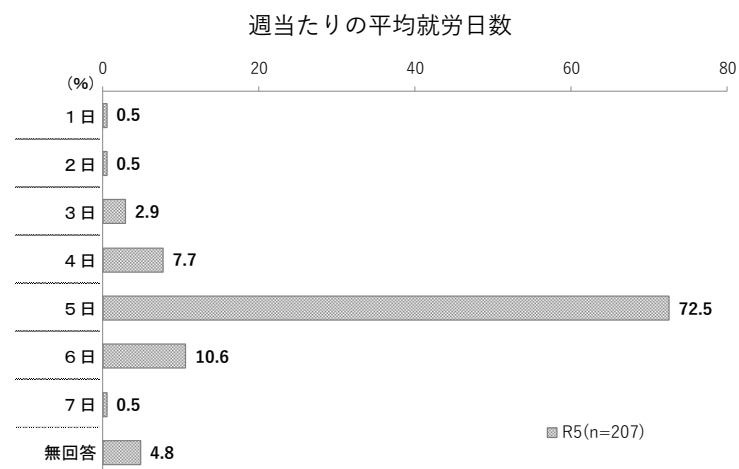
1-1. 母親の平均就労日数と平均就労時間

問 10 (1) -1～(1) -2 は問 10 (1) で「1～4. (母親が就労している)」に○をつけた方にかがいます。

(1) -1 週当たりの「就労日数」、1 日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(□内に数字を入力)

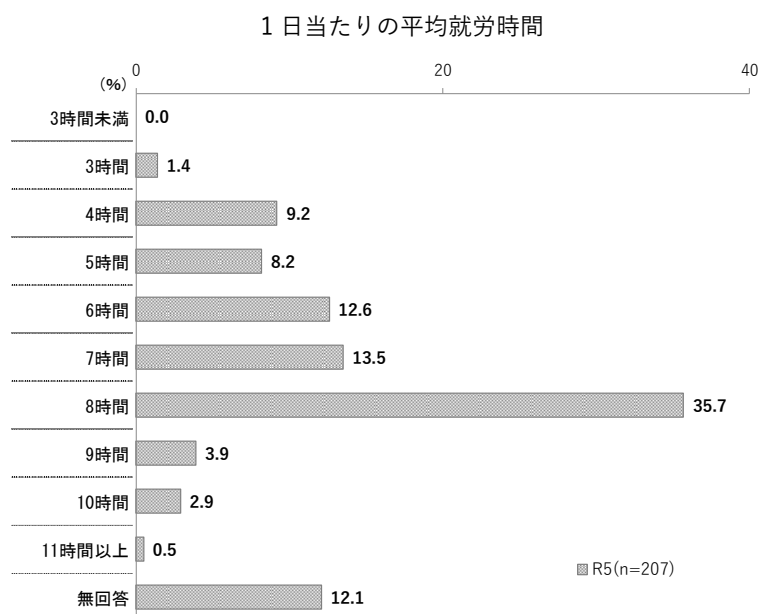
・週当たりの平均就労日数

週当たりの平均就労日数では、「5 日」が 72.5%と最も多く、次いで「6 日」(10.6%)、「4 日」(7.7%) などとなっている。



・1 日当たりの平均就労時間

1 日当たりの平均就労時間では、「8 時間」が 35.7%と最も多く、次いで「7 時間」(13.5%)、「6 時間」(12.6%)、「4 時間」(9.2%)、「5 時間」(8.2%) などとなっている。

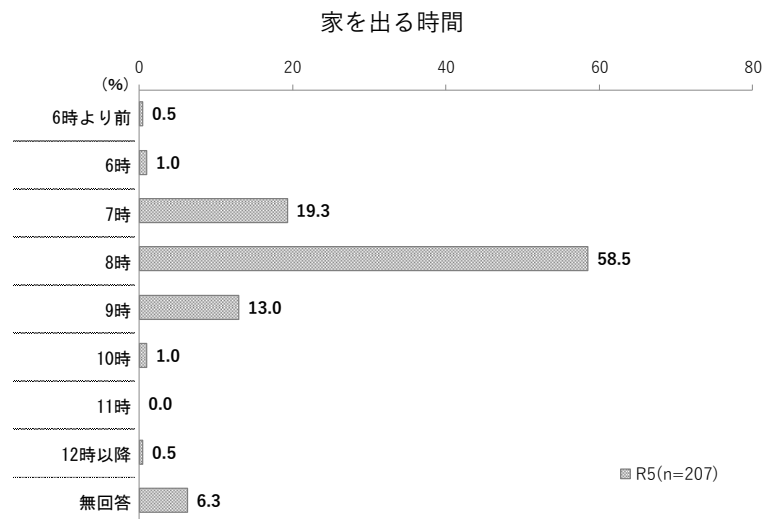


1-2. 母親の家を出る時間と帰宅時間

(1) -2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は必ず(例)08時～18時のように、24時間制でお答えください。(□内に数字を入力)

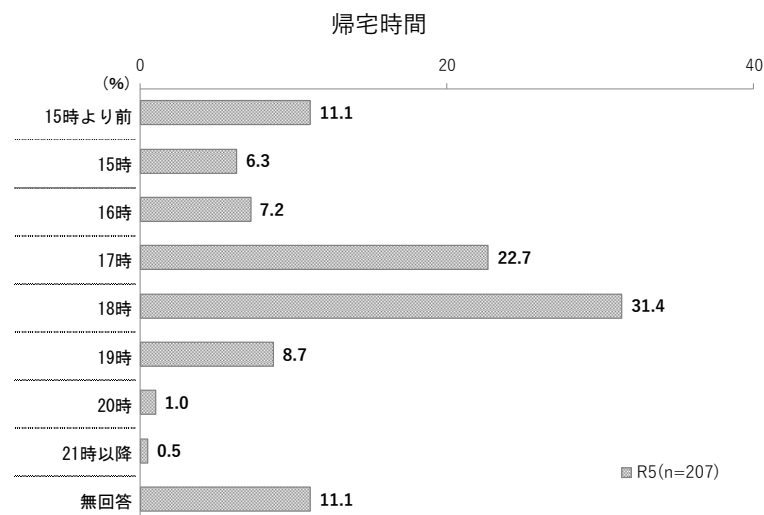
・家を出る時間

家を出る時間は、「8時」が58.5%と最も多く、次いで「7時」(19.3%)、「9時」(13.0%)などとなっている。



・帰宅時間

帰宅時間は、「18時」が31.4%と最も多く、次いで「17時」(22.7%)、「15時より前」(11.1%)、「19時」(8.7%)、「16時」(7.2%)、「15時」(6.3%)などとなっている。



2. 父親の就労状況

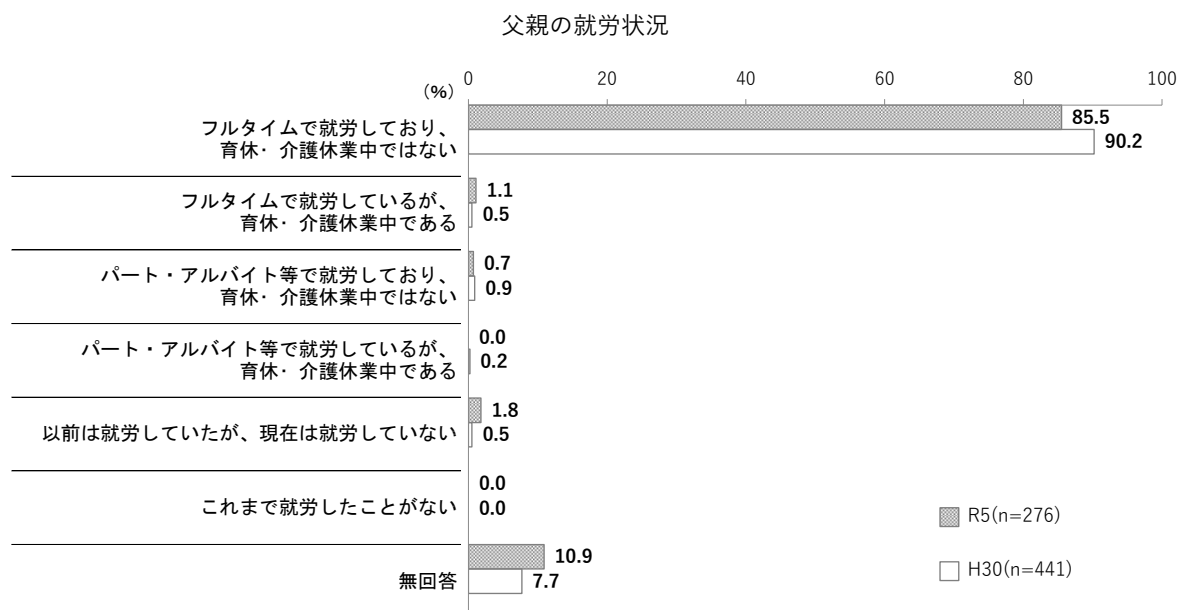
問 10 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、農業、家族従事者含む）についてお答えください。

（2）父親【母子家庭の場合、記入は不要です】

父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が 85.5%と最も多くなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が 5 ポイント低くなっている。



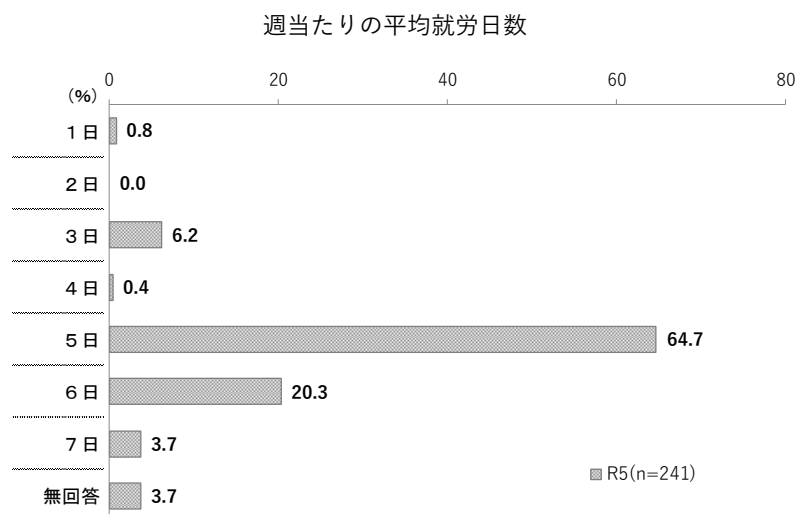
2-1. 父親の平均就労日数と平均就労時間

問 10 (2) -1～(2) -2 は問 10 (2) で「1～4. (父親が就労している)」に○をつけた方にうかがいます。

(2) -1 週当たりの「就労日数」、1 日当たりの「就労時間 (残業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(□内に数字を入力)

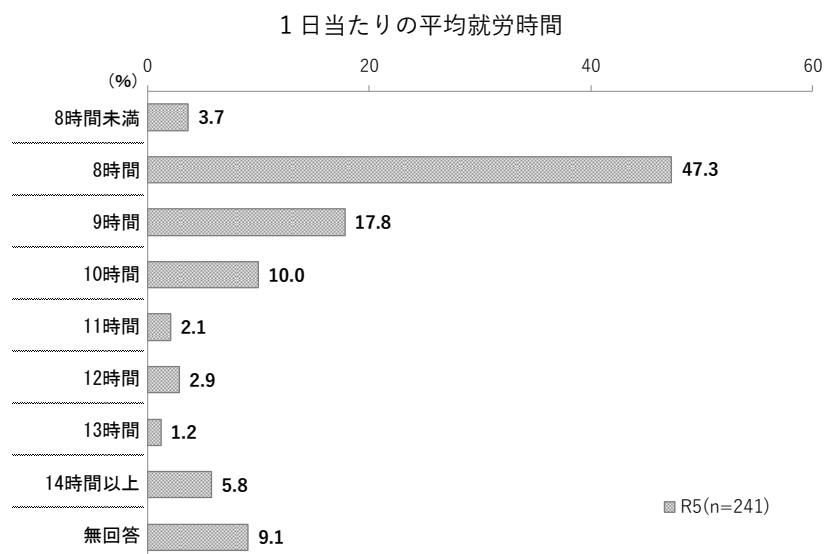
・週当たりの平均就労日数

週当たりの平均就労日数は、「5 日」が 64.7%と最も多く、次いで「6 日」(20.3%)、「3 日」(6.2%) などとなっている。



・1 日当たりの平均就労時間

1 日当たりの平均就労時間は、「8 時間」が 47.3%と最も多く、次いで「9 時間」(17.8%)、「10 時間」(10.0%)、「14 時間以上」(5.8%) などとなっている。

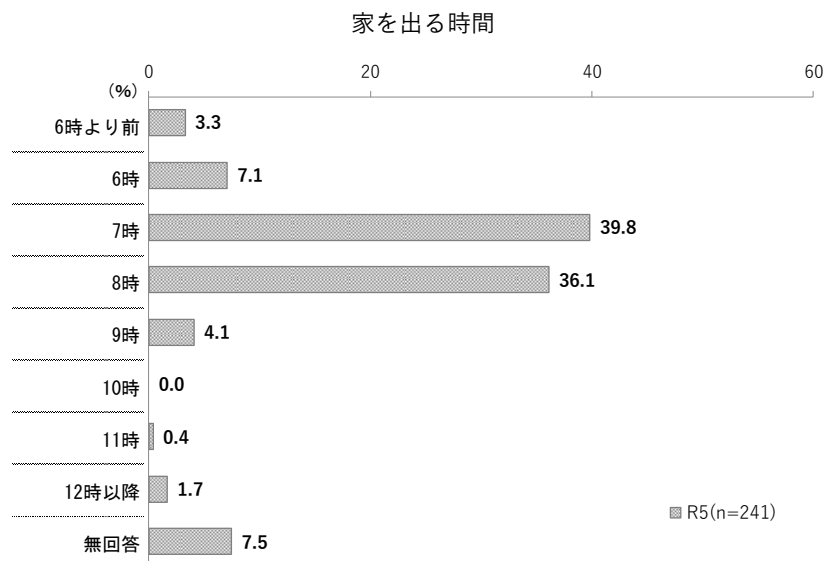


2-2. 父親の家を出る時間と帰宅時間

(2) -2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は必ず(例)08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。(□内に数字を記入、数字は一桁に一字)

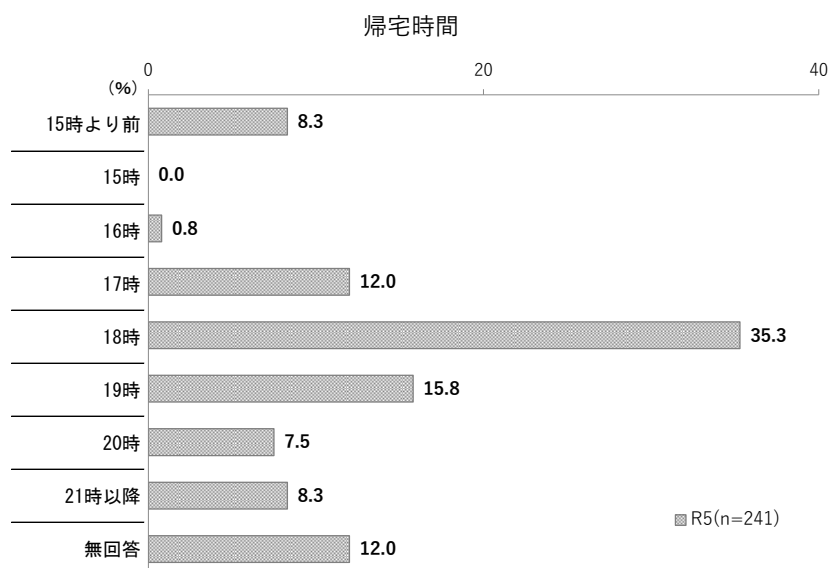
・家を出る時間

家を出る時間は、「7 時」が 39.8%と最も多く、次いで「8 時」(36.1%)、「6 時」(7.1%) などとなっている。



・帰宅時間

帰宅時間は、「18 時」が 35.3%と最も多く、次いで「19 時」(15.8%)、「17 時」(12.0%)、「15 時より前」「21 時以降」がともに 8.3%、「20 時」(7.5%) などとなっている。



3. 母親のフルタイムへの就労希望

問 10 (1) で「3～4. (母親がパート・アルバイト等で就労している)」に○をつけた方にうかがいます。

問 11 フルタイム (1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労) への転換希望はありますか。

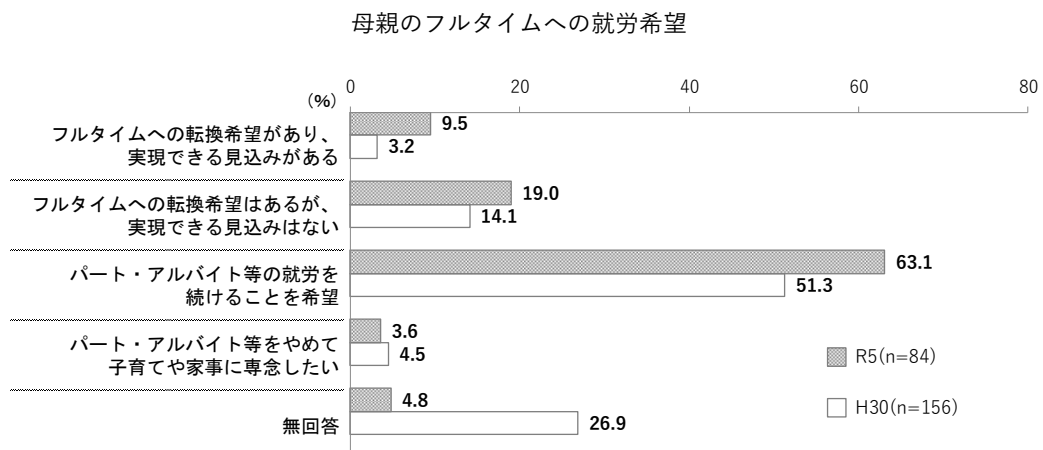
(1) 母親

母親のフルタイムへの就労希望は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 63.1%と最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(19.0%)、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」(9.5%) などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」で 12 ポイント、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがある」で 6 ポイント、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」で 5 ポイント高くなっている。

『就労希望』の増加傾向がみられる。



4. 父親のフルタイムへの就労希望

問 10（２）で「3～4.（父親がパート・アルバイト等で就労している）」に○をつけた方にうかがいます。

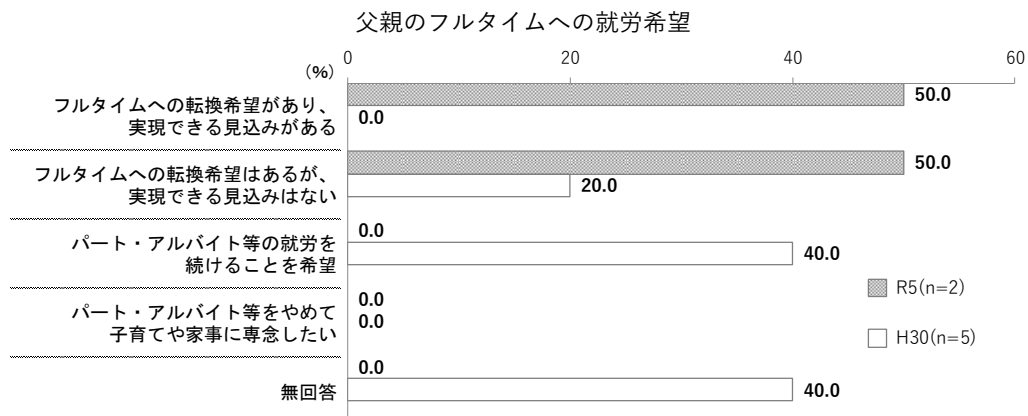
問 11 フルタイム（１週５日程度・１日８時間程度の就労）への転換希望はありますか。

（２）父親

父親のフルタイムへの就労希望は該当者が２名で、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（各１名）となっている。

【平成 30 年度との比較】

該当者が令和 5 年度 2 名、平成 30 年度 5 名なので比較は省略する。



5. 母親の就労希望

問 10 (1) で「5～6. (母親が就労していない)」に○をつけた方にうかがいます。

問 12 就労したいという希望はありますか。(該当する□内には数字を入力)

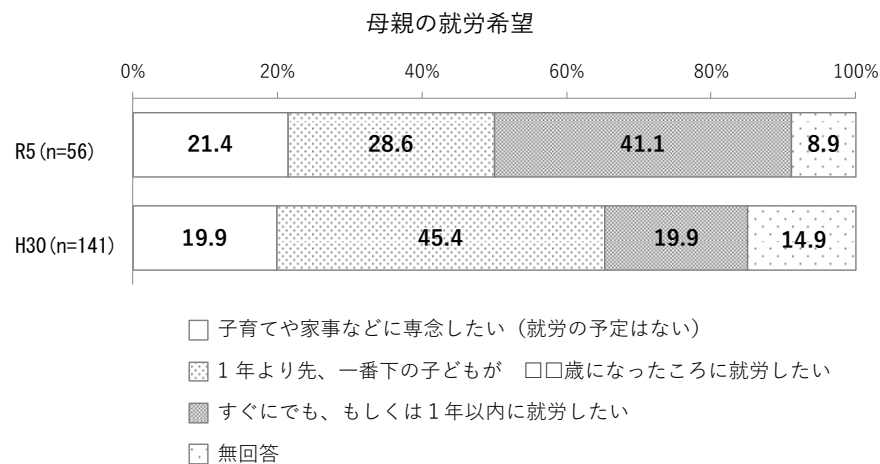
(1) 母親

母親の就労希望は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が41.1%と最も多く、次いで「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」(28.6%)、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」(21.4%)となっている。

【平成30年度との比較】

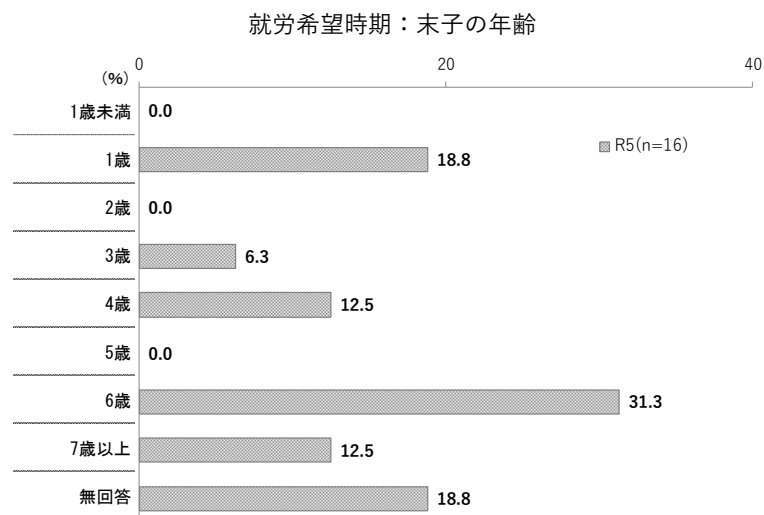
平成30年度と比べると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」で21ポイント高くなっている。

一方、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」で17ポイント低くなっている。



・就労希望時期：末子の年齢

就労希望時期の末子の年齢は、「6歳」が31.3%と最も多く、次いで「1歳」(18.8%)、「7歳以上」「4歳」がともに12.5%、「3歳」(6.3%)となっている。



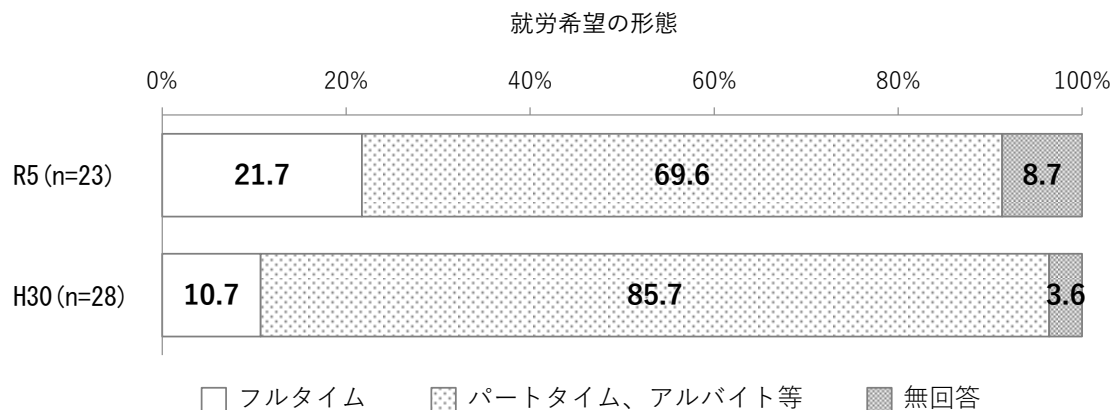
・就労希望の形態

就労希望の形態は、「パートタイム、アルバイト等」が 69.6%と最も多く、次いで「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」（21.7%）となっている。

【平成30年度との比較】

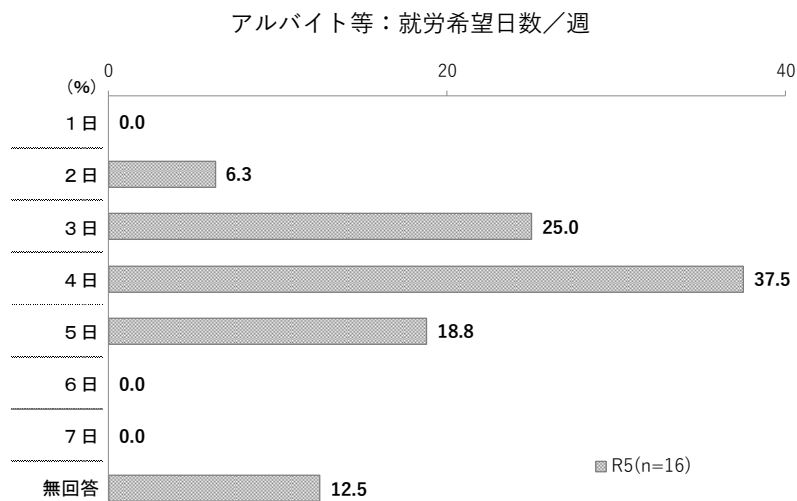
平成30年度と比べると、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」で11ポイント高くなっている。

一方、「パートタイム、アルバイト等」で16ポイント低くなっている。



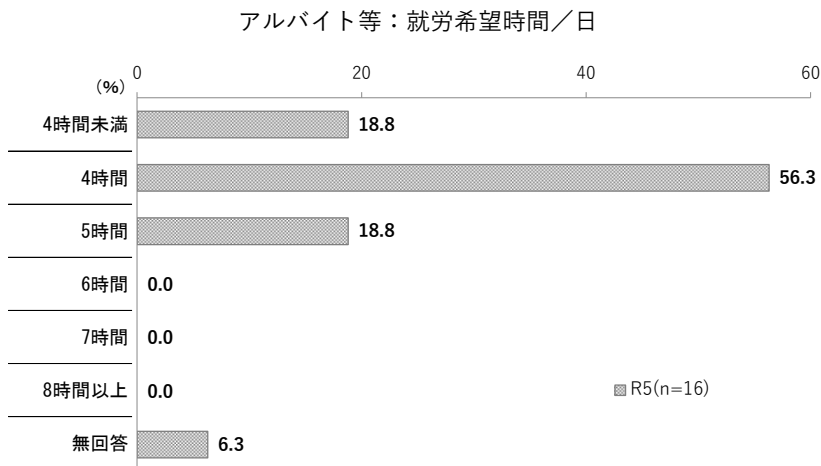
・母親：アルバイト等：就労希望日数／週

週当たりの就労希望日数は、「4日」が 37.5%と最も多く、次いで「3日」（25.0%）、「5日」（18.8%）、「2日」（6.3%）となっている。



・母親：アルバイト等：就労希望時間／日

1 日当たりの就労希望時間は、「4 時間」が 56.3%と最も多く、次いで「4 時間未満」「5 時間」がともに 18.8%となっている。



6. 父親の就労希望

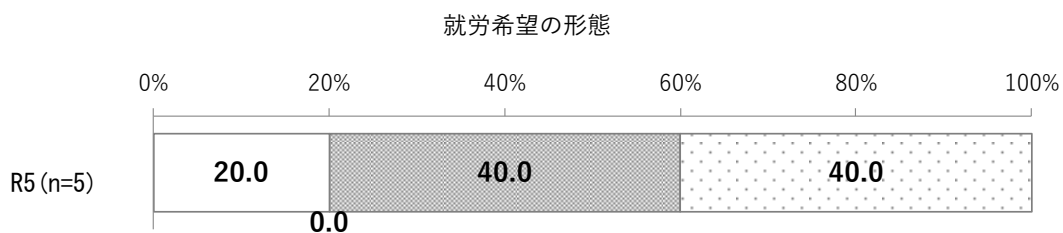
問 10（2）で「5～6.（父親が就労していない）」に○をつけた方にうかがいます。

（2）父親

父親の就労希望は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（40.0%）、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」（20.0%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

※平成 30 年度回答者なし



H30(n=0) ※該当なし

- ☐ 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
- ☒ 1年より先、一番下の子どもが □□歳になったころに就労したい
- ☒ すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- ☐ 無回答

・就労希望時期：末子の年齢

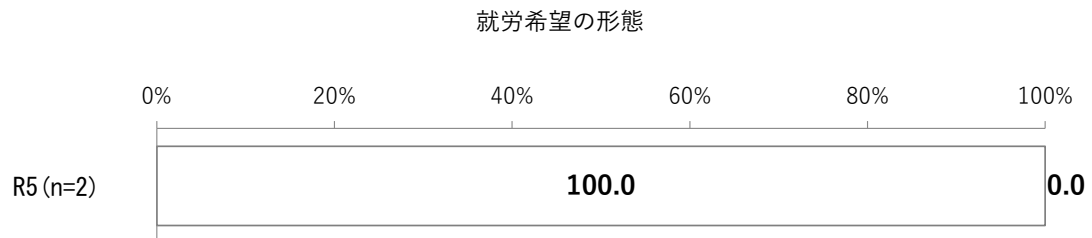
※令和 5 年、平成 30 年度ともに回答者なし

・就労希望の形態

就労希望の形態は該当者が2名で、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」（2名とも）となっている。

【平成30年度との比較】

※平成30年度回答者なし



H30 (n=0) ※該当なし

・父親：アルバイト等：就労希望日数／週

※令和5年、平成30年度ともに回答者なし

・父親：アルバイト等：就労希望時間／日

※令和5年、平成30年度ともに回答者なし

5 妊娠・出産・子育てと就労の継続について

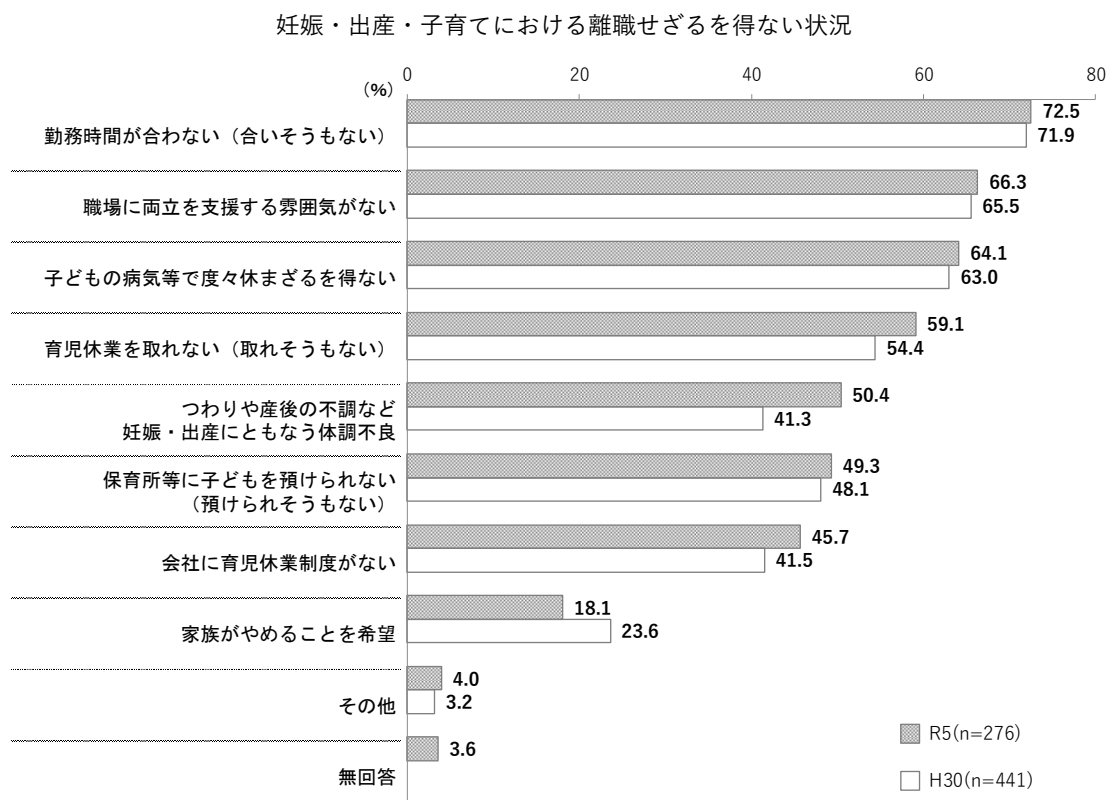
1. 妊娠・出産・子育てにおける離職せざるを得ない状況

問 13 妊娠・出産・子育ての際に、離職せざるを得なくなるのは、どのような場合だと思いますか。（あてはまる番号すべて）

妊娠・出産・子育てにおける離職せざるを得ない状況は、「勤務時間が合わない（合いそうもない）」が 72.5%と最も多く、次いで「職場に両立を支援する雰囲気がない」（66.3%）、「子どもの病気等で度々休まざるを得ない」（64.1%）、「育児休業を取れない（取れそうもない）」（59.1%）、「つわりや産後の不調など妊娠・出産にともなう体調不良」（50.4%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「家族がやめる事を希望」以外の項目で高くなっており、「つわりや産後の不調など妊娠・出産にともなう体調不良」で 9 ポイント、「育児休業を取れない（取れそうもない）」で 5 ポイント高くなっている。



2. 離職をせずに就労できる条件

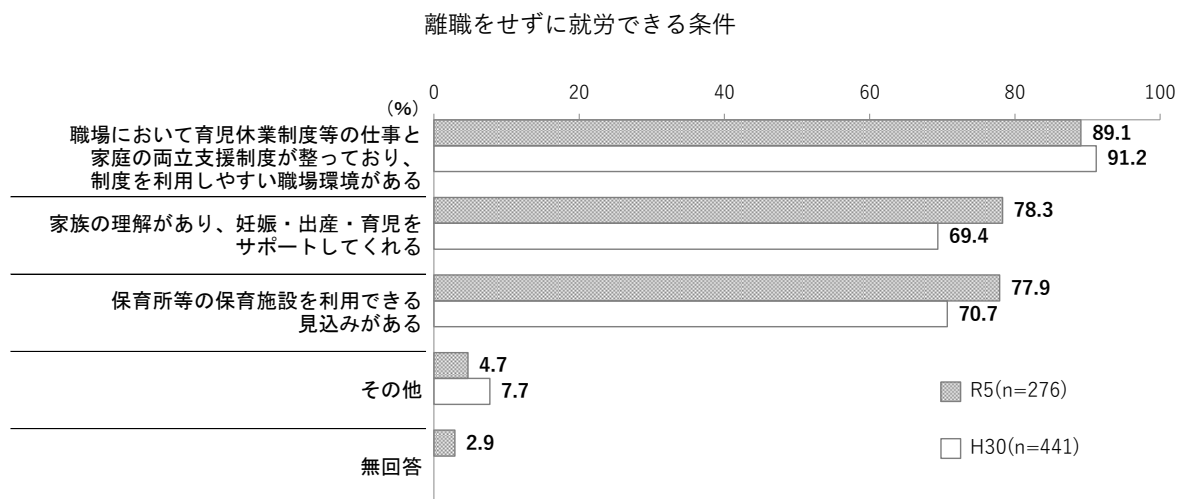
問 14 どのような環境が整っていたら、離職せず、就労を継続できると思いますか。

(あてはまる番号すべて)

離職をせずに就労できる条件については、「職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整っており、制度を利用しやすい職場環境がある」が 89.1%と最も多く、次いで「家族の理解があり、妊娠・出産・育児をサポートしてくれる」(78.3%)、「保育所等の保育施設を利用できる見込みがある」(77.9%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「家族の理解があり、妊娠・出産・育児をサポートしてくれる」で 9 ポイント、「保育所等の保育施設を利用できる見込みがある」で 7 ポイント高くなっている。



6 子どもの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

1. 教育・保育事業の利用の有無

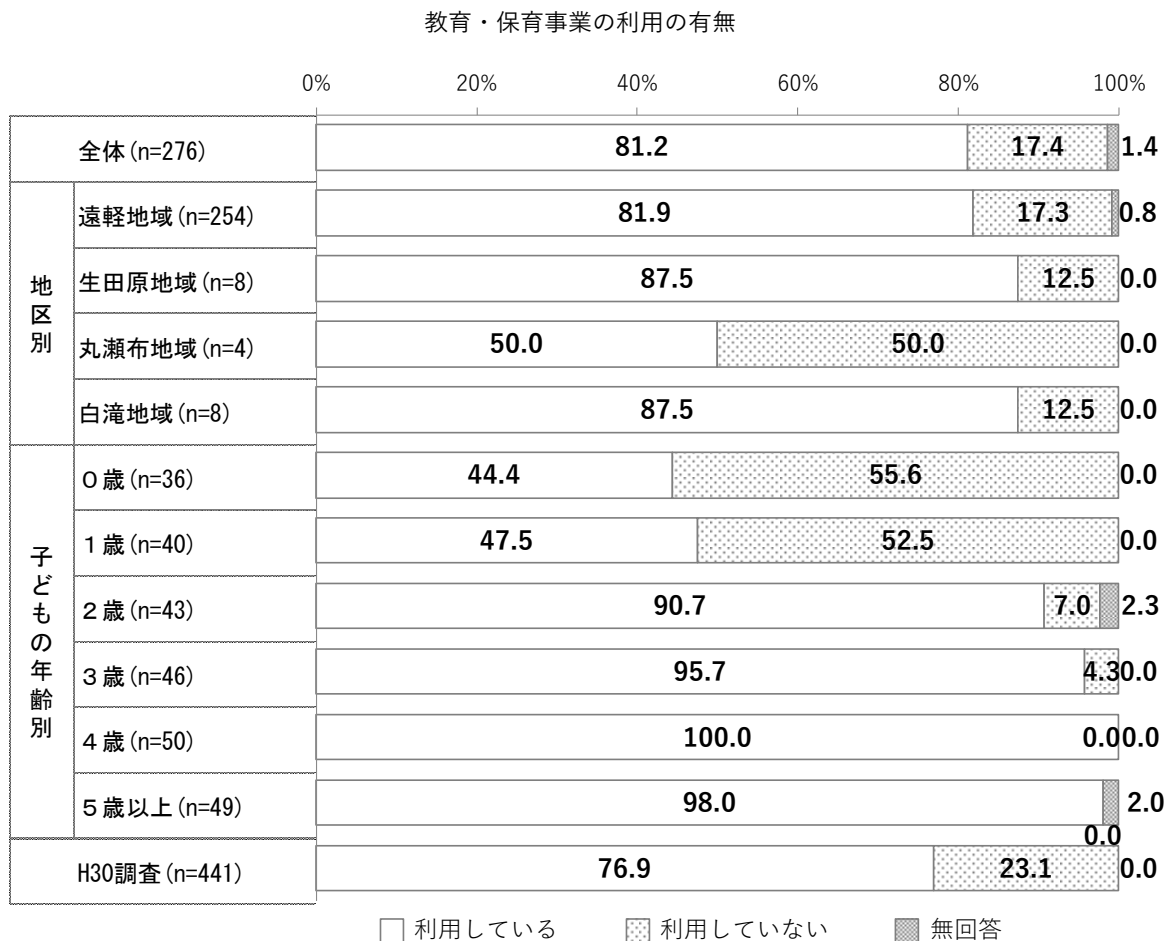
問 15 宛名のお子さんは現在、認定こども園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。

教育・保育事業の利用の有無を地区別にみると、丸瀬布地域を除き「利用している」が8割以上となっている。

子どもの年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「利用している」割合が増加傾向にある。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「利用している」割合はやや増加している。



1-1. 利用している教育・保育事業

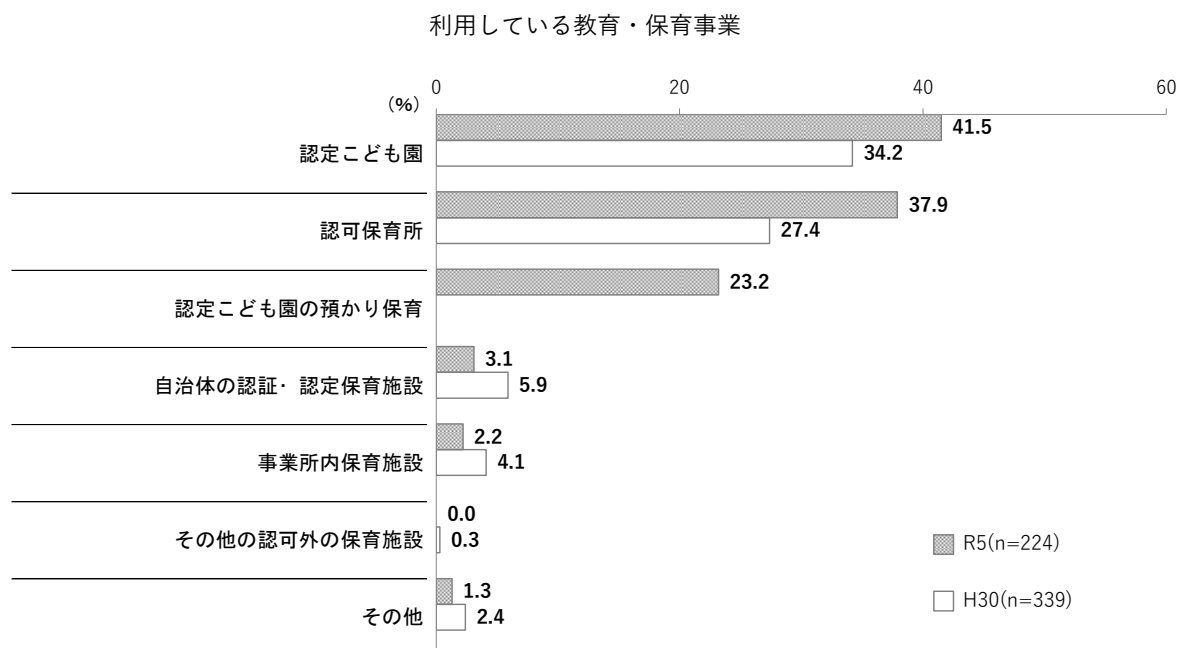
問 15-1～15-4 は問 15 で「1.利用している」に○をした方におうかがいします。

問 15-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（あてはまる番号すべて）

利用している教育・保育事業については、「認定こども園」が 41.5%と最も多く、次いで「認可保育所」（37.9%）、「認定こども園の預かり保育」（23.2%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「認可保育所」は 11 ポイント高くなっている。



※平成 30 年度は「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」の選択肢あり、また「認定こども園の預かり保育」はなし

1-2. 教育・保育にかかる負担が無償（または上限ありの補助）となった場合の利用変更の意向

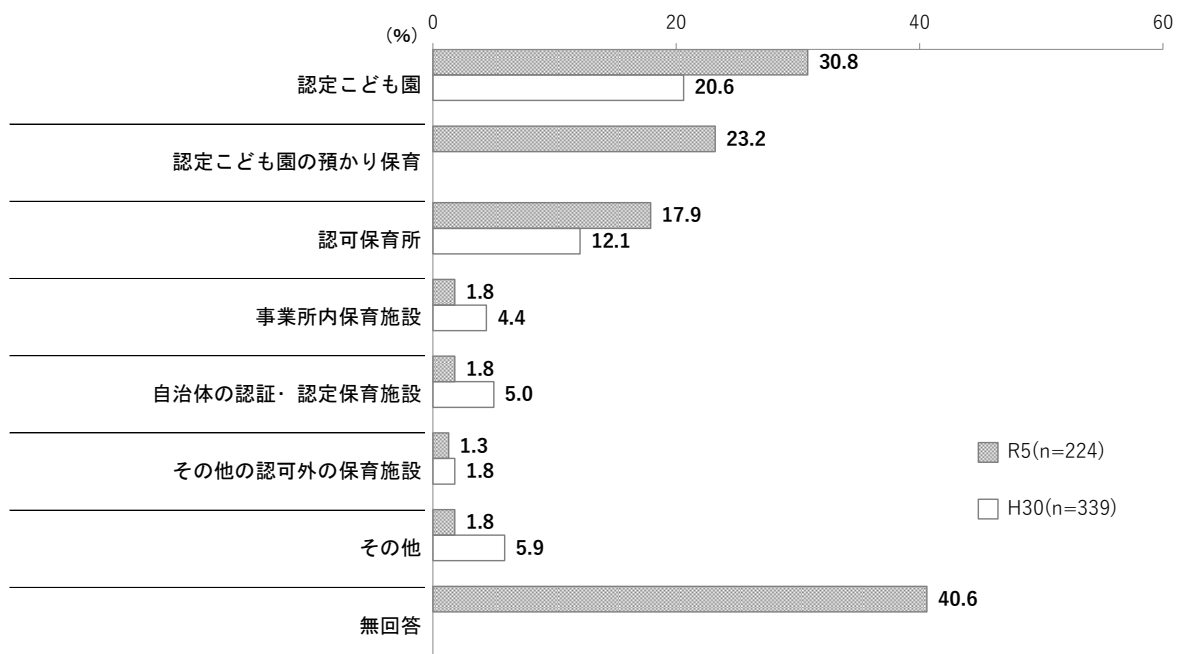
問 15-2 教育・保育にかかる負担が無償（または上限ありの補助）となった場合、現在利用しているものから利用変更したいと思うものはありますか。（あてはまる番号すべて）

教育・保育にかかる負担が無償（または上限ありの補助）となった場合の利用変更の意向については、「認定こども園」が 30.8%と最も多く、次いで「認定こども園の預かり保育」（23.2%）、「認可保育所」（17.9%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「認定こども園」は 10 ポイント、「認可保育所」が 6 ポイント高くなっている。

教育・保育にかかる負担が無償（または上限ありの補助）となった場合の利用変更の意向



※平成 30 年度は「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」の選択肢あり、また「認定こども園の預かり保育」はなし

1-3. 教育・保育事業の利用状況・利用希望

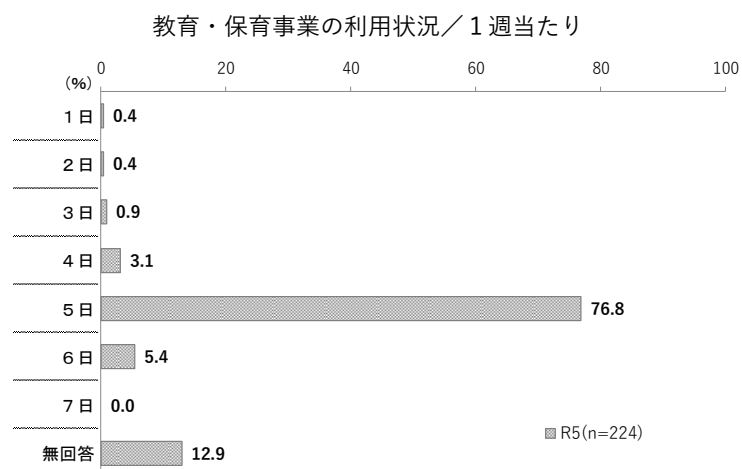
問 15-3 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1 週当たり何日、1 日当たり何時間（何時から何時まで）か、お答えください。時間は必ず（例）09 時～18 時のように 24 時間制でご記入ください。（□内に数字を入力）

（1）現在：定期的に利用している教育・保育事業

（1）現在

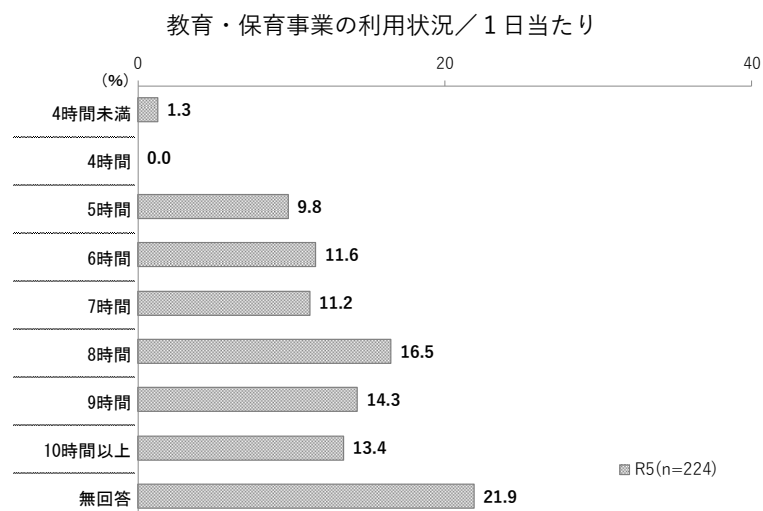
・教育・保育事業の利用状況／1 週当たり

1 週当たりの利用は、「5 日」が 76.8%と最も多く、次いで「6 日」（5.4%）などとなっている。



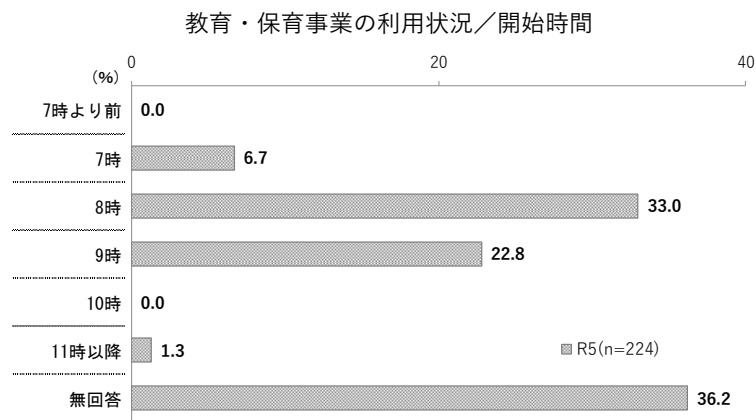
・教育・保育事業の利用状況／1 日当たり

1 日当たりの利用は、「8 時間」が 16.5%と最も多く、次いで「9 時間」（14.3%）、「10 時間以上」（13.4%）、「6 時間」（11.6%）、「7 時間」（11.2%）、「5 時間」（9.8%）などとなっている。



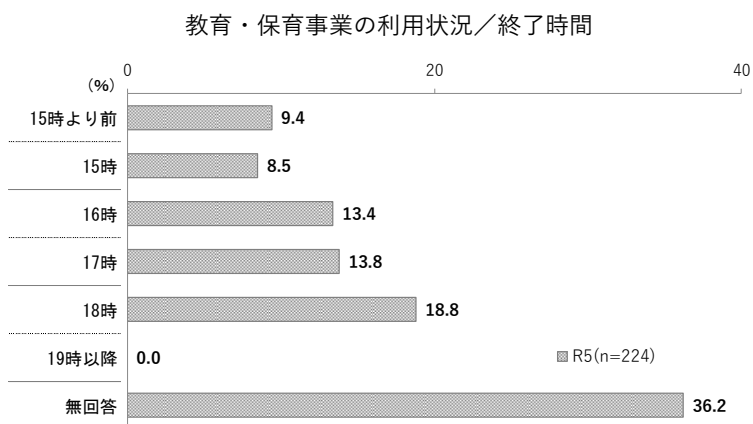
・教育・保育事業の利用状況／開始時間

利用開始時間は、「8時」が33.0%と最も多く、次いで「9時」(22.8%)、「7時」(6.7%)などとなっている。



・教育・保育事業の利用状況／終了時間

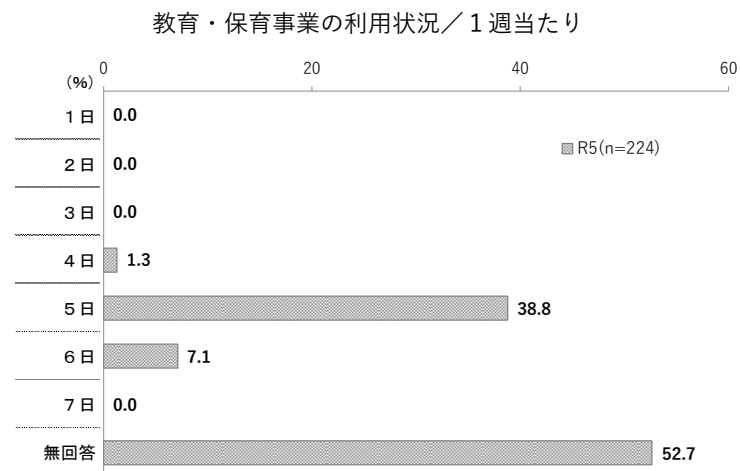
利用終了時間は、「18時」が18.8%と最も多く、次いで「17時」(13.8%)、「16時」(13.4%)、「15時より前」(9.4%)、「15時」(8.5%)などとなっている。



(2) 希望

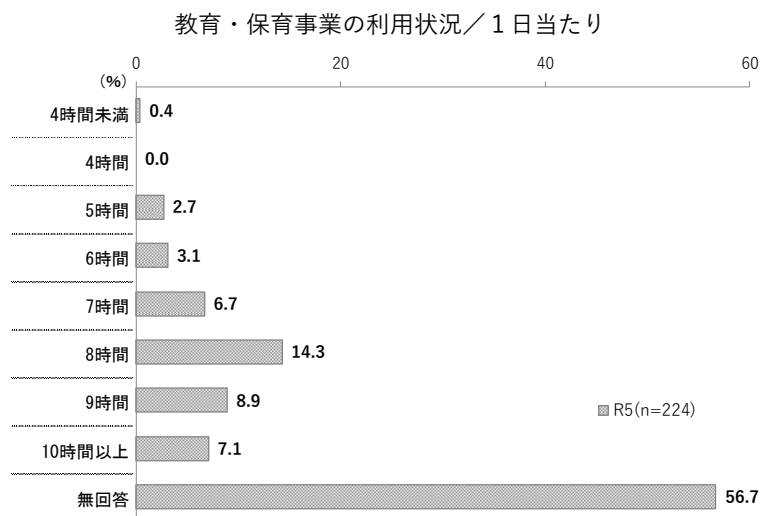
・教育・保育事業の利用状況／1週当たり

1週当たりの利用は、「5日」が38.8%と最も多く、次いで「6日」(7.1%)などとなっている。



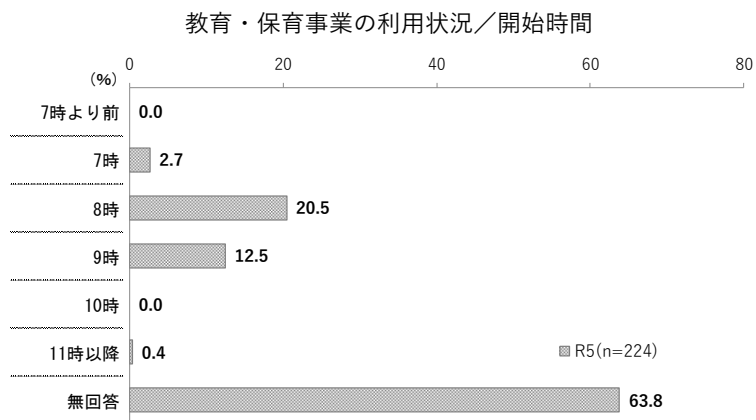
・教育・保育事業の利用状況／1日当たり

1日当たりの利用は、「8時間」が14.3%と最も多く、次いで「9時間」(8.9%)、「10時間以上」(7.1%)、「7時間」(6.7%)などとなっている。



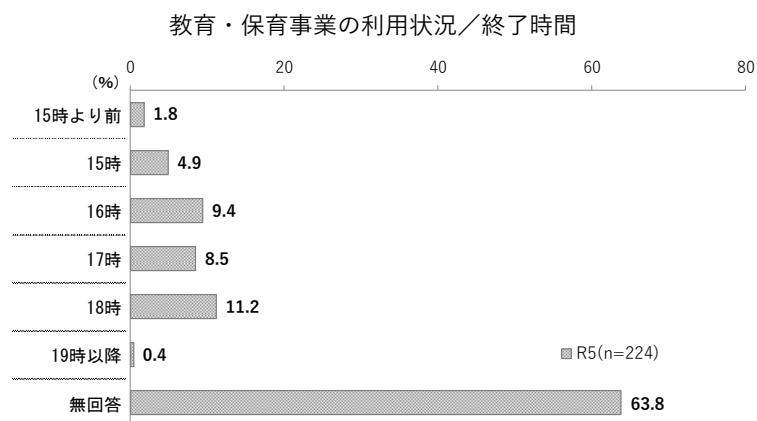
・教育・保育事業の利用状況／開始時間

利用開始時間は、「8時」が20.5%と最も多く、次いで「9時」(12.5%) などとなっている。



・教育・保育事業の利用状況／終了時間

利用終了時間は、「18時」が11.2%と最も多く、次いで「16時」(9.4%)、「17時」(8.5%) などとなっている。



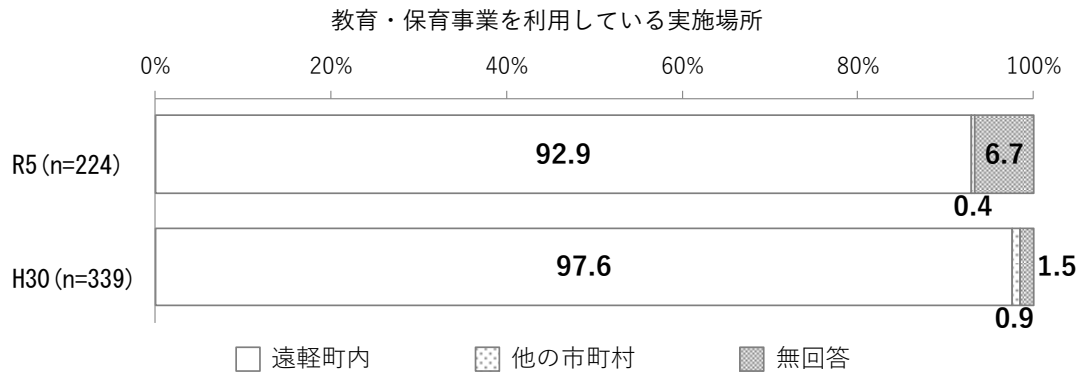
1-4. 教育・保育事業を利用している実施場所

問 15-4 現在、利用している教育・保育事業の実施場所をお答えください。

現在、教育・保育事業を利用している実施場所は、「遠軽町内」が 92.9%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「遠軽町内」が 5 ポイント低くなっている。



1-5. 教育・保育事業を利用していない理由

問 15 で「2.利用していない」に○をした方におうかがいします。

問 15-5 利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべて、該当する□内には数字を入力）

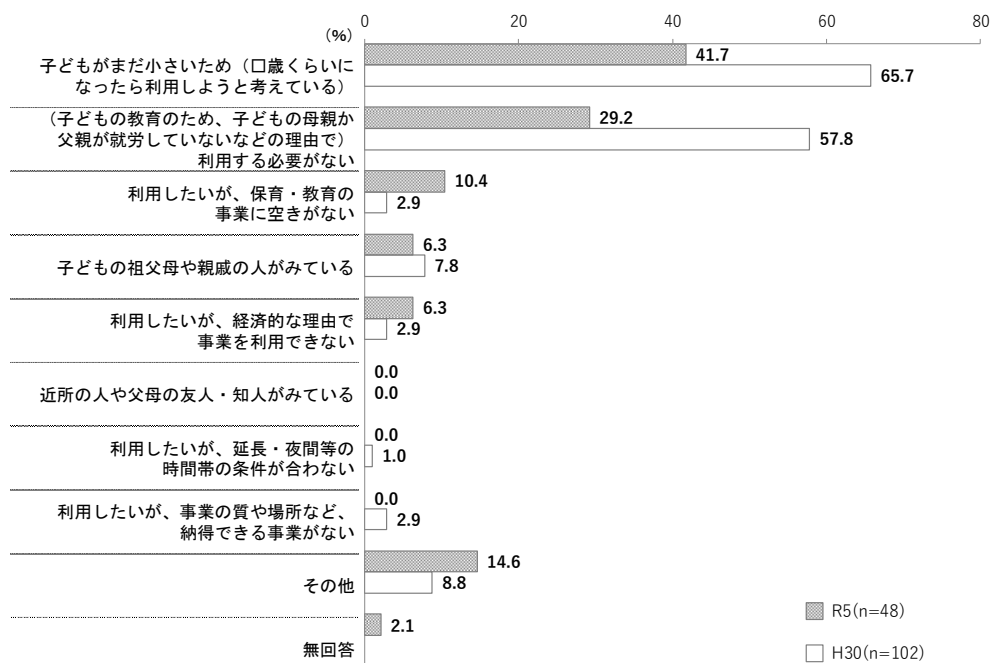
教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」が 41.7%と最も多く、次いで「(子どもの教育のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がある」（29.2%）、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」（10.4%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」で 7 ポイント高くなっている。

一方、「(子どもの教育のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がある」で 29 ポイント、「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」で 24 ポイント低下している。

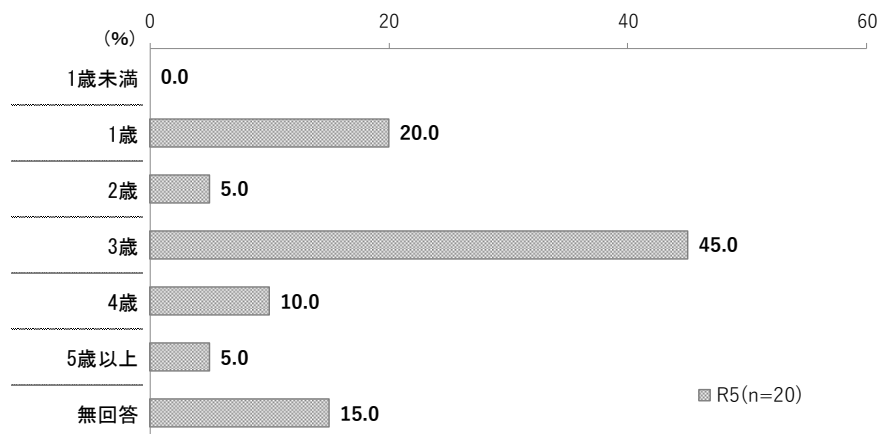
教育・保育事業を利用していない理由



・利用希望年齢

利用希望年齢は、「3歳」が45.0%と最も多く、次いで「1歳」(20.0%)、「4歳」(10.0%)、「2歳」「5歳以上」がともに5.0%などとなっている。

利用希望年齢



2. 利用したいと考えている事業

問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。（あてはまる番号すべて）

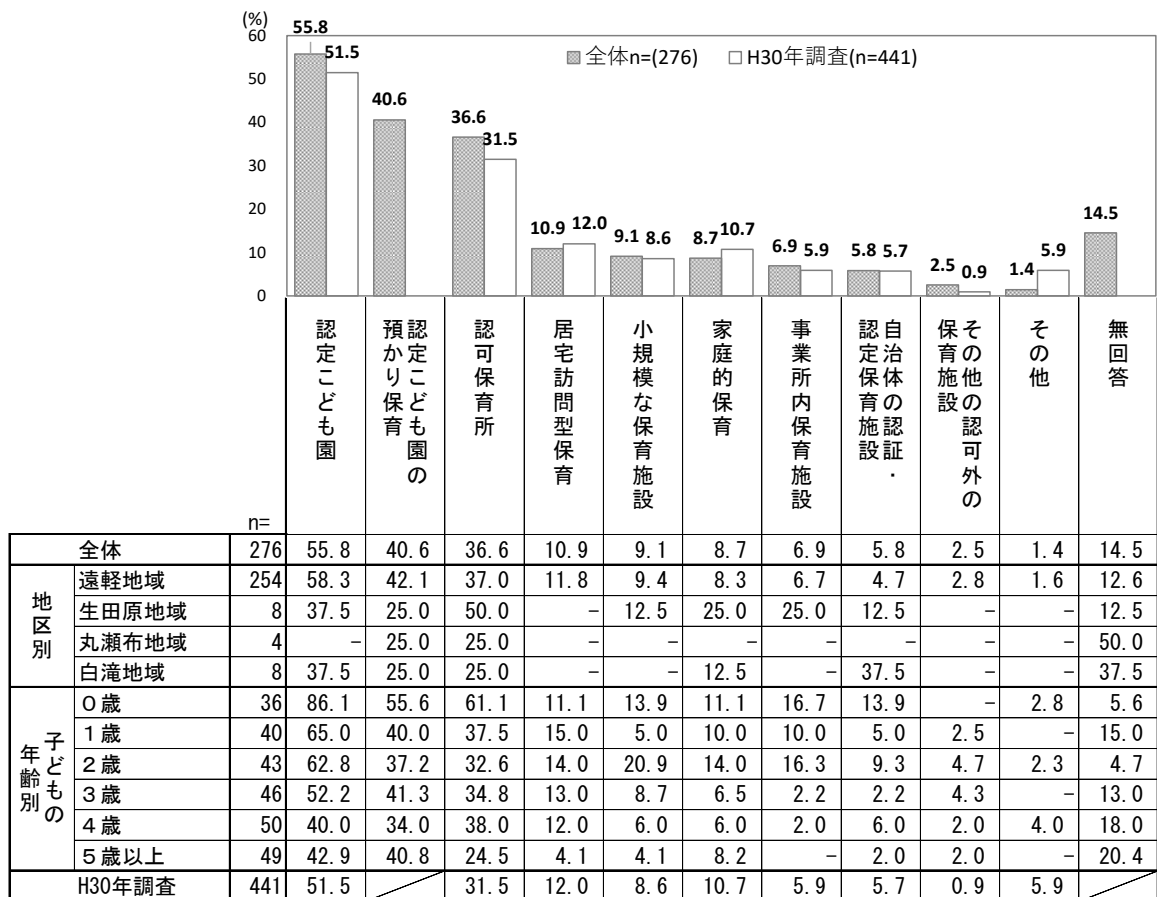
利用したいと考えている事業は「認定こども園」が 55.8%と最も多く、次いで「認定こども園の預かり保育」(40.6%)、「認可保育所」(36.6%) などとなっている。

子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『保育事業』の利用は減少傾向がみられる。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「認可保育所」で 5 ポイント高くなっている。

利用したいと考えている事業



※平成 30 年度は「幼稚園」の選択肢あり、また「認定こども園の預かり保育」はなし

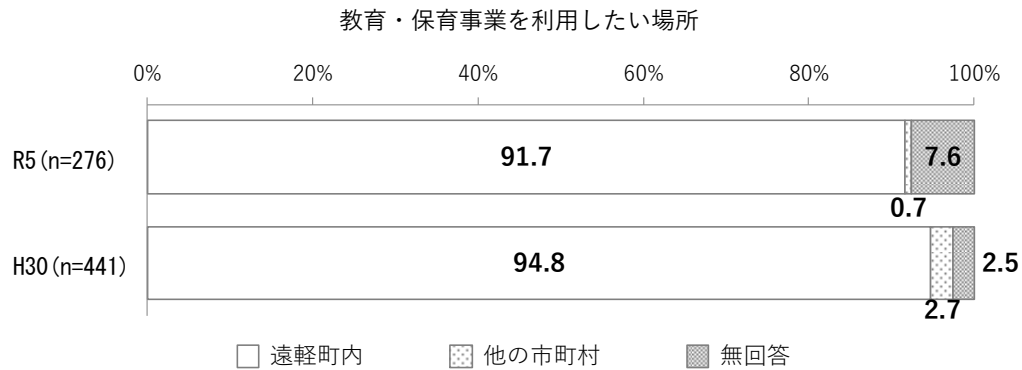
2-1. 教育・保育事業を利用したい場所

問 16-1 教育・保育事業を利用したい場所をお答えください。

教育・保育事業を利用したい実施場所は、「遠軽町内」が 91.7%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、大きな違いは見られない。



7 地域の子育て支援事業の利用状況

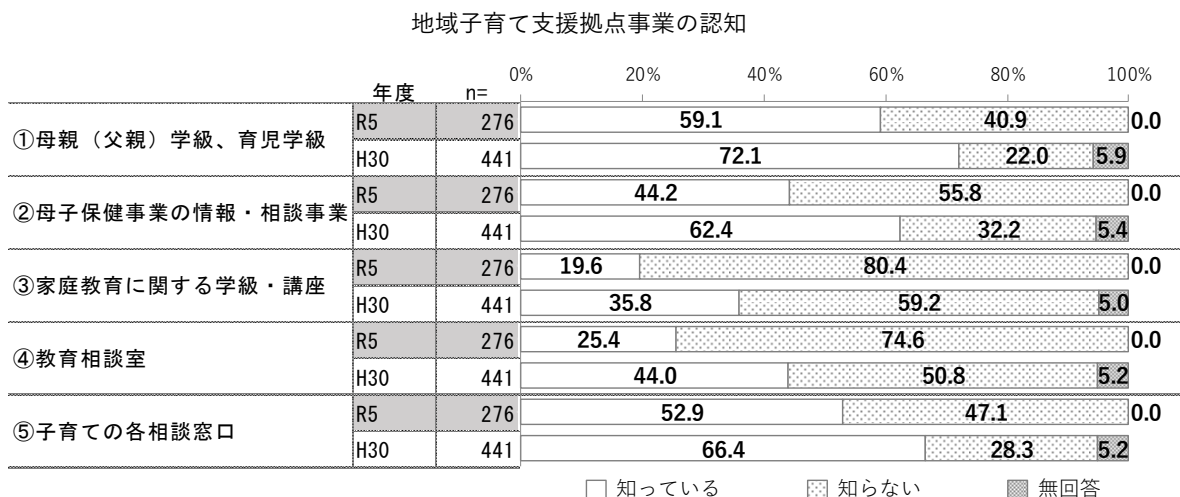
1. 地域子育て支援拠点事業の認知

問 17 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

地域子育て支援拠点事業の認知は、「母親（父親）学級、育児学級」が 59.1%と最も多く、次いで「子育ての各相談窓口」（52.9%）、「母子保健事業の情報・相談事業」（44.2%）、「教育相談室」（25.4%）、「家庭教育に関する学級・講座」（19.6%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、認知率は「教育相談室」で 19 ポイント、「母子保健事業の情報・相談事業」で 18 ポイント、「家庭教育に関する学級・講座」で 16 ポイント、「子育ての各相談窓口」で 14 ポイント、「母親（父親）学級、育児学級」で 13 ポイント低くなっている。

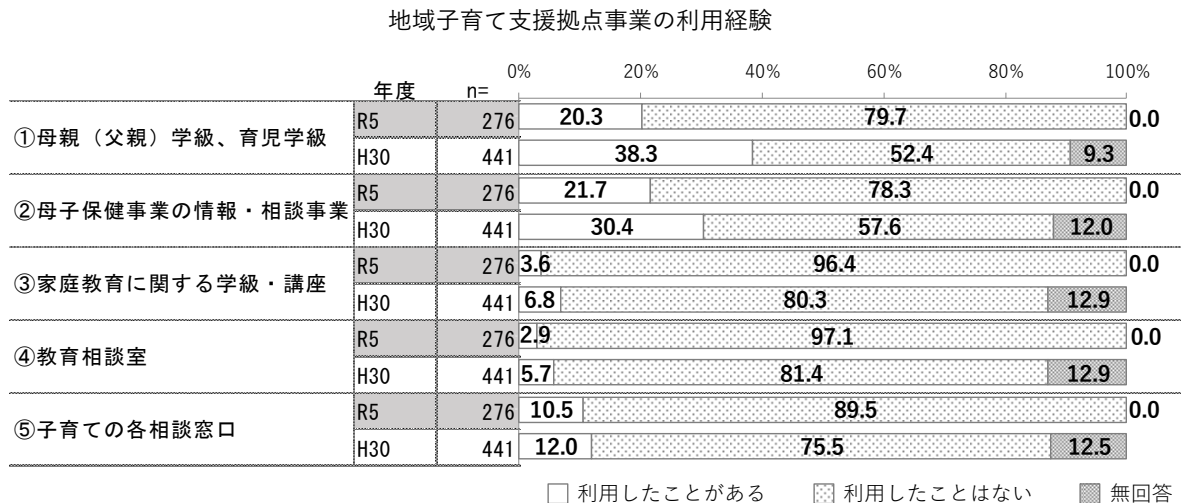


2. 地域子育て支援拠点事業の利用経験

利用経験がある事業は、「母子保健事業の情報・相談事業」が 21.7%と最も多く、次いで「母親（父親）学級、育児学級」（20.3%）、「子育ての各相談窓口」（10.5%）、「家庭教育に関する学級・講座」（3.6%）、「教育相談室」（2.9%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、利用経験は「母親（父親）学級、育児学級」で 18 ポイント、「母子保健事業の情報・相談事業」で 9 ポイント低くなっている。

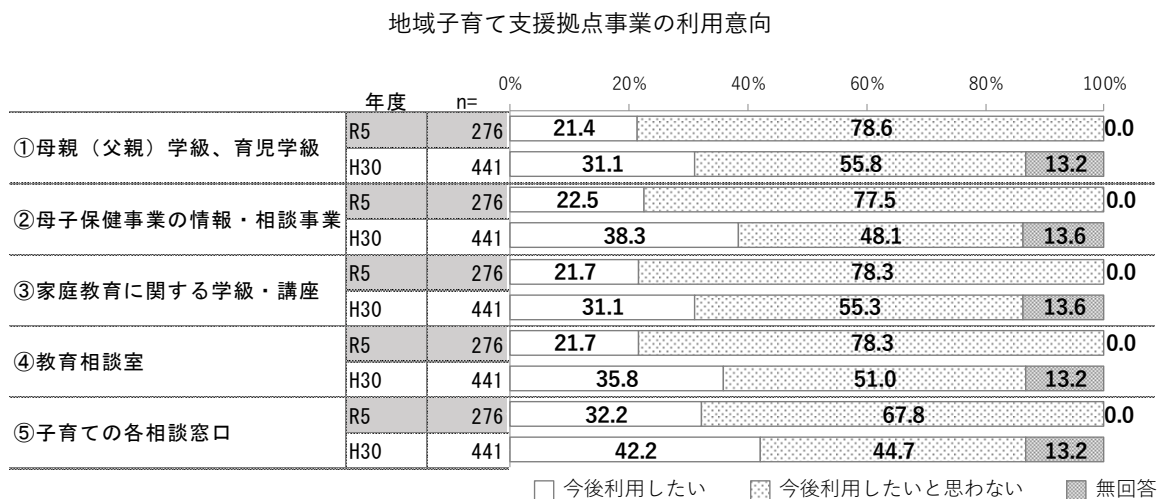


3. 地域子育て支援拠点事業の利用意向

今後利用したい事業は、「子育ての各相談窓口」が 32.2%と最も多く、次いで「母子保健事業の情報・相談事業」（22.5%）、「家庭教育に関する学級・講座」「教育相談室」がともに 21.7%、「母親（父親）学級、育児学級」（21.4%）、となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、利用意向は、「母子保健事業の情報・相談事業」で 16 ポイント、「教育相談室」で 14 ポイント、「母親（父親）学級、育児学級」で 10 ポイント、「家庭教育に関する学級・講座」で 9 ポイント、「子育ての各相談窓口」で 10 ポイント低くなっている。



8 土曜・休日や長期休み中の教育・保育事業の利用希望について

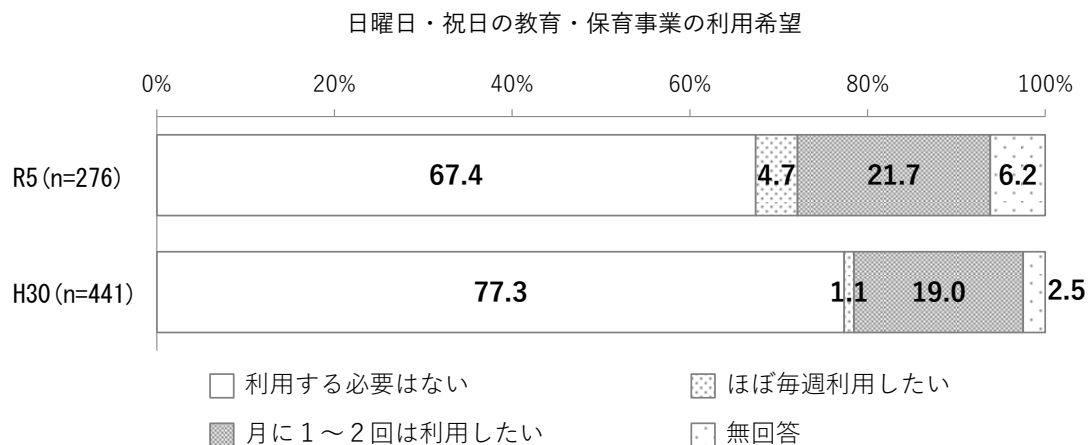
1. 日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望

問 18 宛名のお子さんについて、日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。また、希望がある場合は、利用したい時間帯をお答えください。時間は（例）09 時～18 時のように 24 時間制でお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生することもあります。（□内に数字を入力）

日曜日・祝日の教育・保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」が 67.4%と最も多く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」（21.7%）、「ほぼ毎週利用したい」（4.7%）となっている。

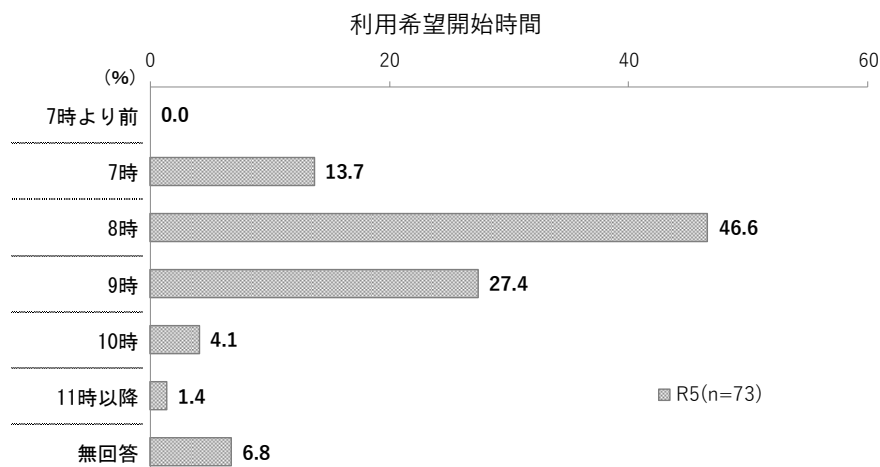
【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「利用する必要はない」は 10 ポイント低くなっている。



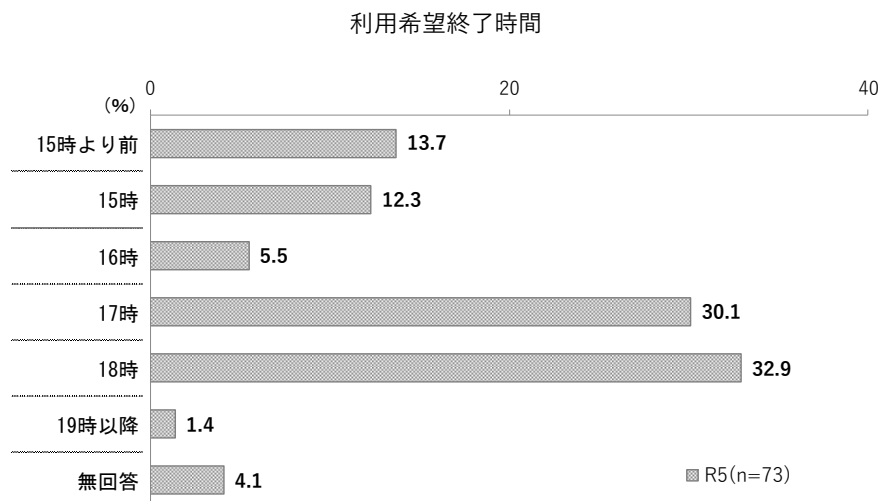
・利用希望開始時間

利用希望開始時間は、「8 時」が 46.6%と最も多く、次いで「9 時」（27.4%）、「7 時」（13.7%）などとなっている。



・利用希望終了時間

利用希望終了時間は、「18 時」が 32.9%と最も多く、次いで「17 時」(30.1%)、「15 時より前」(13.7%)、「15 時」(12.3%)、「16 時」(5.5%) などとなっている。



1-2. 日曜日・祝日の教育・保育事業をたまに利用したい理由

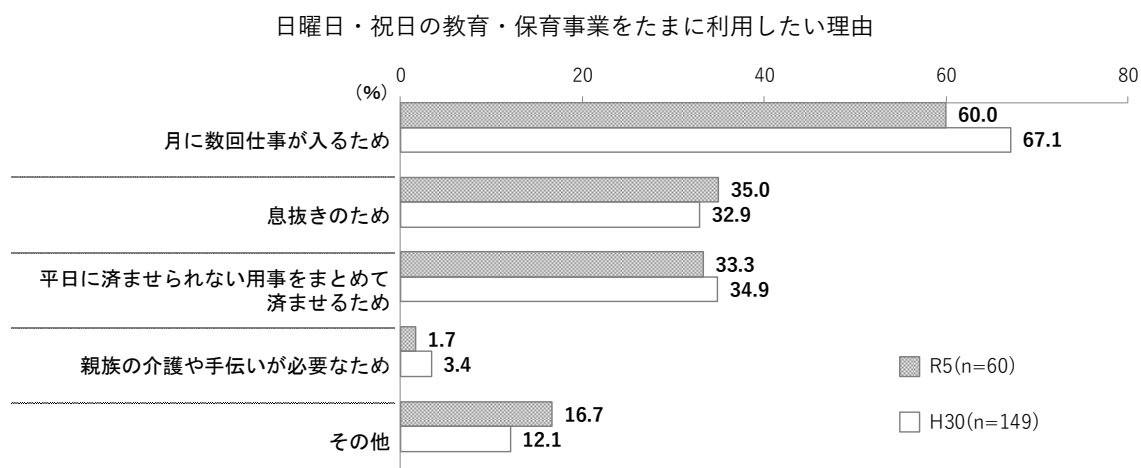
問 18 で「3.月に 1～2 回は利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問 18- 1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまる番号すべて)

日曜日・祝日の教育・保育事業をたまに利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」が 60.0%と最も多く、次いで「息抜きのため」(35.0%)、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(33.3%)、「親族の介護や手伝いが必要なため」(1.7%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「月に数回仕事が入るため」で 7 ポイント低くなっている。



2. 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

問 15-1 で「1.認定こども園の預かり保育」もしくは「3.認定こども園」に○をつけた方にうかがいます。

問 19 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。また、希望がある場合は、利用したい時間帯をお答えください。時間は(例)09 時～18 時のように 24 時間制でお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。(□内に数字を入力)

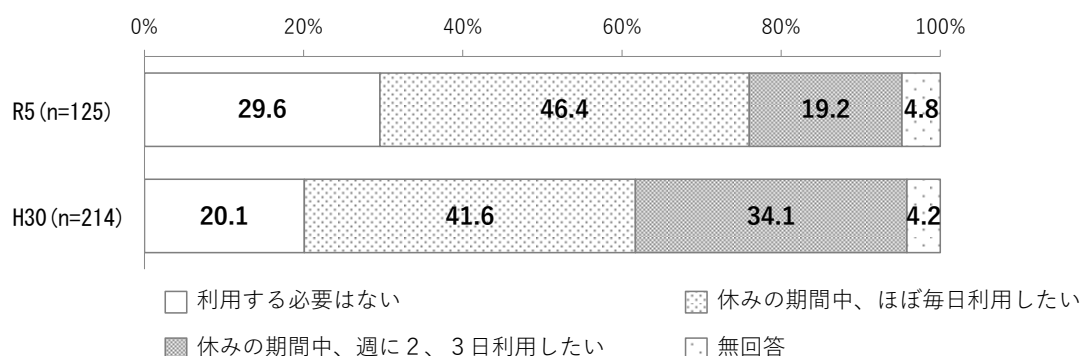
長期休暇中の教育・保育事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 46.4%と最も多く、次いで「利用する必要はない」(29.6%)、「休みの期間中、週に 2、3 日利用したい」(19.2%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「利用する必要はない」で 10 ポイント、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 5 ポイント高くなっている。

一方、「休みの期間中、週に 2、3 日利用したい」で 15 ポイント低くなっている。

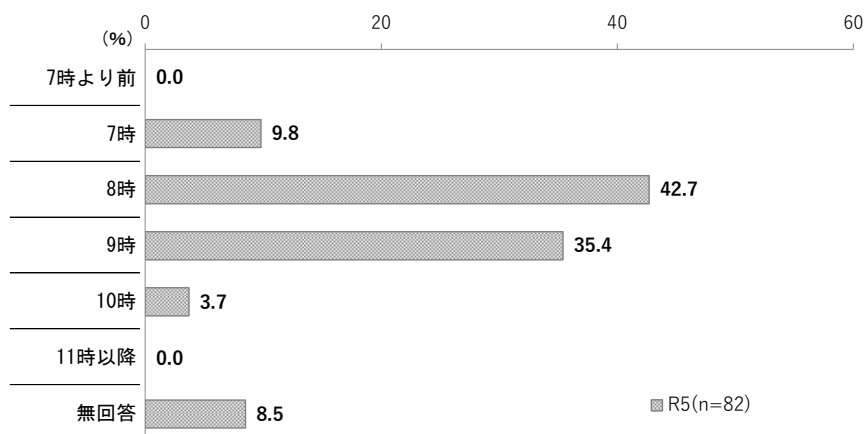
長期休暇中の教育・保育事業の利用希望



・利用したい時間／開始時間

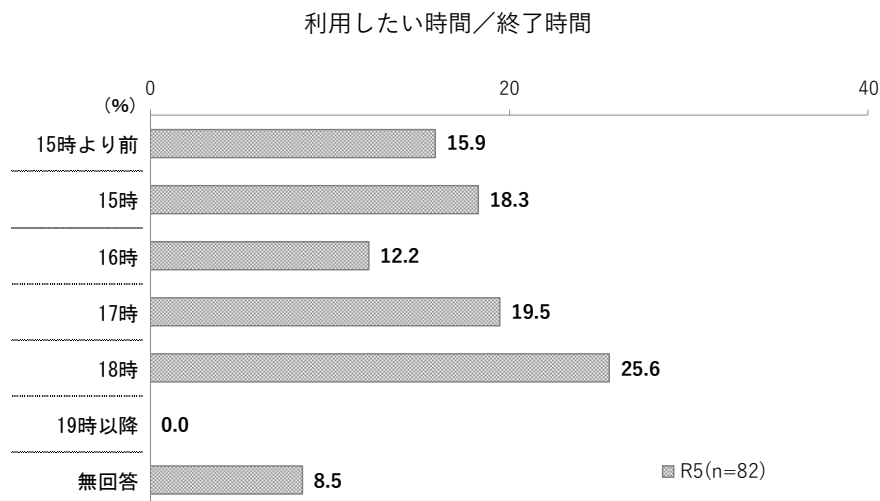
利用したい開始時間は、「8 時」が 42.7%と最も多く、次いで「9 時」(35.4%)、「7 時」(9.8%) などとなっている。

利用したい時間／開始時間



・ 利用したい時間／終了時間

利用したい終了時間は、「18 時」が 25.6%と最も多く、次いで「17 時」(19.5%)、「15 時」(18.3%)、「15 時より前」(15.9%)、「16 時」(12.2%) となっている。



2-1. 長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由

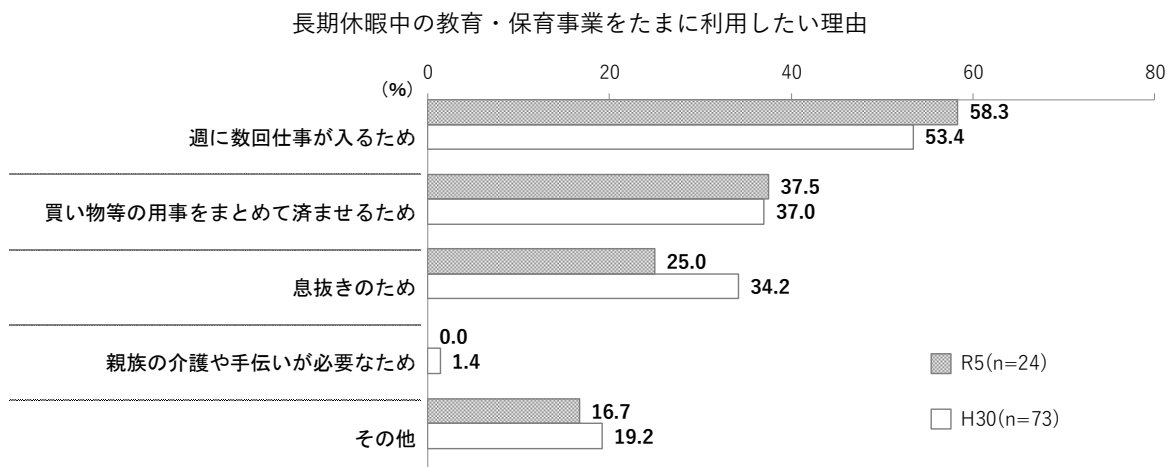
問 19 で「3.休みの期間中、週に 2、3 日利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問 19-1 毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまる番号すべて)

長期休暇中の教育・保育事業をたまに利用したい理由は、「週に数回仕事が入るため」が 58.3%と最も多く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(37.5%)、「息抜きのため」(25.0%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「週に数回仕事が入るため」で 5 ポイント高くなっている。一方、「息抜きのため」は 9 ポイント低くなっている。



9 夜間保育の利用希望について

1. 夜間の保育事業の利用希望

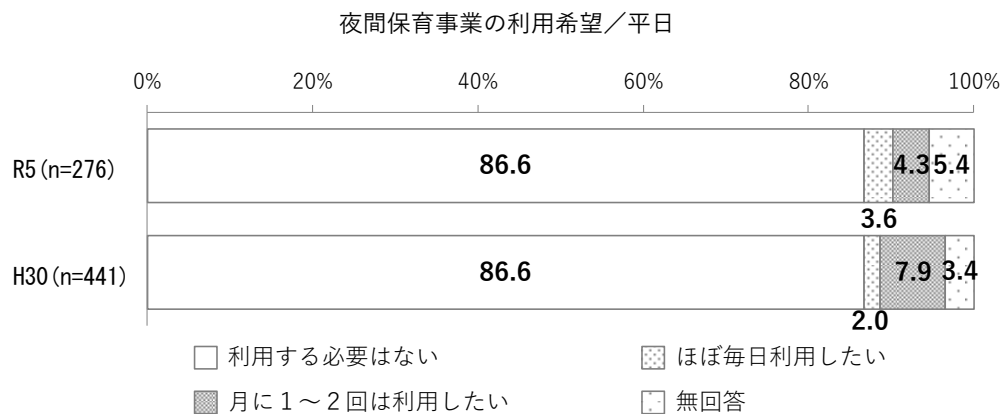
問 20 宛名のお子さんについて、夜間（保育所の延長保育の終了後）の保育事業を行うとしたら、利用希望はありますか（現在は町では実施しておりません）。また、希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例)09 時～18 時のように 24 時間制でお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生することもあります。（□内に数字を入力）

（1）夜間保育事業の利用希望／平日

平日の夜間保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」が 86.6%と最も多く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」（4.3%）、「ほぼ毎日利用したい」（3.6%）となっている。

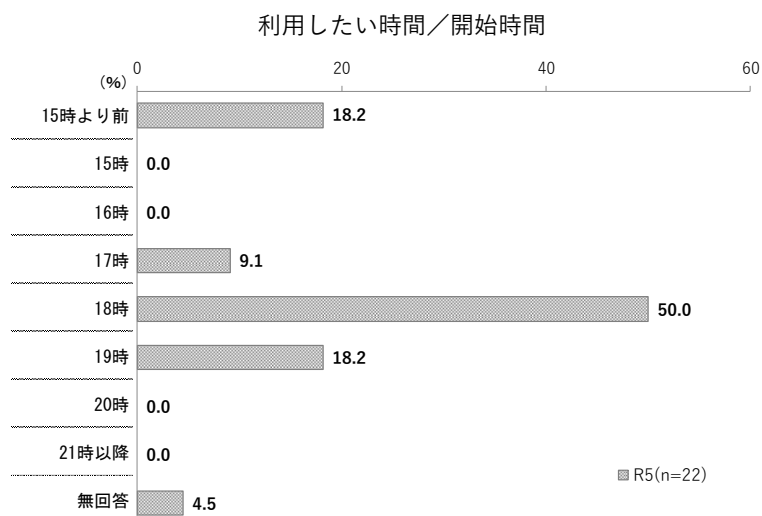
【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、大きな違いは見られない。



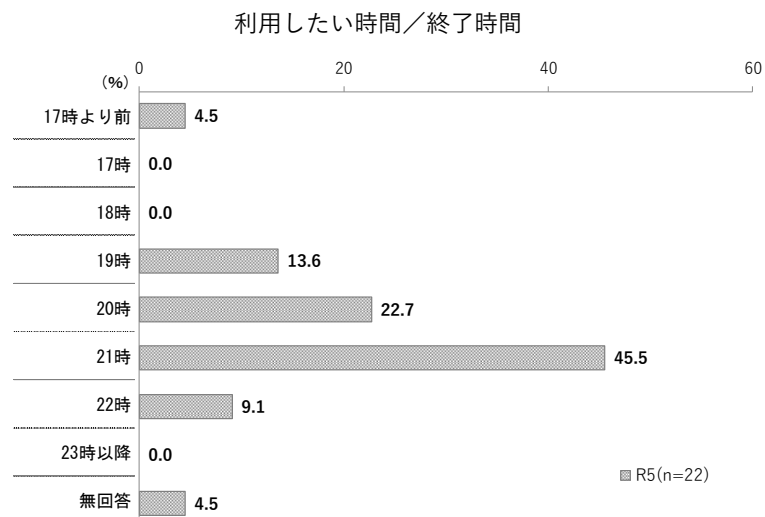
・利用したい時間／開始時間

利用したい開始時間は、「18 時」が 50.0%と最も多く、次いで「19 時」（18.2%）、「15 時より前」「19 時」がともに 18.2%、「17 時」（9.1%）となっている。



・ 利用したい時間／終了時間

利用したい終了時間は、「21 時」が 45.5%と最も多く、次いで「20 時」(22.7%)、「19 時」(13.6%)、「22 時」(9.1%)、「17 時より前」(4.5%) となっている。

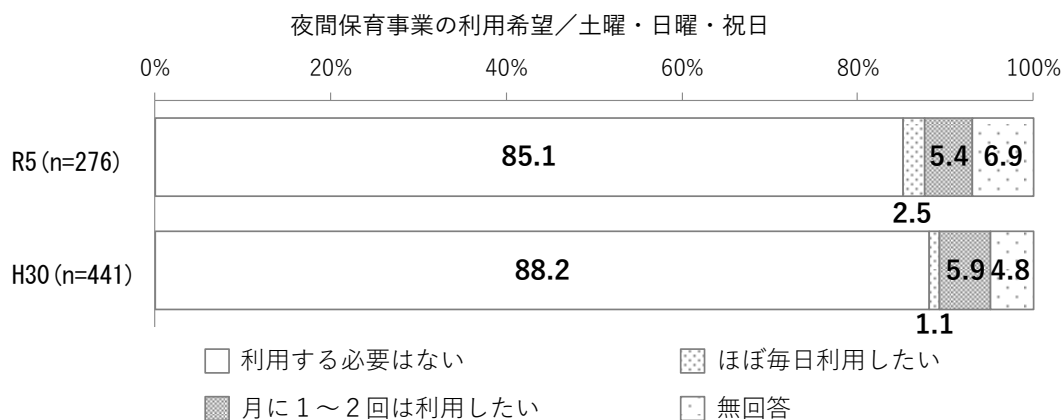


(2) 夜間保育事業の利用希望／土曜・日曜・祝日

土曜・日曜・祝日の夜間保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」が 85.1%と最も多く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」(5.4%)、「ほぼ毎日利用したい」(2.5%) となっている。

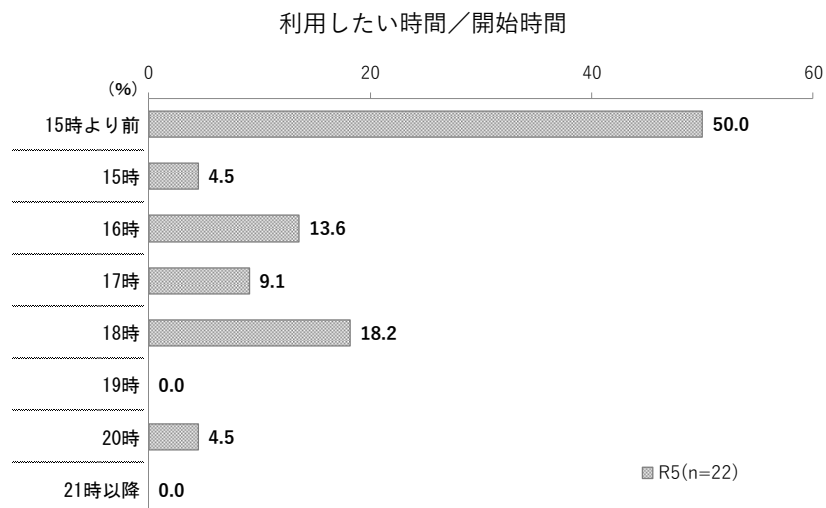
【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、大きな違いは見られない。



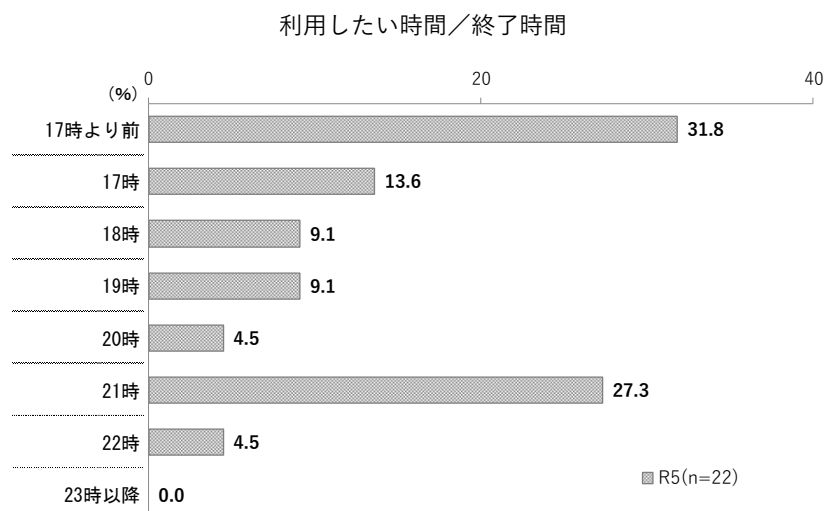
・ 利用したい時間／開始時間

利用したい開始時間は、「15 時より前」が 50.0%と最も多く、次いで「18 時」(18.2%)、「16 時」(13.6%)、「17 時」(9.1%) などとなっている。



・ 利用したい時間／終了時間

利用したい終了時間は、「17 時より前」が 31.8%と最も多く、次いで「21 時」(27.3%)、「17 時」(13.6%)、「18 時」「19 時」がともに 9.1%などとなっている。



10 子どもの病気の際の対応について

1. お子さんの病気やケガによって事業が利用できなかった経験

問 15 で「1.利用している」に○をつけた方にうかがいます。

問 21 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

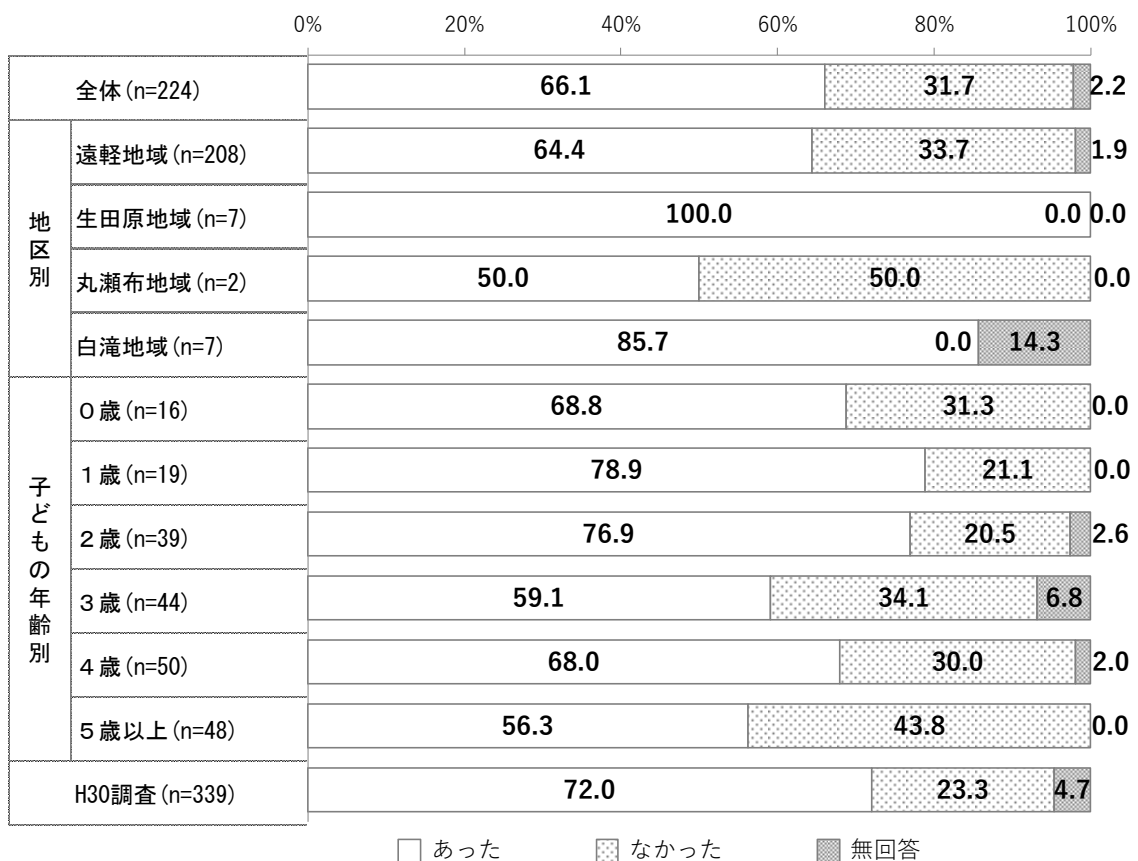
お子さんの病気やケガによって事業が利用できなかった経験は、「あった」(66.1%)、「なかった」(31.7%)となっている。

子どもの年齢別にみると、「3歳」「5歳以上」を除く年齢で「あった」は6～7割となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「あった」で6ポイント低くなっている。

お子さんの病気やケガによって事業が利用できなかった経験



1-1. 利用できなかったときの対処方法

問 21 で「1.あった」に○をつけた方にうかがいます。

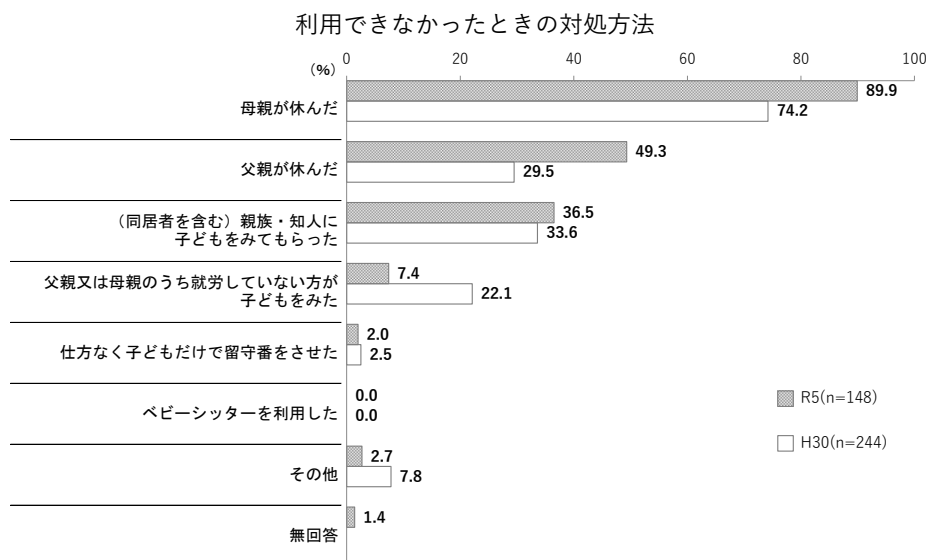
問 21- 1 宛名のお子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法をお答えください。半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を□内に数字で入力）

利用できなかったときの対処方法は、「母親が休んだ」が89.9%と最も多く、次いで「父親が休んだ」（49.3%）、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（36.5%）、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」（7.4%）などとなっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「父親が休んだ」で20ポイント、「母親が休んだ」で16ポイント高くなっている。

一方、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」は15ポイント低くなっている。



・1年間に対処した日数

日数については以下の通りとなっている。

1年間に対処した日数

	n=	1～3日	4～6日	7～10日	11～20日	21～30日	31日以上	無回答
父親が休んだ	73	28.8	30.1	19.2	5.5	-	-	16.4
母親が休んだ	133	10.5	26.3	28.6	11.3	3.8	2.3	17.3
親族・知人に子どもをみてもらった	54	29.6	18.5	18.5	1.9	1.9	-	29.6
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	11	9.1	18.2	-	9.1	27.3	9.1	27.3
ベビーシッターを利用した	-	-	-	-	-	-	-	-
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	3	66.7	-	-	-	-	-	33.3
その他	4	-	-	-	-	-	-	100.0

1-1 (1). 病児・病後児の保育施設等の利用希望

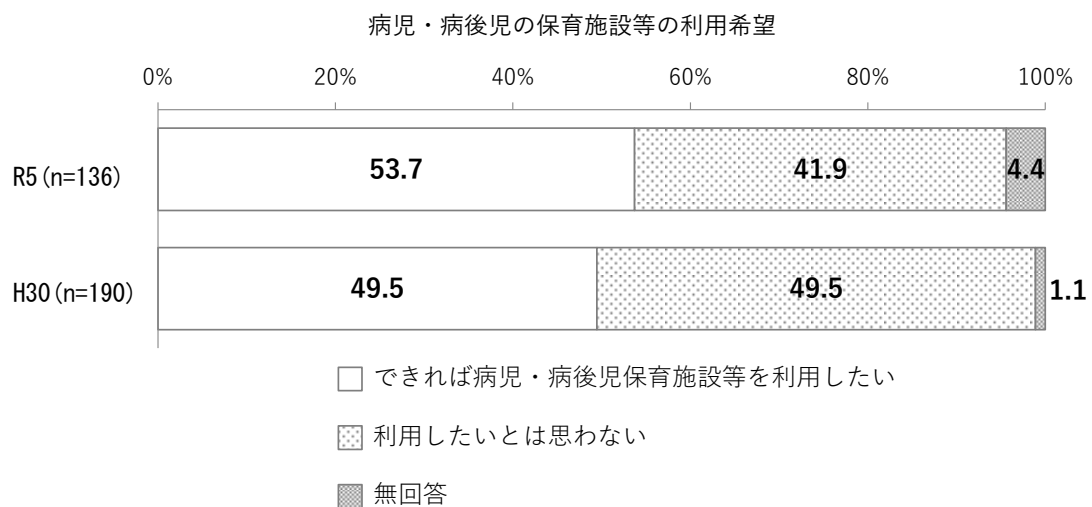
問 21-1 で「1.父親が休んだ」もしくは「2.母親が休んだ」に○をつけた方にうかがいます。

問 21-2 その際、「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。（現在、遠軽町は実施しておりません。）（日数についても□内に数字で入力）

病児・病後児の保育施設等の利用希望は、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」（53.7%）、「利用したいとは思わない」（41.9%）となっている。

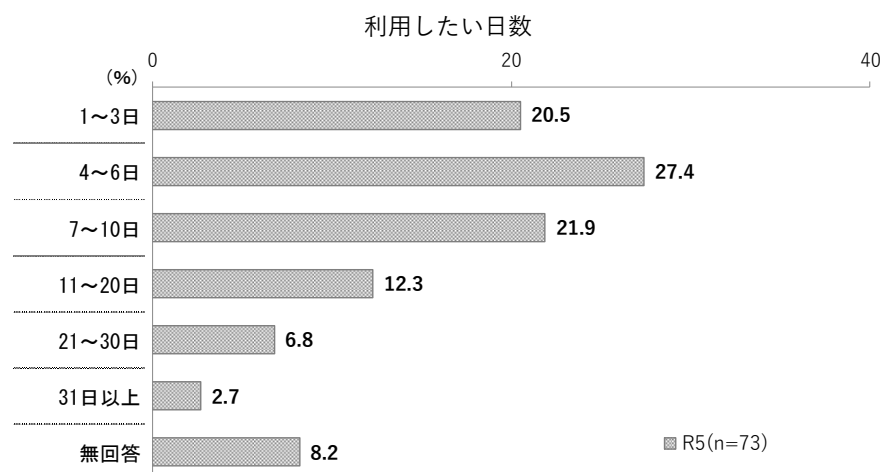
【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「利用したいとは思わない」で 8 ポイント低くなっている。



・利用したい日数

利用したい日数は、「4～6 日」が 27.4%と最も多く、次いで「7～10 日」（21.9%）、「1～3 日」（20.5%）、「11～20 日」（12.3%）、「21～30 日」（6.8%）などとなっている。



1-1(1-1). 病児・病後児の保育施設等を利用したい場合に望ましい事業形態

問 21-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

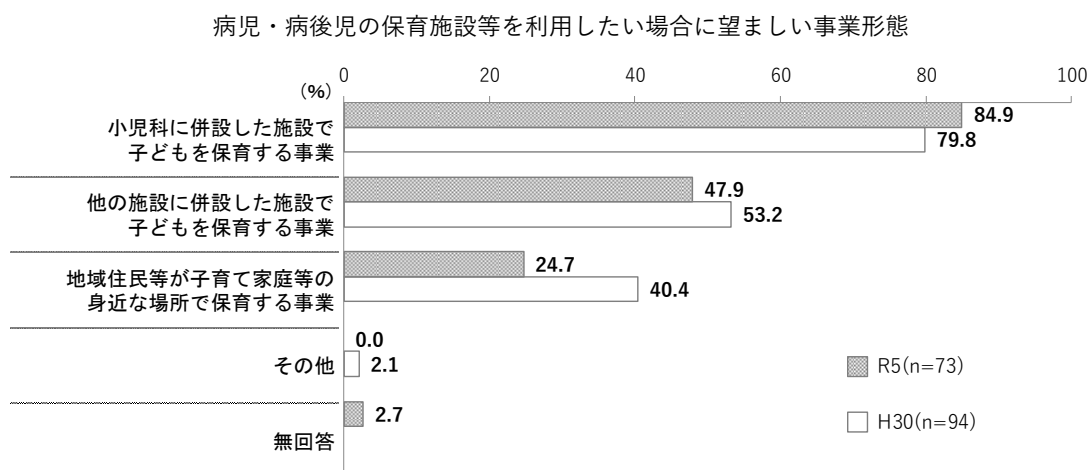
問 21-3 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。
(あてはまる番号すべて)

病児・病後児の保育施設等を利用したい場合に望ましい事業形態については、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 84.9%と最も多く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」(47.9%)、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」(24.7%)となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」で 5 ポイント高くなっている。

一方、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」で 16 ポイント、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」で 5 ポイント低くなっている。



1-1(1-2). 病児・病後児の保育施設等を利用したくない理由

問 21-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方にうかがいます。

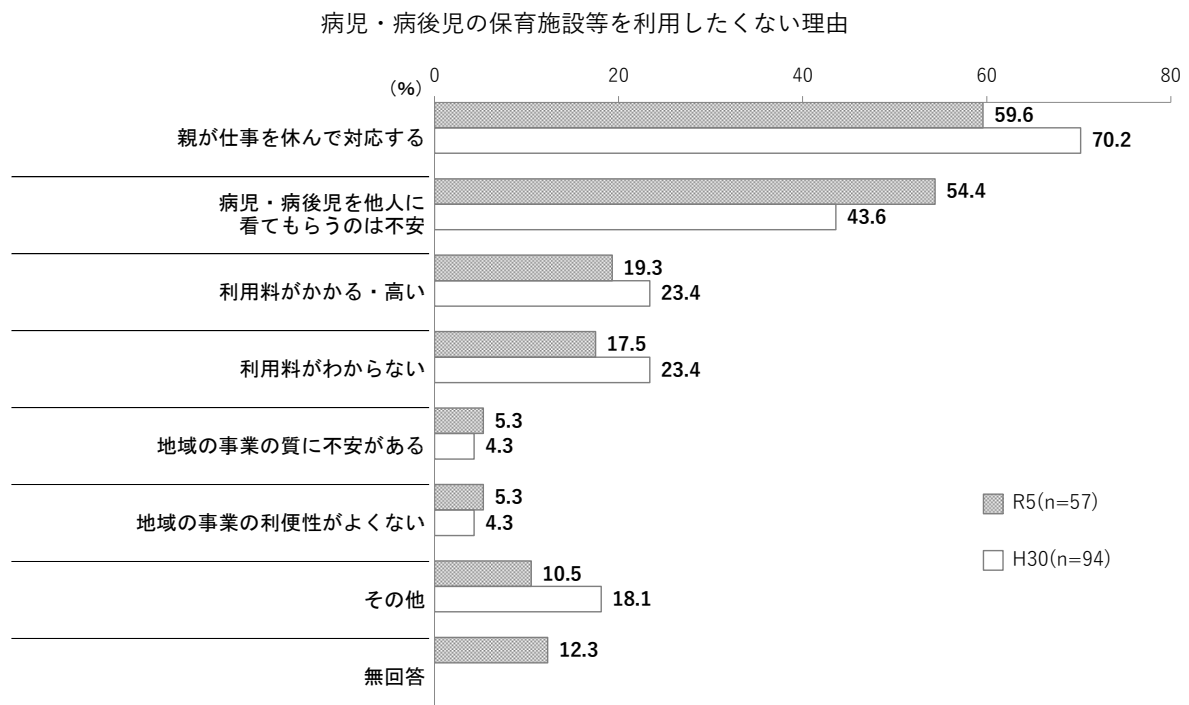
問 21-4 そう思われる理由は何ですか。(あてはまる番号すべて)

病児・病後児の保育施設等を利用したくない理由は、「親が仕事を休んで対応する」が 59.6%と最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(54.4%)、「利用料がかかる・高い」(19.3%)、「利用料がわからない」(17.5%) などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」で 11 ポイント高くなっている。

一方、「親が仕事を休んで対応する」で 11 ポイント、「利用料がわからない」で 6 ポイント低くなっている。



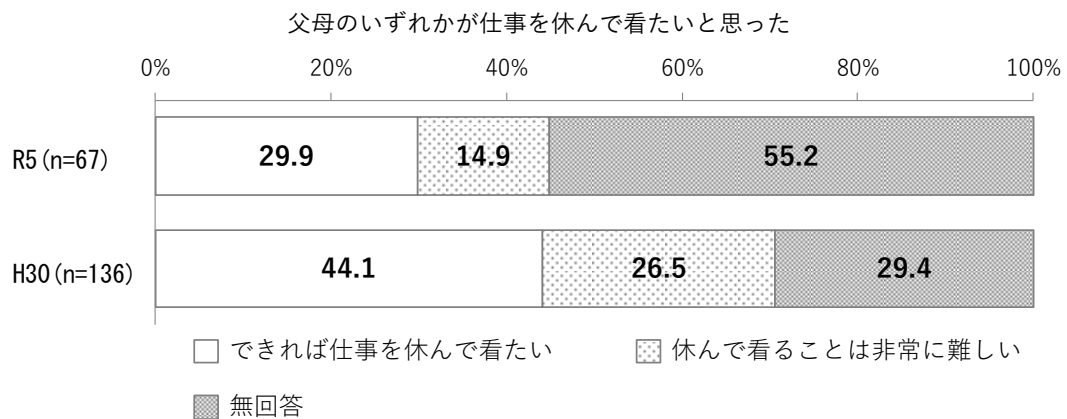
1-2. 父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思った

問 21-1 で「3. 親族・知人に子どもをみてもらった」～「7.その他」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。
 問 21-5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。（仕事を休んで見たかった日数を数字で入力）

父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったについては、「できれば仕事を休んで看たい」（29.9%）、「休んで看することは非常に難しい」（14.9%）となっている。

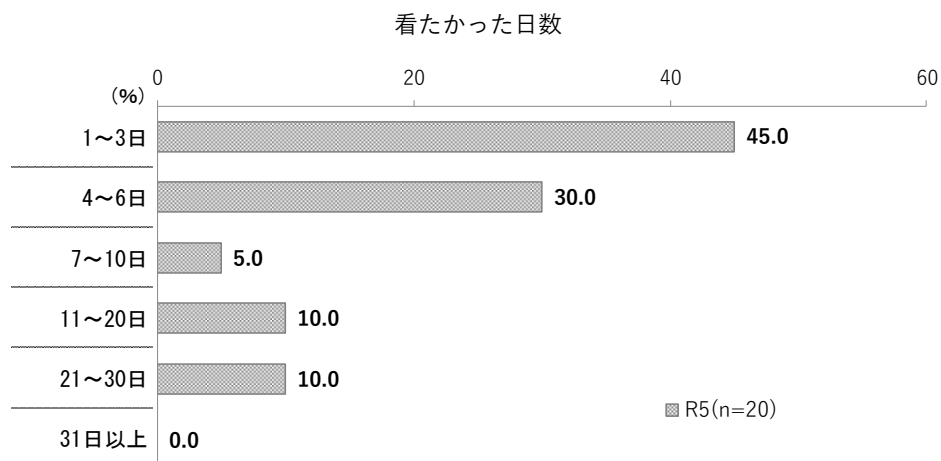
【平成 30 年度との比較】

令和 5 年度の「無回答」が半数以上な為、比較は省略する。



・見たかった日数

見たかった日数は、「1～3日」が 45.0%と最も多く、次いで「4～6日」（30.0%）、「11～20日」「21～30日」がともに 10.0%、「7～10日」（5.0%）となっている。



1-2(1). 父母のいずれかが仕事を休めない理由

問 21-5 で「2. 休んで見ることは非常に難しい」に○をつけた方にうかがいます。

問 21-6 そう思われる理由をお答えください。（あてはまる番号すべて）

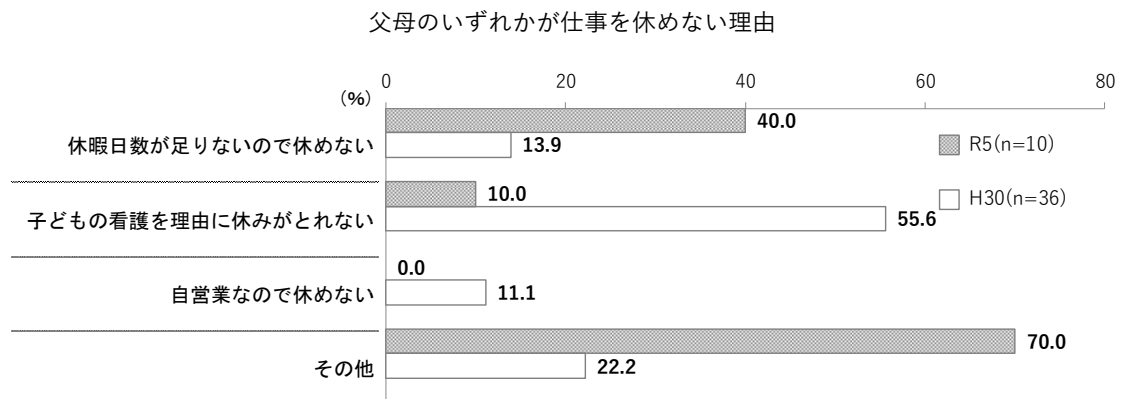
父母のいずれかが仕事を休めない理由については、「休假日数が足りないので休めない」が 40.0%と最も多く、次いで「子どもの看護を理由に休みがとれない」（10.0%）となっている。

その他の内容としては「どうしても休めない仕事があった」「人手不足」などがあがっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「休假日数が足りないので休めない」で 26 ポイント高くなっている。

一方、「子どもの看護を理由に休みがとれない」で 46 ポイント低くなっている。



11 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

1. 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業

問 22 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を□内に数字で入力）

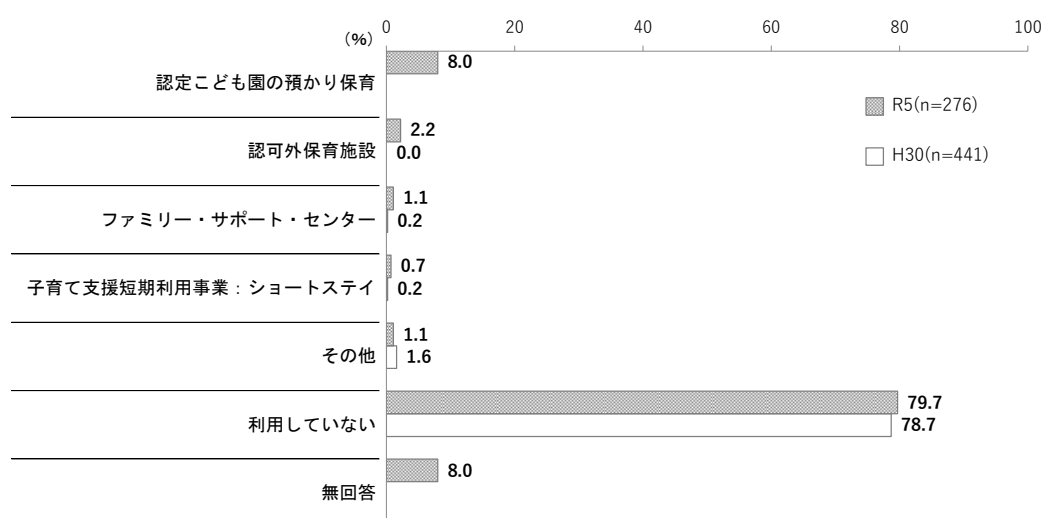
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業は、「認定こども園の預かり保育」（8.0%）、「認可外保育施設」（2.2%）などとなっている。

一方、「利用していない」は79.7%となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、大きな違いは見られない。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業



※平成30年度では「認定こども園の預かり保育」「認可外保育施設」「ファミリー・サポート・センター」はなし

・利用した日数／年間

日数については、以下の通りとなっている。

利用した日数／年間

	n=	1～3日	4～6日	7～10日	11～20日	21～30日	31日以上	無回答
認定こども園の預かり保育	22	40.9	9.1	-	-	4.5	-	45.5
子育て支援短期利用事業：ショートステイ	2	-	-	-	-	-	-	100.0
認可外保育施設	6	33.3	-	-	16.7	-	-	50.0
ファミリー・サポート・センター	3	-	-	-	33.3	-	-	66.7
その他	3	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3

1-1. 利用していない理由

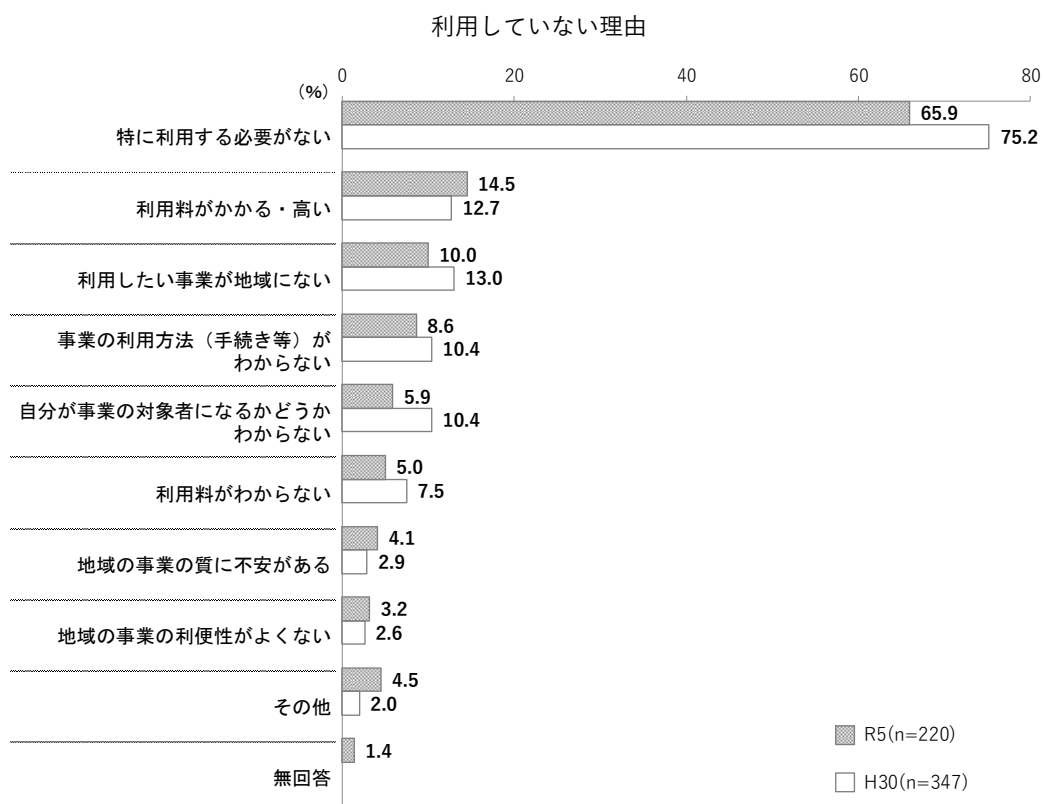
問 22 で「6. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問 22-1 現在利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべて）

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が 65.9%と最も多く、次いで「利用料がかかる・高い」（14.5%）、「利用したい事業が地域にない」（10.0%）、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」（8.6%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「利用料がかかる・高い」「地域の事業の質に不安がある」「地域の事業の利便性がよくない」以外の項目で低下している。特に「特に利用する必要がない」で 9 ポイント低くなっている。



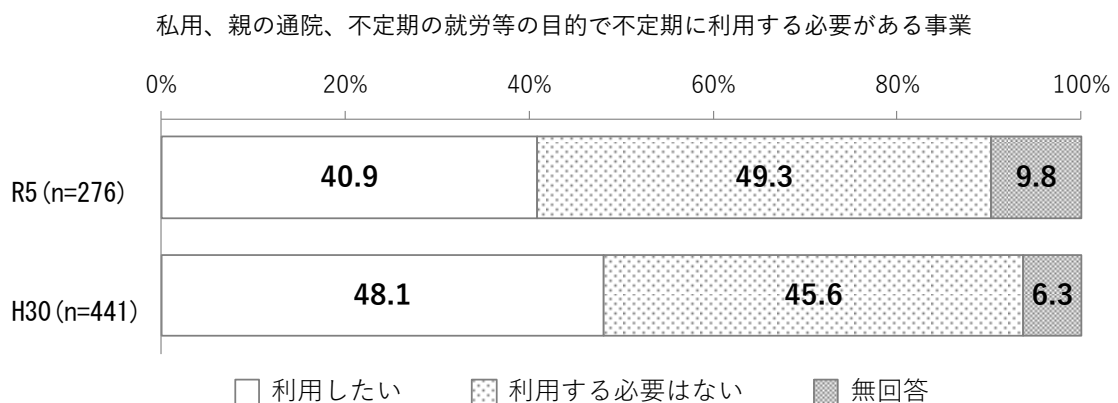
2. 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業

問 23 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてお答えください。希望がある場合は、必要な日数もお答えください。なお事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。
(あてはまる番号すべて、それぞれの日数を□内に数字で入力)

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業は、「利用する必要がある」(49.3%)、「利用したい」(40.9%)となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると「利用したい」で 7 ポイント低下している。

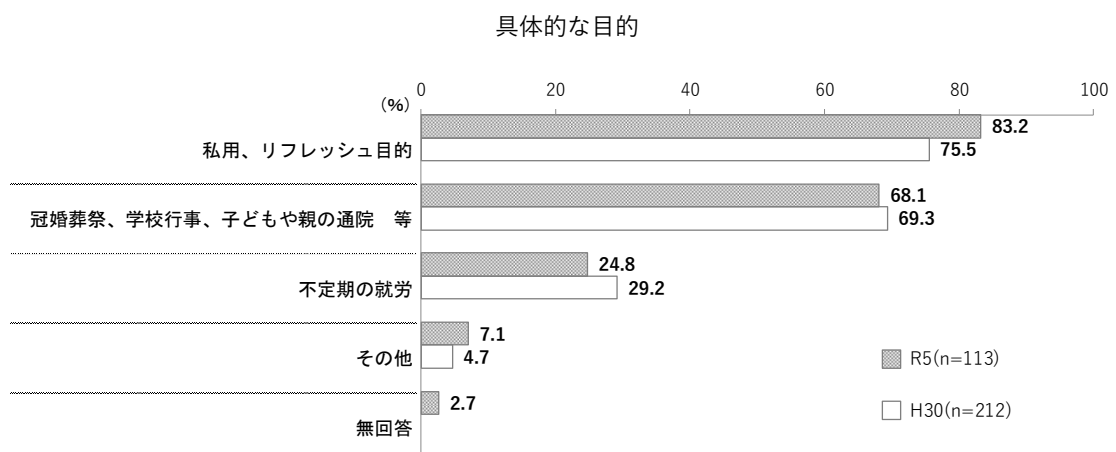


・具体的な目的

具体的な目的は、「私用、リフレッシュ目的」が 83.2%と最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(68.1%)、「不定期の就労」(24.8%)となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると「私用、リフレッシュ目的」で 8 ポイント高くなっている。



・希望する日数／年間

日数については、以下の通りとなっている。

希望する日数／年間

(%)

	n=	1～3日	4～6日	7～10日	11～20日	21～30日	31日以上	無回答
私用、リフレッシュ目的	94	26.6	16.0	10.6	5.3	-	-	41.5
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院	77	24.7	18.2	10.4	-	1.3	-	45.5
不定期の就労	28	10.7	7.1	7.1	-	-	-	75.0
その他	8	12.5	-	-	-	-	-	87.5

2-1. 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する事業の望ましい事業形態

問 23 で「1. 利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問 23-1 問 23 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。
(あてはまる番号すべて)

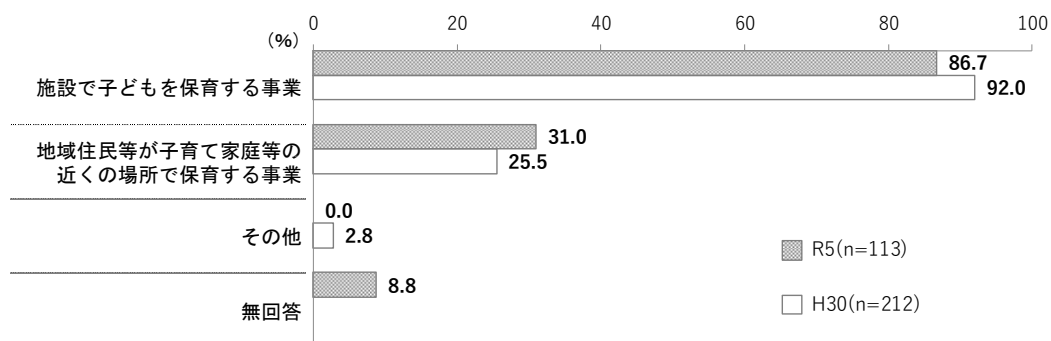
私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する事業の望ましい事業形態は、「施設で子どもを保育する事業」が86.7%と最も多く、次いで「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」(31.0%)となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」で6ポイント高くなっている。

一方、「施設で子どもを保育する事業」は5ポイント低下している。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する事業の望ましい事業形態

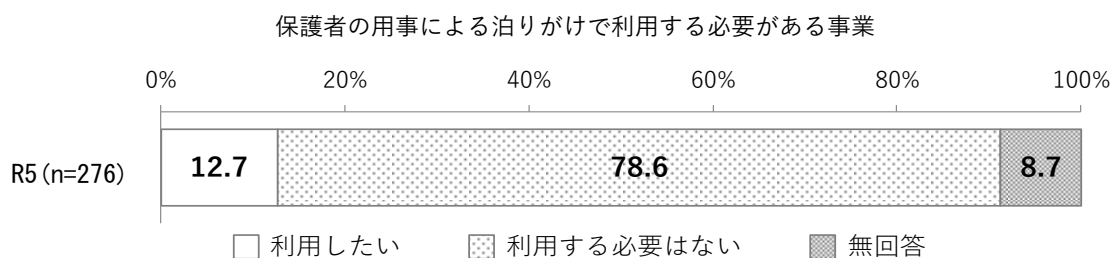


3. 保護者の用事による泊りがけで利用する必要がある事業

問 24 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

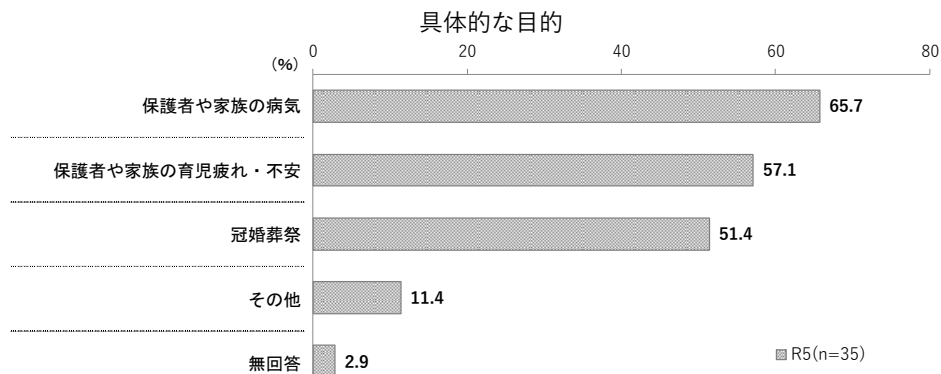
短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてを選択し、必要な泊数をご記入ください。（利用したい泊数の合計と目的別の内訳の泊数を□内に数字でご入力ください。）なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

保護者の用事による泊りがけで利用する必要がある事業については、「利用する必要はない」（78.6%）、「利用したい」（12.7%）となっている。



・ 具体的な目的

利用したい具体的な目的については、「保護者や家族の病気」が 65.7%と最も多く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」（57.1%）、「冠婚葬祭」（51.4%）となっている。



・ 希望する日数／年間

希望する日数については、以下の通りとなっている。

希望する日数／年間		(%)					
	n=	1～3泊	4～6泊	7～10泊	11～20泊	21泊以上	無回答
冠婚葬祭	18	55.6	5.6	-	-	-	38.9
保護者や家族の育児疲れ・不安	20	40.0	20.0	-	-	-	40.0
保護者や家族の病気	23	39.1	13.0	4.3	-	-	43.5
その他	4	25.0	-	-	-	25.0	50.0

12 小学校就学後の放課後の過ごし方について

1. 就学後の放課後に居場所として希望する場所【低学年】

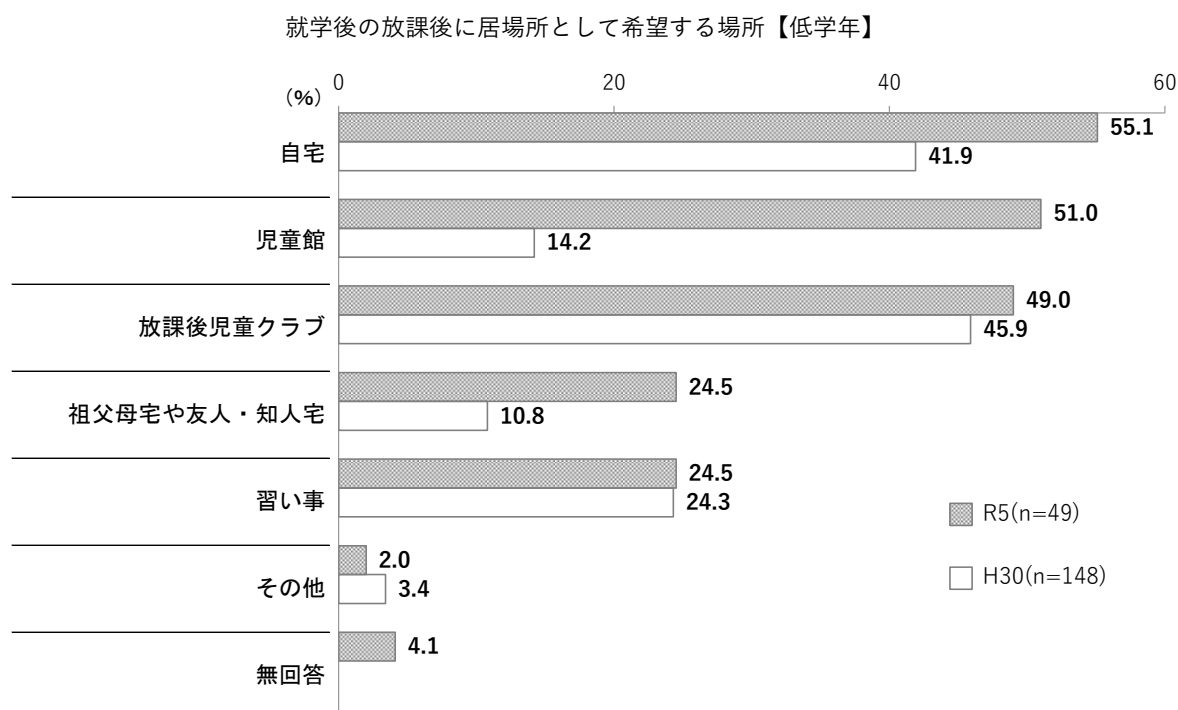
問 25～28 は問 2 で「5 歳以上」と回答した方にうかがいます。

問 25 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3 年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「放課後児童クラブ」を希望する場合には、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を□内に数字で入力）

低学年の就学後の放課後に居場所として希望する場所は、「自宅」が 55.1%と最も多く、次いで「児童館」(51.0%)、「放課後児童クラブ」(49.0%)、「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」がともに 24.5%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「児童館」で 37 ポイント、「祖父母宅や友人・知人宅」で 14 ポイント、「自宅」で 13 ポイント高くなっている。



・ 週当たりの日数

週当たりの日数については、以下の通りとなっている。

・ 放課後児童クラブ【希望終了時間】

放課後児童クラブの希望終了時間は、「18 時」が 37.5%と最も多く、次いで「17 時」(33.3%)、「19 時以降」(8.3%) などとなっている。

週当たりの日数・放課後児童クラブ【希望終了時間】

(%)

	n=	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
自宅	27	-	14.8	7.4	11.1	14.8	-	-	51.9
祖父母宅や友人・知人宅	12	8.3	16.7	8.3	8.3	25.0	-	-	33.3
習い事	12	-	8.3	8.3	-	16.7	-	-	66.7
児童館	25	-	16.0	4.0	8.0	36.0	-	-	36.0
放課後児童クラブ	24	-	4.2	8.3	8.3	50.0	4.2	-	25.0
その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-

	n=	15時より 前	15時	16時	17時	18時	19時以降	無回答
放課後児童クラブ【終了時間】	24	-	4.2	-	33.3	37.5	8.3	16.7

2. 就学後の放課後に居場所として希望する場所【高学年】

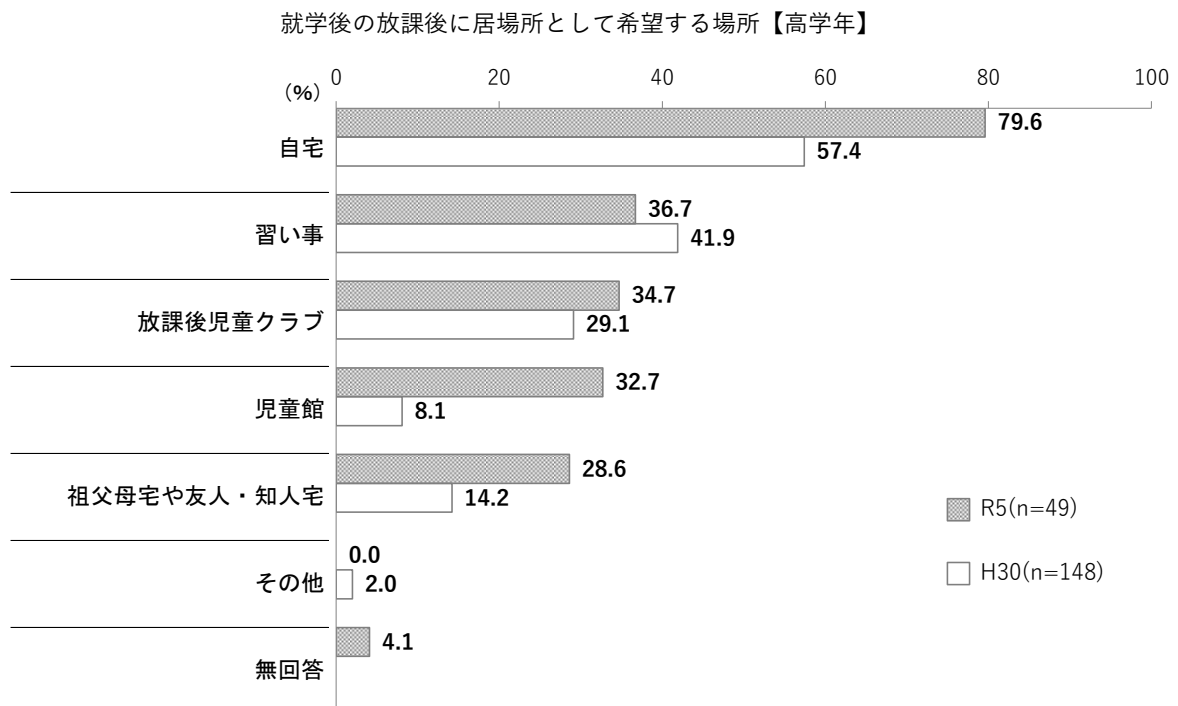
問 26 宛名のお子さんについて、小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「放課後児童クラブ」を希望する場合には、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を□内に数字で入力）

高学年の就学後の放課後に居場所として希望する場所は、「自宅」が 79.6%と最も多く、次いで「習い事」(36.7%)、「放課後児童クラブ」(34.7%)、「児童館」(32.7%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(28.6%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「習い事」以外の項目で増加しており、「児童館」で 25 ポイント、「自宅」で 22 ポイント、「祖父母宅や友人・知人宅」で 14 ポイント、「放課後児童クラブ」で 6 ポイント高くなっている。

一方、「習い事」は 5 ポイント低下している。



・ 週当たりの日数

日数については、以下の通りとなっている。

・ 放課後児童クラブ【希望終了時間】

放課後児童クラブの希望終了時間は、「18 時」「17 時」がともに 35.3%と最も多く、次いで「19 時以降」(11.8%) となっている。

週当たりの日数・放課後児童クラブ【希望終了時間】

(%)

	n=	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
自宅	39	5.1	7.7	7.7	5.1	15.4	-	-	59.0
祖父母宅や友人・知人宅	14	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3	-	-	50.0
習い事	18	11.1	11.1	11.1	-	27.8	-	-	38.9
児童館	16	-	-	12.5	6.3	25.0	-	-	56.3
放課後児童クラブ	17	-	5.9	17.6	5.9	47.1	-	-	23.5
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	n=	15時より 前	15時	16時	17時	18時	19時以降	無回答
放課後児童クラブ【終了時間】	17	-	-	-	35.3	35.3	11.8	17.6

3. 日曜日・祝日での放課後児童クラブの利用希望

問 2 で「5 歳以上」かつ、問 25 もしくは問 26 で「5. 放課後児童クラブ」に○をつけた方にうかがいます。

問 27 宛名のお子さんについて、日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。また、利用したい場合は、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。(遠軽町は無料で利用できます。)

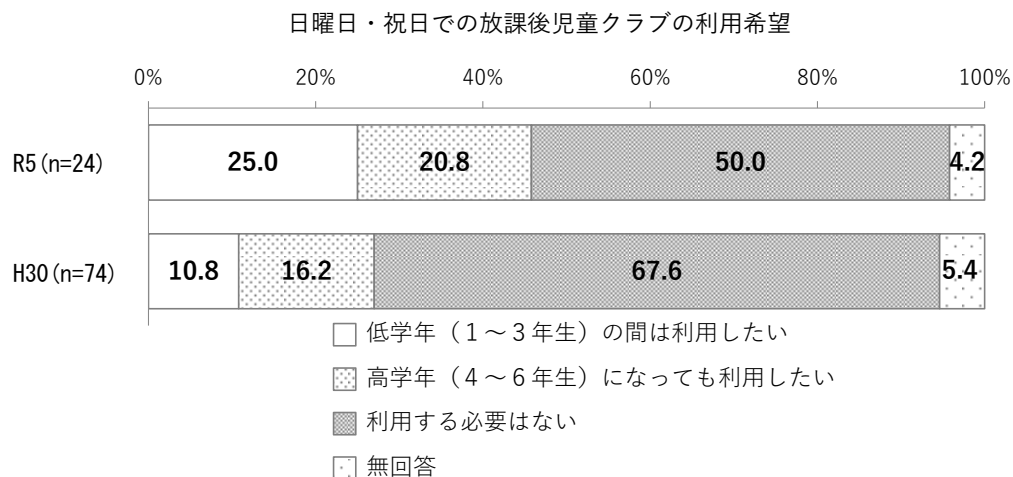
(1 つに○、それぞれの日数を□内に数字で入力)

日曜日・祝日での放課後児童クラブの利用希望は、「利用する必要はない」が 50.0%と最も多く、次いで「低学年（1～3 年生）の間は利用したい」（25.0%）、「高学年（4～6 年生）になっても利用したい」（20.8%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

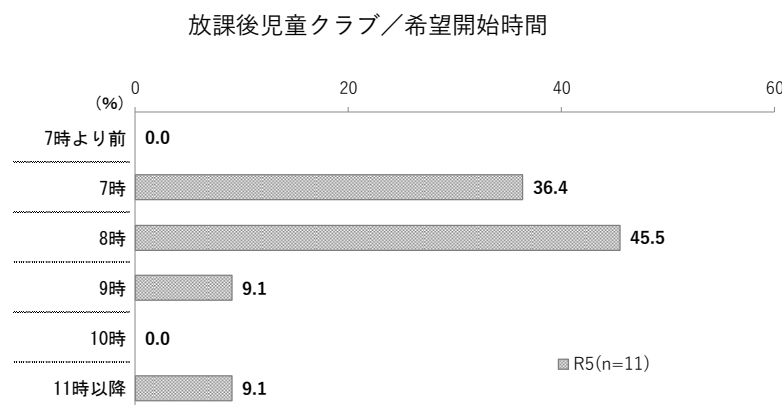
平成 30 年度と比べると、「低学年（1～3 年生）の間は利用したい」と「高学年（4～6 年生）になっても利用したい」を合わせた『利用したい』は 19 ポイント高くなっている。

一方、「利用する必要はない」は 18 ポイント低下している。



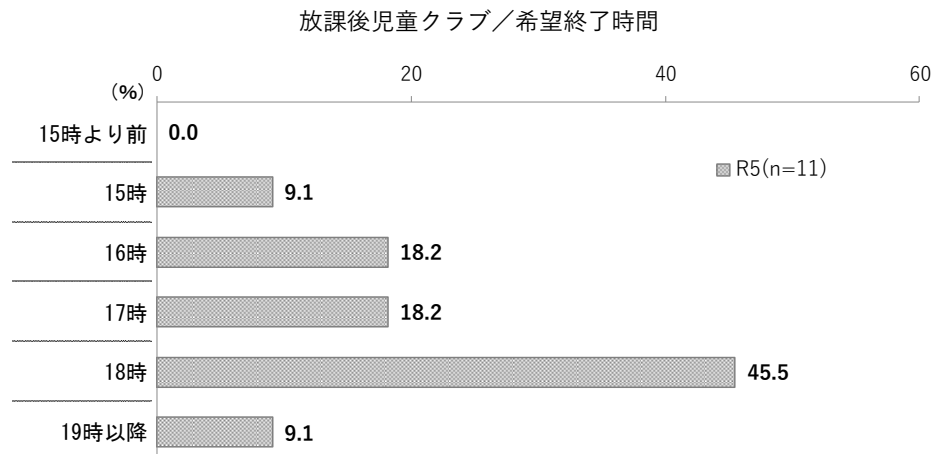
・放課後児童クラブ／希望開始時間

希望開始時間は、「8 時」が 45.5%と最も多く、次いで「7 時」（36.4%）、「9 時」「11 時以降」がともに 9.1%となっている。



・放課後児童クラブ／希望終了時間

希望終了時間は、「18 時」が 45.5%と最も多く、次いで「16 時」「17 時」がともに 18.2%、「15 時」「19 時以降」がともに 9.1%となっている。



4. 長期休暇での放課後児童クラブの利用希望

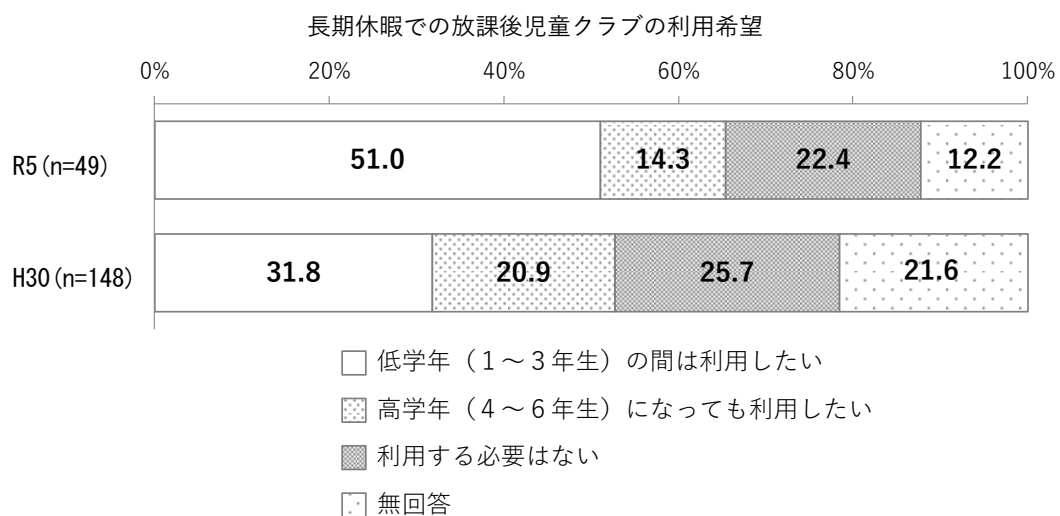
問 28 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなど長期の休み期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。また、利用したい場合は、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。(それぞれの日数を□内に数字で入力)

長期休暇での放課後児童クラブの利用希望は、「低学年（1～3 年生）の間は利用したい」が 51.0%と最も多く、次いで「利用する必要はない」（22.4%）、「高学年（4～6 年生）になっても利用したい」（14.3%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

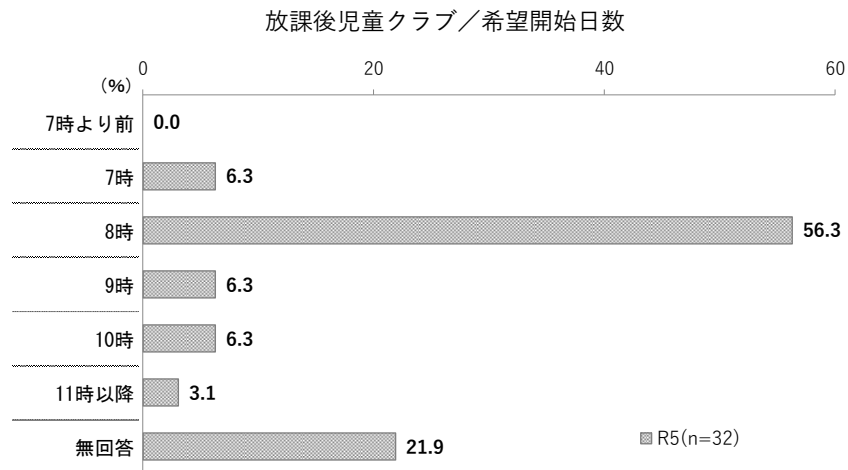
平成 30 年度と比べると、「低学年（1～3 年生）の間は利用したい」で 19 ポイント高くなっている。

一方、「高学年（4～6 年生）になっても利用したい」は 7 ポイント低下している。



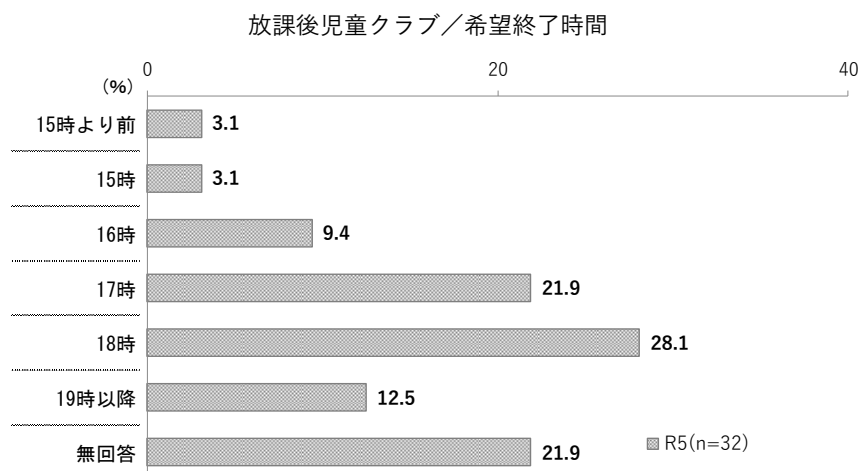
・放課後児童クラブ／希望開始時間

希望開始時間は、「8時」が56.3%と最も多く、次いで「7時」「9時」「10時」(全て6.3%)、「11時以降」(3.1%)となっている。



・放課後児童クラブ／希望終了時間

希望終了時間は、「18時」が28.1%と最も多く、次いで「17時」(21.9%)、「19時以降」(12.5%)、「16時」(9.4%)、「15時」「15時より前」がともに3.1%となっている。



13 職場の両立支援制度について

1. 両親の育児休暇の取得の有無

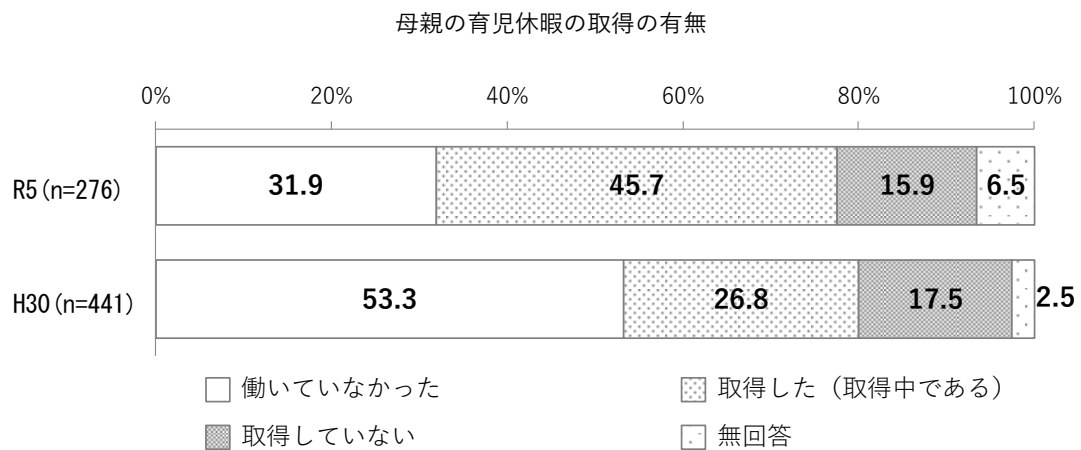
問 29 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについてお答えください。（1 つに○）また、取得していない方は、その理由をお答えください。（あてはまる番号すべて）

（1）－1 母親の育児休業の取得の有無

母親の育児休業の取得の有無については、「取得した（取得中である）」が 45.7%と最も多く、次いで「働いていなかった」（31.9%）、「取得していない」（15.9%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「取得した（取得中である）」で 19 ポイント高くなっている。一方、「働いていなかった」は 21 ポイント低下している。



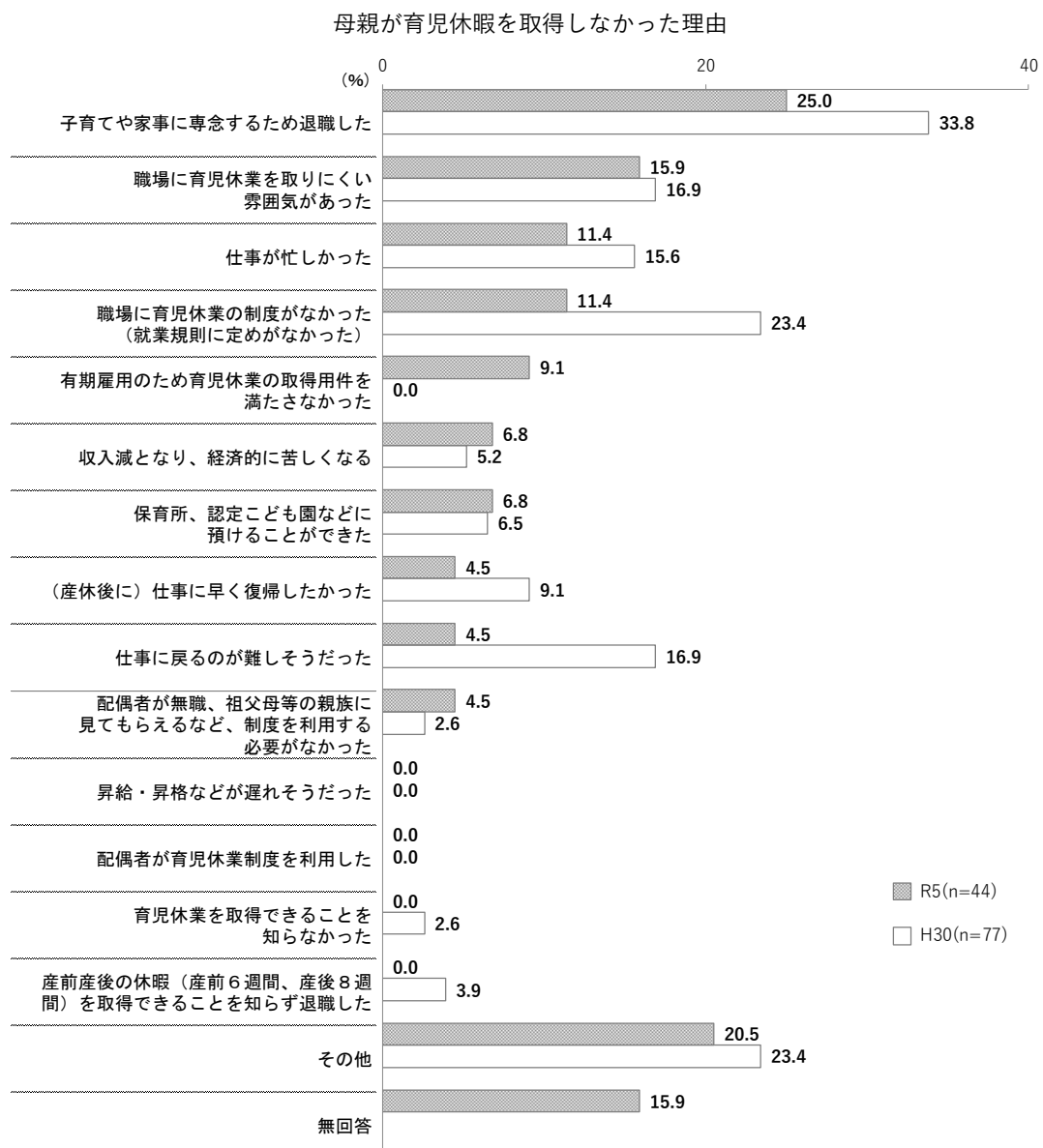
(1)-2 母親が育児休暇を取得しなかった理由

母親が育児休暇を取得しなかった理由としては、「子育てや家事に専念するため退職した」が25.0%と最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(15.9%)、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」がともに11.4%、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」(9.1%) などとなっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」で0.0%から9ポイント高くなっている。

一方、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」「仕事に戻るのが難しそうだった」はともに12ポイント、「子育てや家事に専念するため退職した」で9ポイント低下している。

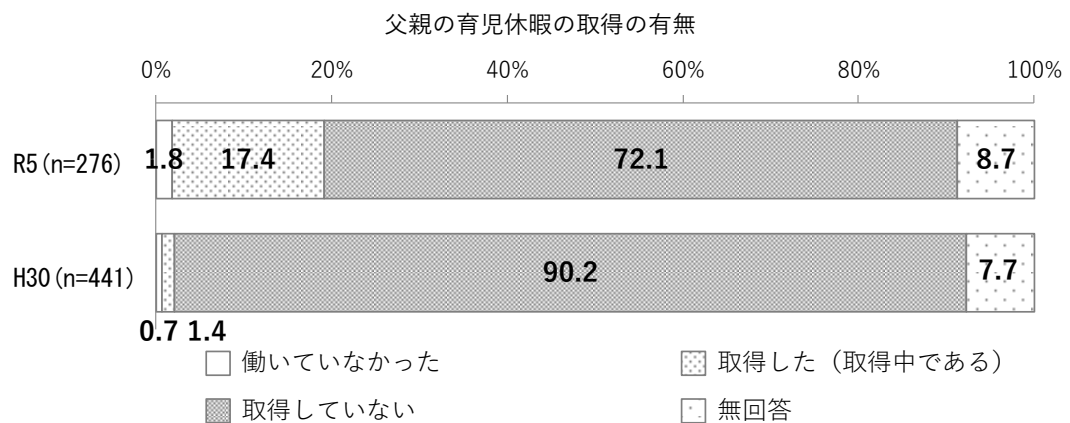


(2)-1 父親の育児休暇の取得の有無

父親の育児休業の取得の有無については、「取得していない」が72.1%と最も多く、次いで「取得した（取得中である）」（17.4%）、「働いていなかった」（1.8%）となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「取得した（取得中である）」で16ポイント高くなっている。一方、「取得していない」は18ポイント低下している。



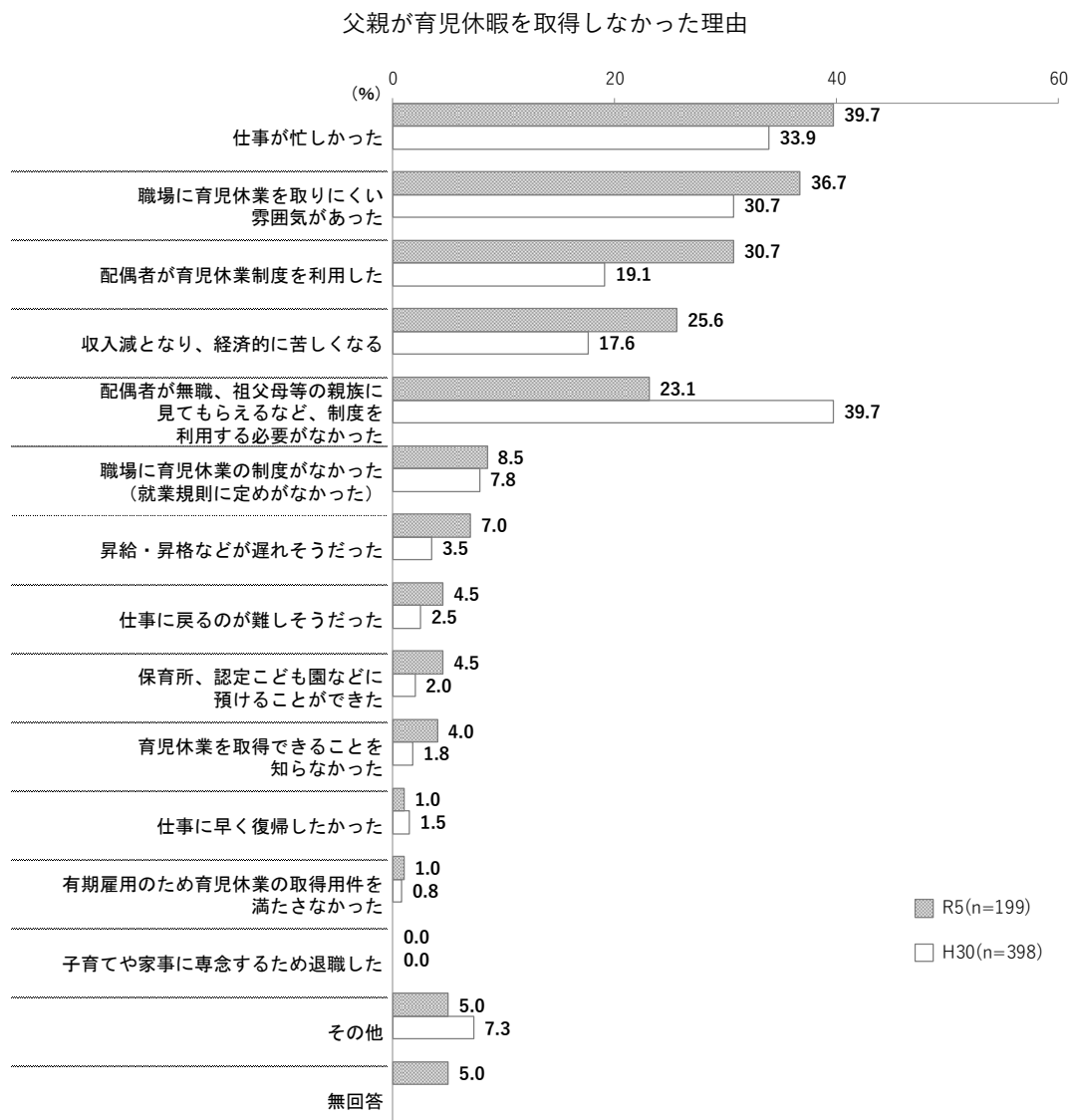
（２）－２ 父親が育児休暇を取得しなかった理由

父親が育児休暇を取得しなかった理由としては、「仕事が忙しかった」が 39.7%と最も多く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(36.7%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(30.7%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(25.6%)、「配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(23.1%) などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」以外の全項目で高くなっており、特に「配偶者が育児休業制度を利用した」で 12 ポイント高くなっている。

一方、「配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」は 17 ポイント低下している。



3. 母親の育児休暇後の職場復帰の有無

問 29 で母親「2. 取得した（取得中である）」に○をつけた方にうかがいます。

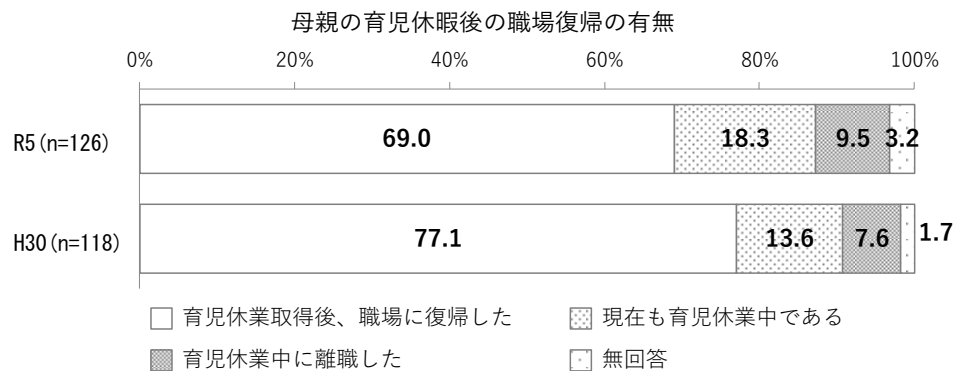
問 29- 1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

（1）母親

母親の育児休暇後の職場復帰の有無については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 69.0%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」（18.3%）、「育児休業中に離職した」（9.5%）となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「育児休業取得後、職場に復帰した」で 8 ポイント低下している。



3-1. 父親の育児休暇後の職場復帰の有無

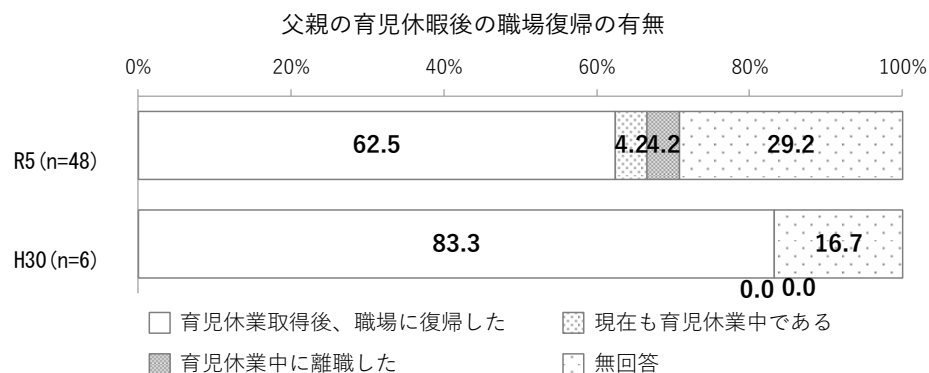
問 29 で父親「2. 取得した（取得中である）」に○をつけた方にうかがいます。

（2）父親

父親の育児休暇後の職場復帰の有無については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 62.5%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」「育児休業中に離職した」がともに 4.2%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「育児休業取得後、職場に復帰した」で 21 ポイント低下している。



3-2 (1). 母親が育児休業から復帰したタイミング

問 29-1 (1) で「1.育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方にうかがいます。

問 29-2 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所、認定こども園入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

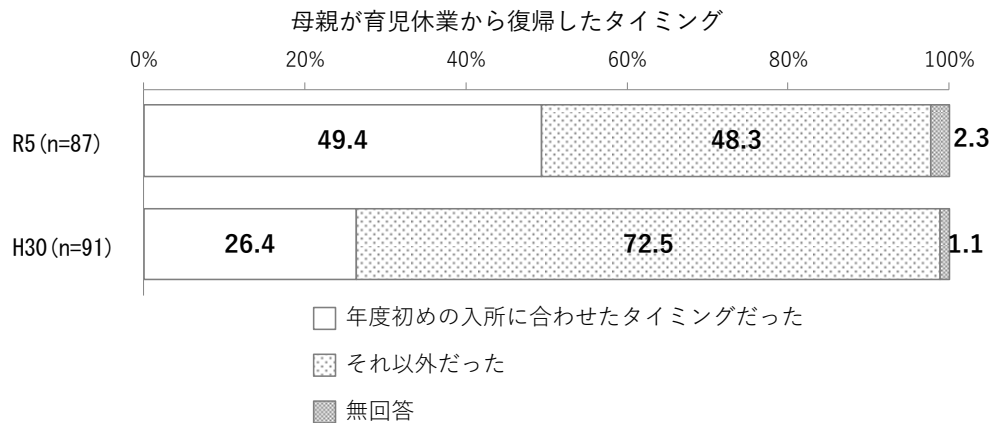
(1) 母親

母親が育児休業から復帰したタイミングは、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(49.4%)、「それ以外だった」(48.3%)となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」で 23 ポイント高くなっている。

一方、「それ以外だった」で 24 ポイント低くなっている。



3-2 (2). 父親が育児休業から復帰したタイミング

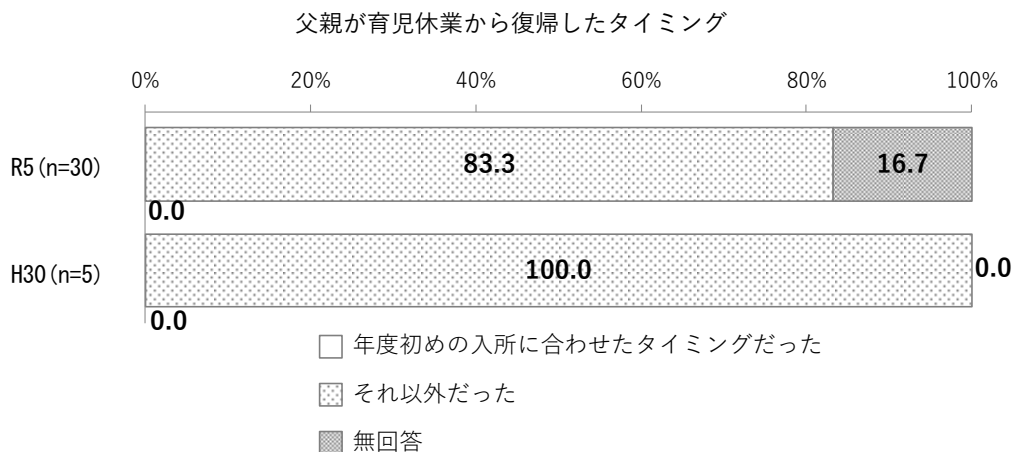
問 29-1 (2) で「1.育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方にうかがいます。

問 29-2 (2) 父親

父親が育児休業から復帰したタイミングは、「それ以外だった」が 83.3%となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「それ以外だった」で 17 ポイント低くなっている。



3-3 (1). お子さんが1歳になったタイミングで利用できる事業があった場合の育児休業の取得（母親）

問 29-1 (1) で「2. 現在も育児休業中である」に○をつけた方にうかがいます。

問 29-3 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

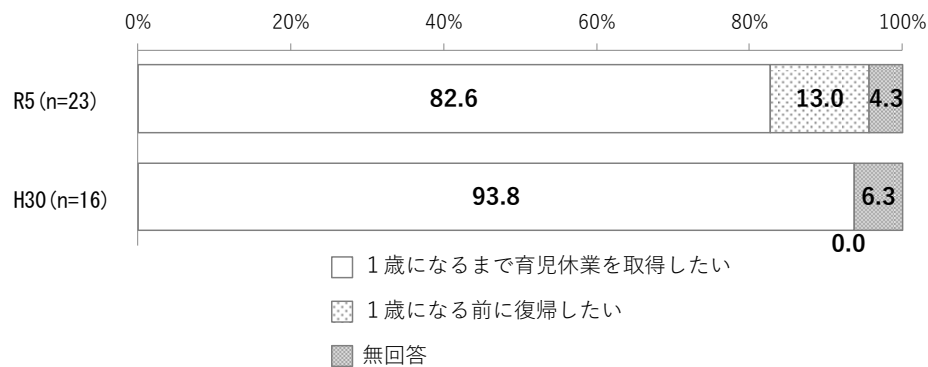
(1) 母親

母親ではお子さんが1歳になったタイミングで利用できる事業があった場合の育児休業の取得については、「1歳になるまで育児休業を取得したい」(82.6%)、「1歳になる前に復帰したい」(13.0%)となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「1歳になる前に復帰したい」で13ポイント高くなっている。一方、「1歳になるまで育児休業を取得したい」で11ポイント低下している。

お子さんが1歳になったタイミングで利用できる事業があった場合の育児休業の取得（母親）



3-3 (2). お子さんが1歳になったタイミングで利用できる事業があった場合の育児休業の取得（父親）

問 29-1 (2) で「2. 現在も育児休業中である」に○をつけた方にうかがいます。

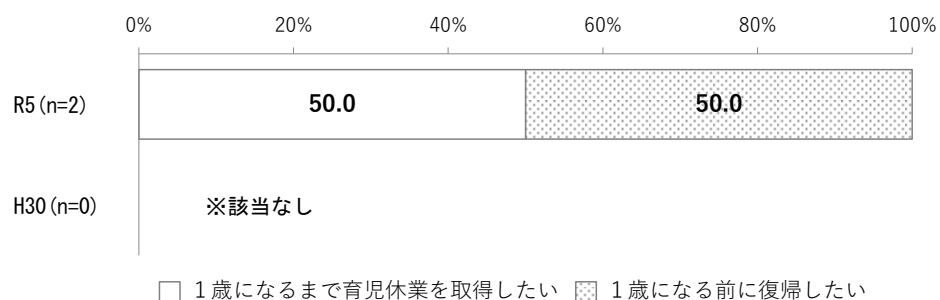
(2) 父親

父親は該当者が2名で、「1歳になるまで育児休業を取得したい」「1歳になる前に復帰したい」が1名ずつとなっている。

【平成30年度との比較】

※平成30年度回答者無し。

お子さんが1歳になったタイミングで利用できる事業があった場合の育児休業の取得（父親）



14 子育て環境や支援について

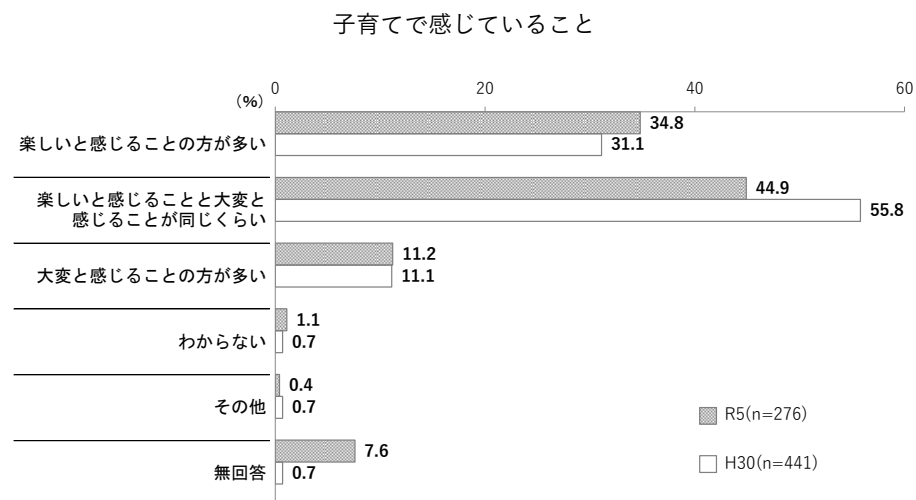
1. 子育てで感じていること

問 30 あなたは、自分にとって子育てを楽しんでいると感じることが多いと思いますか。それとも大変と感じることが多いと思いますか。

子育てで感じていることについては、「楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい」が 44.9%と最も多く、次いで「楽しいと感じることの方が多い」(34.8%)、「大変と感じることの方が多い」(11.2%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい」で 11 ポイント低下している。



1-1. 子育てを楽しんでいるとき

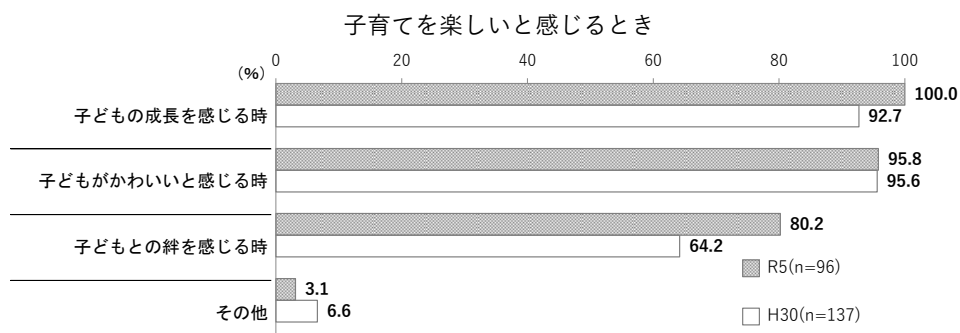
問 30 で「1. 楽しいと感じることの方が多い」に○をつけた方にうかがいます。

問 30-1 楽しいと感じるのはどのような時ですか。(あてはまる番号すべて)

子育てを楽しんでいると感じるときについては、「子どもの成長を感じる時」が 100.0%と最も多く、次いで「子どもがかわいいと感じる時」(95.8%)、「子どもとの絆を感じる時」(80.2%) となっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、全ての項目で増加傾向がみられ、「子どもとの絆を感じる時」で 16 ポイント、「子どもの成長を感じる時」で 7 ポイント高くなっている。



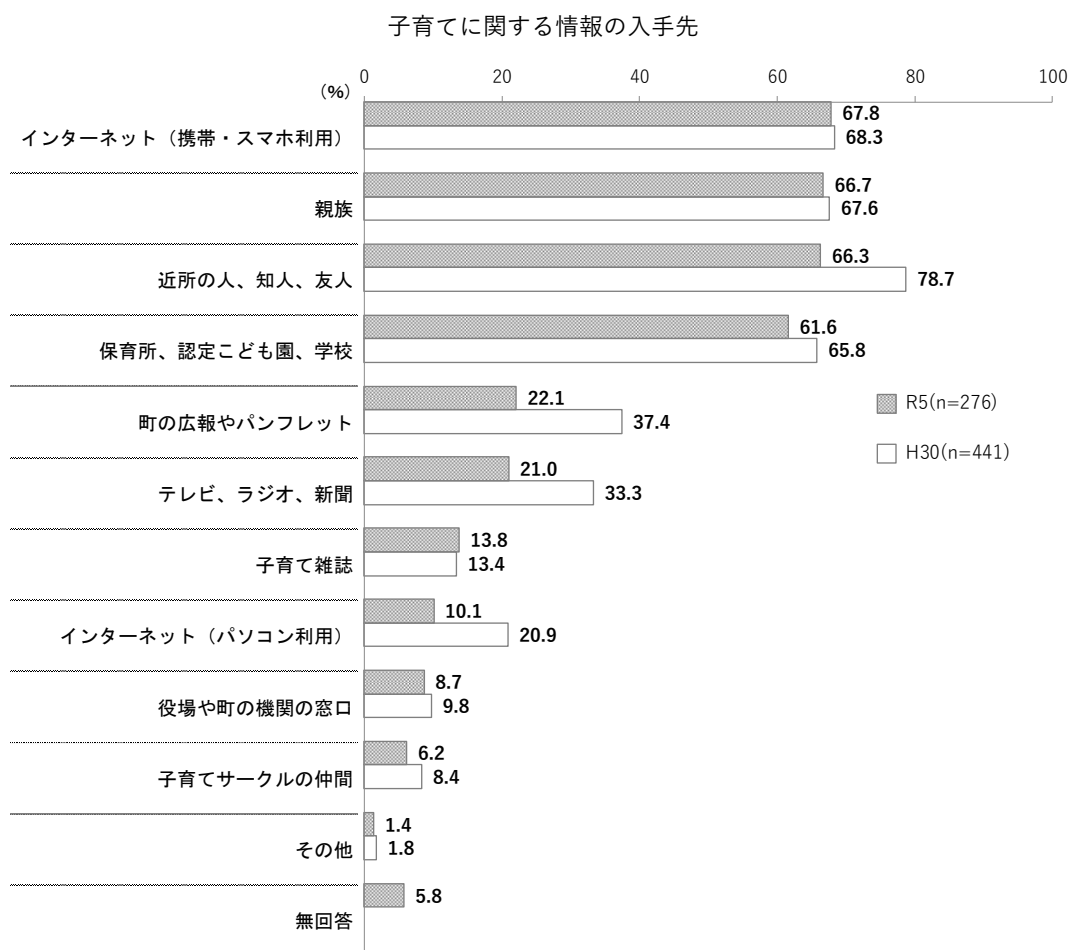
2. 子育てに関する情報の入手先

問 31 あなたは、子育てに関する情報をどこ（誰・何）から入手しますか。（あてはまる番号すべて）

子育てに関する情報の入手先は、「インターネット（携帯・スマホ利用）」が 67.8%と最も多く、次いで「親族」（66.7%）、「近所の人、知人、友人」（66.3%）、「保育所、認定こども園、学校」（61.6%）、「町の広報やパンフレット」（22.1%）、「テレビ、ラジオ、新聞」（21.0%）、「子育て雑誌」（13.8%）、「インターネット（パソコン利用）」（10.1%）などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「インターネット（携帯・スマホ利用）」「親族」「子育て雑誌」で割合は横ばいしているが、それ以外の項目で低下している。特に「町の広報やパンフレット」「テレビ、ラジオ、新聞」で 12 ポイント以上低下している。



※※平成 30 年度では「保育所、幼稚園、認定こども園、学校」と表現が異なる。

3. 行政や関係機関が取り組むべき子育ての施策

問 32 子育てについて考えたとき、今後、行政や関係機関の取り組みとして必要と思われること、充実してほしいと思われることは何ですか。（あてはまる番号 3 つまで）

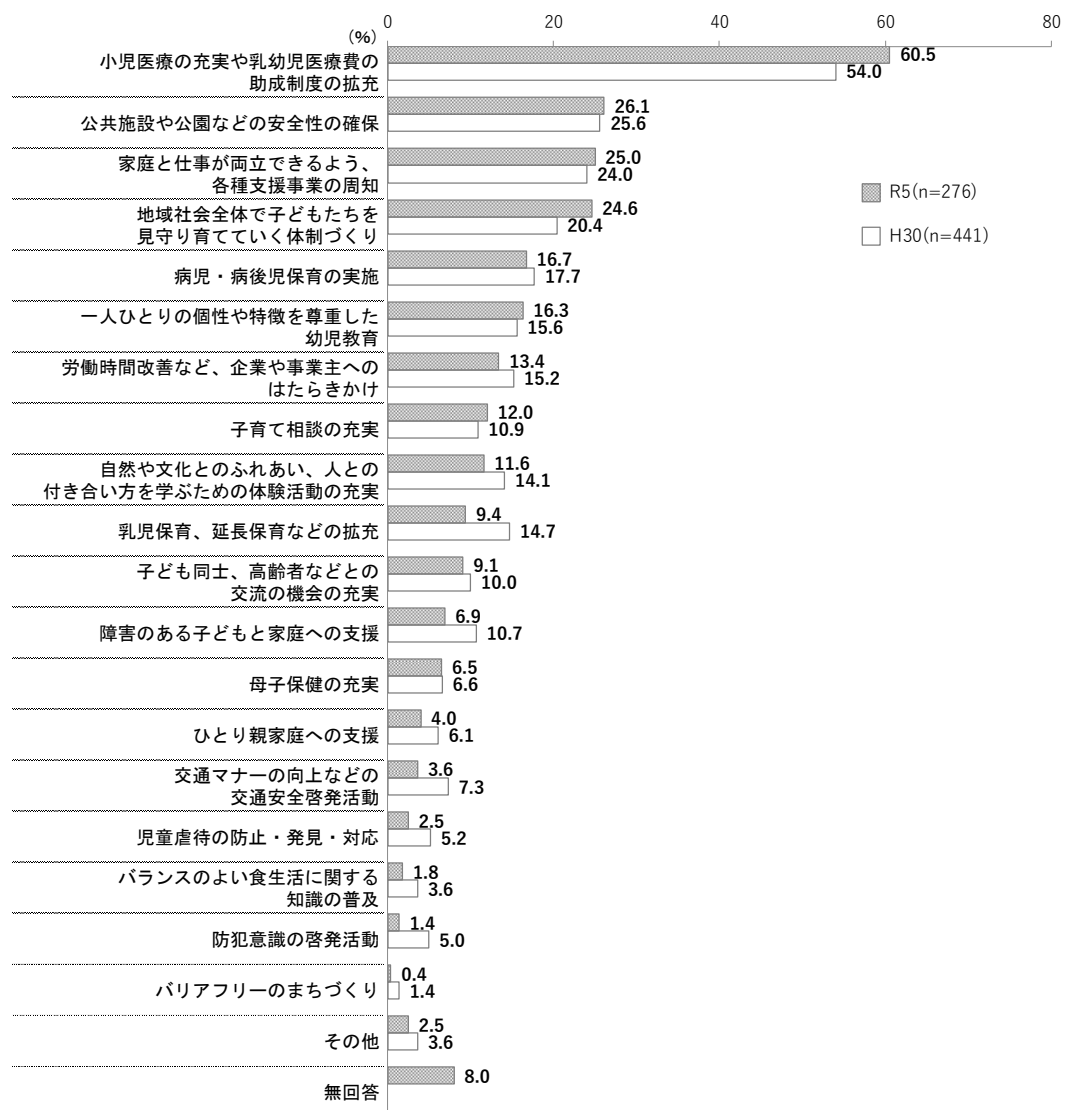
行政や関係機関が取り組むべき子育ての施策については、「小児医療の充実や乳幼児医療費の助成制度の拡充」が 60.5%と最も多く、次いで「公共施設や公園などの安全性の確保」(26.1%)、「家庭と仕事が両立できるよう、各種支援事業の周知」(25.0%)、「地域社会全体で子どもたちを見守り育てていく体制づくり」(24.6%)、「病児・病後児保育の実施」(16.7%)、「一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育」(16.3%) などとなっている。

【平成 30 年度との比較】

平成 30 年度と比べると、「小児医療の充実や乳幼児医療費の助成制度の拡充」で 7 ポイント高くなっている。

一方、「乳児保育、延長保育などの拡充」で 5 ポイント低下している。

行政や関係機関が取り組むべき子育ての施策



4. 地域の子育ての環境や支援の満足度

問 33 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。

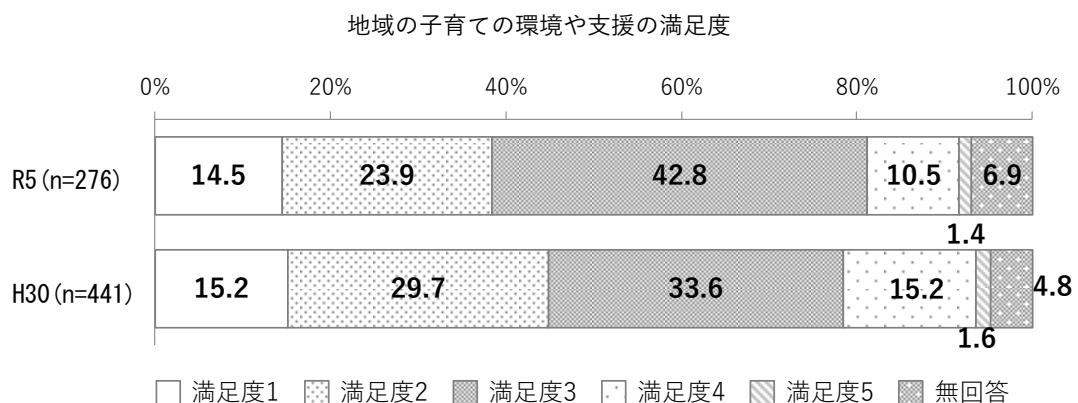
地域の子育ての環境や支援の満足度については、「満足度3（普通）」が42.8%と最も多く、次いで「満足度1～2」を足した『満足度（低め）』は38.4%、「満足度4～5」を足した『満足度（高め）』は11.9%となっている。

【平成30年度との比較】

平成30年度と比べると、「満足度3（普通）」で9ポイント高くなっている。

一方、『満足度（高め）』で5ポイント、『満足度（低め）』で7ポイント低下している。

（満足度：1＝低 ⇔ 5＝高）



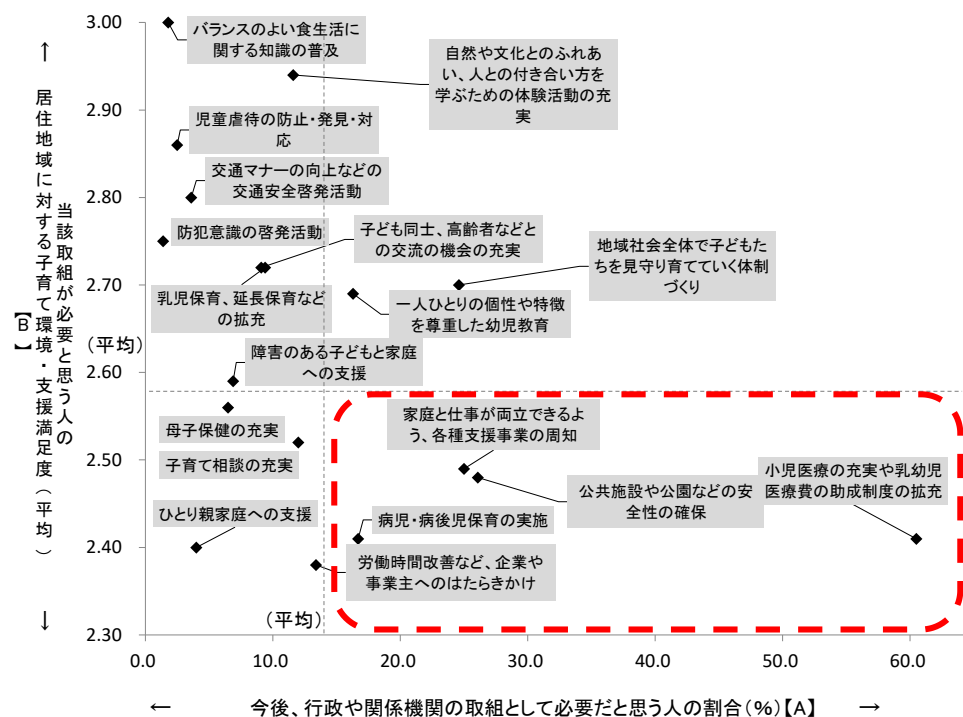
＜必要だと思う取組＞と＜当該取組が必要だと思う人の子育て環境・支援に対する満足度＞との関係性

下記に横軸【A】に＜必要だと思う取組＞と回答した割合、縦軸【B】に＜当該取組が必要だと思う人の子育て環境・支援に対する満足度（1～5点の平均）＞の散布図を示した。

【A】【B】の各々の平均値を中心として4象限に分類し、右下の点線に囲まれた象限は“平均以上に必要が求められながら、その取組を必要としている人の子育て環境・支援の満足度が平均以下”であることを示している。

「小児医療の充実や乳幼児医療費の助成制度の拡充」は60.5%の人が必要としている一方で、その取組を必要としている人の子育て環境・支援の満足度は2.41（全体平均は2.58）、同様に「公共施設や公園などの安全性の確保」は26.1%に対して2.48、「家庭と仕事が両立できるよう、各種支援事業の周知」は25.0%に対して2.49となっている。

取組に対してプライオリティを置く場合、上記に示した3つの取組を優先することが、子育て環境に対する満足度を向上させると期待できる。



取組	【A】	【B】	取組	【A】	【B】
	(%)	平均		(%)	平均
子育て相談の充実	12.0	2.52	防犯意識の啓発活動	1.4	2.75
子ども同士、高齢者などとの交流の機会の充実	9.1	2.72	ひとり親家庭への支援	4.0	2.40
地域社会全体で子どもたちを見守り育てていく体制づくり	24.6	2.70	障害のある子どもと家庭への支援	6.9	2.59
バランスのよい食生活に関する知識の普及	1.8	3.00	児童虐待の防止・発見・対応	2.5	2.86
母子保健の充実	6.5	2.56	乳児保育、延長保育などの拡充	9.4	2.72
一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育	16.3	2.69	病児・病後児保育の実施	16.7	2.41
自然や文化とのふれあい、人との付き合い方を学ぶための体験活動の充実	11.6	2.94	家庭と仕事が両立できるよう、各種支援事業の周知	25.0	2.49
小児医療の充実や乳幼児医療費の助成制度の拡充	60.5	2.41	労働時間改善など、企業や事業主へのはたらきかけ	13.4	2.38
交通マナーの向上などの交通安全啓発活動	3.6	2.80	公共施設や公園などの安全性の確保	26.1	2.48
			※バリアフリーのまちづくり	0.4	4.00

※「バリアフリーのまちづくり」は【A】が0.4%（n=1）のため、散布図から割愛した。

※【A】はn=276、【B】の平均値の分母は【A】で各取組に対して「必要」と回答した人

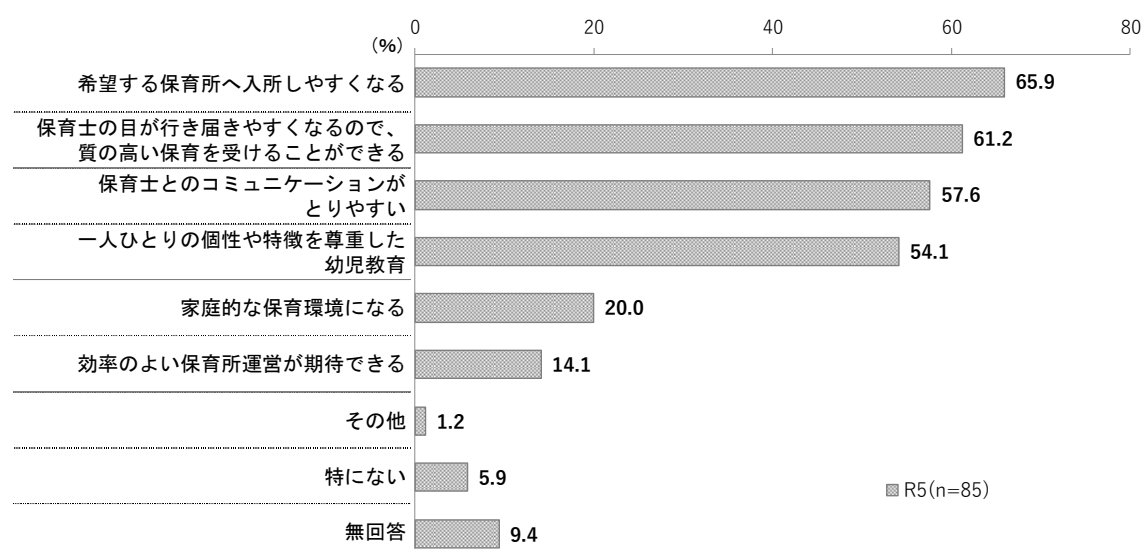
15 出生数が減少する現状における保育所について

1. 子どもの出生数が減少する現状におけるメリット・期待

問 34 子どもの出生数が減少する中、保育所の入所児童数も徐々に減少しています。この状況についてのメリット又は期待することなど、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。
(あてはまる番号すべて)

子どもの出生数が減少する現状におけるメリット・期待については、「希望する保育所へ入所しやすくなる」が 65.9%と最も多く、次いで「保育士の目が行き届きやすくなるので、質の高い保育を受けることができる」(61.2%)、「保育士とのコミュニケーションがとりやすい」(57.6%)、「一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育」(54.1%) などとなっている。

子どもの出生数が減少する現状におけるメリット・期待

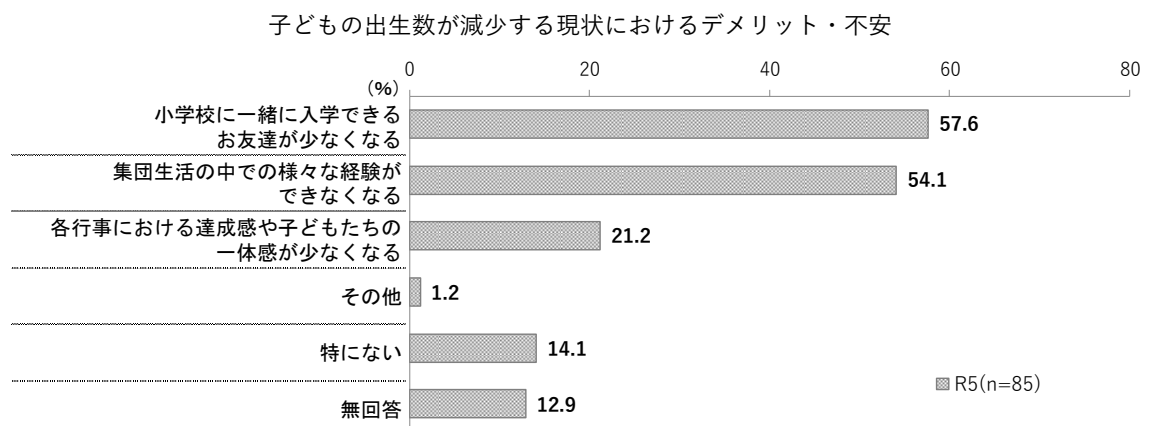


2. 子どもの出生数が減少する現状におけるデメリット・不安

問 35 子どもの出生数が減少する中、保育所の入所児童数も徐々に減少しています。この状況についてのデメリット又は不安など、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（あてはまる番号すべて）

子どもの出生数が減少する現状におけるデメリット・不安については、「小学校と一緒に入学できるお友達が少なくなる」が57.6%と最も多く、次いで「集団生活の中での様々な経験ができなくなる」(54.1%)、「各行事における達成感や子どもたちの一体感が少なくなる」(21.2%) となっている。

一方、「特にない」は14.1%となっている。



3. 今後、保育所の児童数が減少していく状況下における保育所のあり方に関する意見

問 36 今後、保育所の児童数が減少していく状況下での保育所のあり方に関してご意見があれば、下記にご記入ください。

今後、保育所の児童数が減少していく状況下における保育所のあり方に関する意見は、「特になし」を除く 16 名よりいただいた。以下のように分類し、多い順にその内容を一部抜粋した。

【安心安全な保育】（7 件）

- ・児童数に関係なく、安全第一な保育を心がけてもらいたい。ニュースでよく見る虐待や、バスの中で亡くなってしまっていたなど、そんなことは絶対にあってはならないことだと思う。
- ・子供は体温調節が上手く出来ず、熱中症になりやすいので、保育所にもエアコンの設置をして欲しい。プールや衣服での調節だけでは限界がある。

【施設の統合】（4 件）

- ・0 歳児クラスが東保育所にしかなく、兄姉と別の保育所に通うのは大変。0 歳児は運動会、お遊戯会の参加がないが、保育所の利用もできない。兄姉がいて、0 歳児から利用するなら 1 箇所統合したほうが利用しやすい。もしくは、最初からこども園に通っていた方が良かったと思う。
- ・老朽化してるので統合してもいいのです(統合も近いと思います)が、熱心な先生に親はお願いしたいと思うはずなので、今保育所の質を下げず、むしろより良くしていただけたら嬉しいです。関わる人の影響が強いと思っているので、評判で入所を決めました。

【保育士への待遇改善】（2 件）

- ・法律に定められている保育士 1 人あたりの児童数にこだわらず、充実した保育をしていたきたいと思っています。児童数が少なくなっている分、保育士の数は増えると思いますので、保育士 1 人あたりの負担軽減につながるよう検討願います。

【定期的に交流出来る場】（2 件）

- ・町内に複数施設がありますが、通っている場所に関係なく、同世代の子どもたちが定期的に交流できる機会があると、小学校入学後の友人関係も築きやすいのではと思います。

【その他】（1 件）

- ・町内に複数施設がありますが、通っている場所に関係なく、同世代の子どもたちが定期的に交流できる機会があると、小学校入学後の友人関係も築きやすいのではと思います。

4. 子育て支援に関する意見

問 37 最後に教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

※別紙参照

16 調査票

お住まいの地域についてうかがいます。

問1 お住まいの地区はどちらですか。

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. 遠軽地域 | 2. 生田原地域 | 3. 丸瀬布地域 | 4. 白滝地域 |
|---------|----------|----------|---------|

封筒の宛名のお子さんご家族の状況についてうかがいます。

問2 宛名のお子さんの生年月月をご入力ください。(口内に数字を入力)

西暦 20 年 月生まれ

問3 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

- | | | |
|-------|-------|------------|
| 1. 母親 | 2. 父親 | 3. その他 () |
|-------|-------|------------|

問4 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 配偶者がいる | 2. 配偶者はいない |
|-----------|------------|

問5 宛名のお子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. 父母ともに | 2. 主に母親 | 3. 主に父親 |
| 4. 主に祖父母 | 5. その他 () | |

子どもの育ちをめぐる環境についてうかがいます。

問6 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんからみた関係でお答えください。(あてはまる番号すべて)

- | | | | | | |
|------------|-------|-------|--------|--------|-----------|
| 1. 父母ともに | 2. 母親 | 3. 父親 | 4. 祖父母 | 5. 保育所 | 6. 認定こども園 |
| 7. その他 () | | | | | |

問7 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)に、もっとも影響すると思われる環境をお答えください。(あてはまる番号すべて)

- | | | | |
|------------|-------|--------|-----------|
| 1. 家庭 | 2. 地域 | 3. 保育所 | 4. 認定こども園 |
| 5. その他 () | | | |

問8 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(あてはまる番号すべて)

- | | | |
|------------------------------------|---|---------|
| 1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる | } | ⇒ 問8-1へ |
| 2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる | | |
| 3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる | } | ⇒ 問8-2へ |
| 4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる | | |
| 5. いずれもない | | ⇒ 問9へ |

＜回答条件：問8＝1～2＞■祖父母や親族にお子さんをみてもらっている方におうかがいします。

問8-1 父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(あてはまる番号すべて)

- | | | |
|---|---|-------|
| 1. 祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、
安心して子どもをみてもらえる | } | ⇒ 問9へ |
| 2. 祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である | | |
| 3. 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である | | |
| 4. 自分たちの親の立場として、負担をかけていることが心苦しい | | |
| 5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある | | |
| 6. その他 () | | |

＜回答条件：問8＝3～4＞■友人・知人にお子さんをみてもらっている方におうかがいします。

問8-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(あてはまる番号すべて)

- | | | |
|---|---|--|
| 1. 友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、
安心して子どもをみてもらえる | } | |
| 2. 友人・知人の身体的負担が大きく心配である | | |
| 3. 友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である | | |
| 4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい | | |
| 5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある | | |
| 6. その他 () | | |

問9 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

1. いる／ある ⇒ 問9-1へ

2. いない／ない ⇒ 問10へ

<回答条件：問9＝1>

■お子さんの子育て（教育を含む）を気軽に相談できる人がいる方におうかがいします。

問9-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまる番号3つまで）

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 1. 祖父母等の親族 | 2. 友人や知人 |
| 3. 近所の人 | 4. 子育て支援施設（児童館等） |
| 5. 保健所 | 6. 遠軽町保健師 |
| 7. 保育所、認定こども園 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. かかりつけの医師 | 10. 遠軽町子育て支援課窓口 |
| 11. その他（ ） | |

宛名のお子さんの保護者の就労状況についてうかがいます。

問10 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、農業、家族従事者含む）についてお答えください。

（1）母親 【父子家庭の場合、記入は不要です】

- | | |
|--|-------------|
| 1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない | } ⇒ (1) -1へ |
| 2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である | |
| 3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない | |
| 4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である | |
| 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない | } ⇒ (2)へ |
| 6. これまで就労したことがない | |

<回答条件：問10（1）＝1～4> ■母親が就労している方におうかがいします。

（1）-1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（口内に数字を入力）

1週当たり 日 1日当たり 時間

＜回答条件：問 10（1）＝1～4＞■母親が就労している方におうかがいします。

- （1）-2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は必ず(例)08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。（□内に数字を入力）

家を出る時刻	時	帰宅時間	時
--------	---	------	---

（2）父親 【母子家庭の場合、記入は不要です】

- | | |
|--|--|
| 1. フルタイム(1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労)で就労しており、育休・介護休業中ではない
2. フルタイム(1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労)で就労しているが、育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しており、育休・介護休業中ではない
4. パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しているが、育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない | ⇒ (2) -1 へ

⇒ 問 12 へ |
|--|--|

＜回答条件：問 10（2）＝1～4＞■父親が就労している方におうかがいします。

- （2）-1 週当たりの「就労日数」、1 日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（□内に数字を入力）

1 週当たり	日	1 日当たり	時間
--------	------------------------	--------	--

＜回答条件：問 10（2）＝1～4＞■父親が就労している方におうかがいします。

- （2）-2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は必ず(例)08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。（□内に数字を入力）

家を出る時刻	時	帰宅時間	時
--------	---	------	---

問 11 フルタイム（1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労）への転換希望はありますか。

＜回答条件：問 10（1）＝3～4＞■母親がパート・アルバイト等で就労している方におうかがいします。

（1）母親

- | |
|---|
| 1. フルタイム（1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム（1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい |
|---|

<回答条件：問 10（2）＝3～4>■父親がパート・アルバイト等で就労している方におうかがいします。

（2）父親

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい

問 12 就労したいという希望はありますか。（該当する口内には数字を入力）

<回答条件：問 10（1）＝5～6>■母親が就労していない方におうかがいします。

（1）母親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったところに就労したい
3. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい

<回答条件：問 12（1）＝3>

→希望する就労形態

① フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）

② パートタイム、アルバイト等（「①」以外）

<回答条件：上記設問＝2>

→1週当たり 日 1日当たり 時間

<回答条件：問 10（2）＝5～6>■父親が就労していない方におうかがいします。

（2）父親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったところに就労したい
3. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい

<回答条件：問 12（2）＝3>

→希望する就労形態

① フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）

② パートタイム、アルバイト等（「①」以外）

<回答条件：上記設問＝2>

→1週当たり 日 1日当たり 時間

妊娠・出産・子育てと就労の継続についてうかがいます。

問 13 妊娠・出産・子育ての際に、離職せざるを得なくなるのは、どのような場合だと思いますか。
(あてはまる番号すべて)

1. 勤務時間が合わない(合いそうもない)
2. 職場に両立を支援する雰囲気がない
3. 育児休業を取れない(取れそうもない)
4. 子どもの病気等で度々休まざるを得ない
5. 保育所等に子どもを預けられない(預けられそうもない)
6. 会社に育児休業制度がない
7. つわりや産後の不調など妊娠・出産にともなう体調不良
8. 家族がやめることを希望
9. その他 ()

問 14 どのような環境が整っていたら、離職せず、就労を継続できると思いますか。
(あてはまる番号すべて)

1. 職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整っており、制度を利用しやすい職場環境がある
2. 家族の理解があり、妊娠・出産・育児をサポートしてくれる
3. 保育所等の保育施設を利用できる見込みがある
4. その他 ()

宛名のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてうかがいます。

※ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。具体的には、認定こども園や保育所など、【参考】施設一覧に示した事業が含まれます。

問 15 宛名のお子さんは現在、認定こども園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。

1. 利用している ⇒ 問 15-1へ 2. 利用していない ⇒ 問 15-5へ

【参考】施設一覧

認定こども園の預かり保育	通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ
認可保育園	国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの
認定こども園	幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
事業所内保育施設	企業が主に従業員用に運営する施設
自治体の認証・認定保育施設	認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設、白滝保育所
その他の認可外の保育施設	

＜回答条件：問 15＝2＞■「定期的な教育・保育の事業」を利用していない方におうかがいします。

問 15-5 利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべて、該当する口内には数字を入力）

1. （子どもの教育のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）
利用する必要がない
2. 子どもの祖父母や親戚の人がみている
3. 近所の人や父母の友人・知人がみている
4. 利用したいが、保育・教育の事業に空きがない
5. 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
6. 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
7. 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
8. 子どもがまだ小さいため（ 歳くらいになったら利用しようと考えている）
9. その他（）

問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。（あてはまる番号すべて）

【遠軽町で実施している事業】

1. 認定こども園の預かり保育
（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
2. 認可保育所
（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの）
3. 認定こども園
（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）
4. 事業所内保育施設
（企業が主に従業員用に運営する施設）
5. 自治体の認証・認定保育施設
（認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設、白滝保育所）
6. その他の認可外の保育施設

【遠軽町で実施していない事業】

7. 家庭的保育
（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）
8. 小規模な保育施設
（国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6人～19人のもの）
9. 居宅訪問型保育
（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）
10. その他（）

問 16-1 教育・保育事業を利用したい場所をお答えください。

- | | |
|---------|----------|
| 1. 遠軽町内 | 2. 他の市町村 |
|---------|----------|

宛名のお子さんの子育て支援事業の利用状況についてうかがいます。

問 17 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

	A 知っている	
①母親（父親）学級、育児学級	1.はい	2.いいえ
②母子保健事業の情報・相談事業	1.はい	2.いいえ
③家庭教育に関する学級・講座	1.はい	2.いいえ
④教育相談室	1.はい	2.いいえ
⑤子育ての各相談窓口	1.はい	2.いいえ

<回答条件：問 17A=1>

	B これまでに利用 したことがある	
①母親（父親）学級、育児学級	1.はい	2.いいえ
②母子保健事業の情報・相談事業	1.はい	2.いいえ
③家庭教育に関する学級・講座	1.はい	2.いいえ
④教育相談室	1.はい	2.いいえ
⑤子育ての各相談窓口	1.はい	2.いいえ

	C 今後利用したい	
①母親（父親）学級、育児学級	1.はい	2.いいえ
②母子保健事業の情報・相談事業	1.はい	2.いいえ
③家庭教育に関する学級・講座	1.はい	2.いいえ
④教育相談室	1.はい	2.いいえ
⑤子育ての各相談窓口	1.はい	2.いいえ

<回答条件：問 19=3>

■夏休み・冬休みなど長期の休み期間中の教育・保育の事業を休みの期間中、週に2、3日利用したい方におうかがいします。

問 19-1 毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまる番号すべて)

1. 週に数回仕事が入るため
2. 買い物等の用事をまとめて済ませるため
3. 親族の介護や手伝いが必要なため
4. 息抜きのため
5. その他 ()

宛名のお子さんの夜間保育の利用希望についてうかがいます。

問 20 宛名のお子さんについて、夜間（保育所の延長保育の終了後）の保育事業を行うとしたら、利用希望はありますか（現在は町では実施しておりません）。また、希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例)09時～18時のように24時間制でお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生することもあります。（口内に数字を入力）

(1) 平日の夜間保育	(2) 土曜・日曜・祝日の夜間保育
1. 利用する必要はない 2. ほぼ毎日利用したい 3. 月に1～2回は利用したい <回答条件：問 20 (1) = 2～3> 利用したい時間帯 時から 時まで	1. 利用する必要はない 2. ほぼ毎週利用したい 3. 月に1～2回は利用したい <回答条件：問 20 (2) = 2～3> 利用したい時間帯 時から 時まで

宛名のお子さんの病気の際の対応についてうかがいます。
(平日の教育・保育を利用する方のみ)

<回答条件：問 15＝1>

■平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方にうかがいます。

問 21 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

1. あった ⇒ 問 21-1 へ

2. なかった ⇒ 問 22 へ

<回答条件：問 21＝1>

■この1年間にお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあった方におうかがいします。

問 21-1 宛名のお子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法をお答えください。半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。(あてはまる番号すべて、それぞれの日数を口内に数字で入力)

1年間の対処方法	日数
☐ 1. 父親が休んだ	日
☐ 2. 母親が休んだ	日
☐ 3. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった	日
☐ 4. 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	日
☐ 5. ベビーシッターを利用した	日
☐ 6. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	日
☐ 7. その他 ()	日

<回答条件：問 21-1＝1～2>

■の1年間にお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあり、父親もしくは母親が休んだ方におうかがいします。

問 21-2 その際、「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。(現在、遠軽町は実施しておりません。)(日数についても口内に数字で入力)

- | | |
|--|-----------|
| 1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい → <input type="text"/> <input type="text"/> 日 | ⇒問 21-3 へ |
| 2. 利用したいとは思わない | ⇒問 21-4 へ |

■お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかった際、できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思った方におうかがいします。

問 21-3 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。
(あてはまる番号すべて)

1. 他の施設(例: 認定こども園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業
2. 小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
3. 地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業(例: ファミリー・サポート・センター等)
4. その他()

＜回答条件：問 21-2=2＞

■ お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかった際、できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない方におうかがいします。

問21-4 そう思われる理由は何ですか。(あてはまる番号すべて)

1. 病児・病後児を他人に看てもらうのは不安
2. 地域の事業の質に不安がある
3. 地域の事業の利便性（立地や利用可能時間日数など）がよいくない
4. 利用料がかかる・高い
5. 利用料がわからない
6. 親が仕事を休んで対応する
7. その他（

＜回答条件：問21-1＝3～7＞

問 21-5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。（仕事を休んで看たかった日数を数字で入力）

1. できれば仕事を休んで看たい → □ □ 日 ⇒問22へ
2. 休んで看ることは非常に難しい ⇒問21-6へ

＜回答条件：問 21-5=2＞■休んで見ることは非常に難しいと回答した方におうかがいします。

問 21-6 そう思われる理由をお答えください。(あてはまる番号すべて)

1. 子どもの看護を理由に休みがとれない
2. 自営業なので休めない
3. 休暇日数が足りないので休めない
4. その他（ ）

**宛名のお子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う
一時預かり等の利用についてうかがいます。**

問 22 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を口内に数字で入力）

利用している事業	日数（年間）
1. 認定こども園の預かり保育 （通常の就園時間を延長預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	□ □ 日
2. 子育て支援短期利用事業：ショートステイ （児童擁護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	□ □ 日
3. 認可外保育施設	□ □ 日
4. ファミリー・サポート・センター	□ □ 日
5. その他（ ）	□ □ 日
6. 利用していない⇒問 22-1 へ	

<回答条件：問 22＝6>

■私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業がない方におうかがいます。

問 22-1 現在利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべて）

1. 特に利用する必要がない
2. 利用したい事業が地域にない
3. 地域の事業の質に不安がある
4. 地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない
5. 利用料がかかる・高い
6. 利用料がわからない
7. 自分が事業の対象者になるかどうかわからない
8. 事業の利用方法（手続き等）がわからない
9. その他（ ）

問 23 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてお答えください。希望がある場合は、必要な日数もお答えください。なお事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を口内に数字で入力）

1. 利用したい	計 □ □ 日
(1) 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む） や親の習い事等）、リフレッシュ目的	□ □ 日
(2) 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹 を含む）や親の通院 等	□ □ 日
(3) 不定期の就労	□ □ 日
(4) その他（ ）	□ □ 日
2. 利用する必要はない	⇒問 24 へ

<回答条件：問 23＝1>

■私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時的な事業を利用したい方におうかがいします。

問 23-1 問 23 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。（あてはまる番号すべて）

- | | |
|--|---|
| 1. 施設で子どもを保育する事業（例：認定こども園・育所等） |) |
| 2. 地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業（例：家庭的保育等） | |
| 3. その他（ | |

問 24 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてを選択し、必要な泊数をご記入ください。（利用したい泊数の合計と目的別の内訳の泊数を口内に数字でご入力ください。）なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

1. 利用したい	計 泊
<回答条件：問 24＝1> ア. 冠婚葬祭	泊
イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安	泊
ウ. 保護者や家族の病気	泊
エ. その他（	泊
2. 利用する必要はない ⇒ 問 25 へ	

**宛名のお子さんが5歳以上である方に、
小学校就学後の放課後の過ごし方についてうかがいます。**

＜回答条件：問2＝5歳以上＞

問25 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「放課後児童クラブ」を希望する場合には、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18時のように24時間制でご記入ください。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を口内に数字で入力）

「放課後児童クラブ」・・・保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。

1. 自宅	週 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週 日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 日くらい
4. 児童館 ※	週 日くらい
5. 放課後児童クラブ	週 日くらい →下校時から 時まで
6. その他（ ）	週 日くらい

※ 児童館で行う放課後児童クラブの利用を希望する場合は「5.」に回答

＜回答条件：問2＝5歳以上＞

問26 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「放課後児童クラブ」を希望する場合には、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18時のように24時間制でご記入ください。（あてはまる番号すべて、それぞれの日数を口内に数字で入力）

※かなり先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

1. 自宅	週 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週 日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 日くらい
4. 児童館 ※	週 日くらい
5. 放課後児童クラブ	週 日くらい →下校時から 時まで
6. その他（ ）	週 日くらい

※ 児童館で行う放課後児童クラブの利用を希望する場合は「5.」に回答

<回答条件：問 2＝5歳以上>かつ<回答条件：問 25＝5 もしくは問 26＝5>

■放課後児童クラブを利用したい方におうかがいします。

問 27 宛名のお子さんについて、日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。また、利用したい場合は、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18時のように24時間制でご記入ください。(遠軽町は無料で利用できます。)

(1つに○、それぞれの日数を口内に数字で入力)

1. 低学年(1～3年生)の間は利用したい	} →	□ □ 時から □ □ 時まで
2. 高学年(4～6年生)になっても利用したい		
3. 利用する必要はない		

<回答条件：問 27＝1～2>
利用したい時間帯

<回答条件：問 2＝5歳以上>

問 28 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなど長期の休み期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。また、利用したい場合は、利用希望時間もお答えください。時間は必ず(例)18時のように24時間制でご記入ください。(それぞれの日数を口内に数字で入力)

1. 低学年(1～3年生)の間は利用したい	} →	□ □ 時から □ □ 時まで
2. 高学年(4～6年生)になっても利用したい		
3. 利用する必要はない		

<回答条件：問 28＝1～2>
利用したい時間帯

すべての方に、育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度についてうかがいます。

問 29 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについてお答えください。（1つに○）また、取得していない方は、その理由をお答えください。（あてはまる番号すべて）

母親	父親
1. 働いていなかった 2. 取得した（取得中である） 3. 取得していない	1. 働いていなかった 2. 取得した（取得中である） 3. 取得していない
取得していない理由（いくつでも）	取得していない理由（いくつでも）
<回答条件：上記設問＝3> 1. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった 2. 仕事が忙しかった 3. （産休後に）仕事に早く復帰したかった 4. 仕事に戻るのが難しそうだった 5. 昇給・昇格などが遅れそうだった 6. 収入減となり、経済的に苦しくなる 7. 保育所、認定こども園などに預けることができた 8. 配偶者が育児休業制度を利用した 9. 配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった 10. 子育てや家事に専念するため退職した 11. 職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった） 12. 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった 13. 育児休業を取得できることを知らなかった 14. 産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できることを知らず退職した 15. その他（ ）	<回答条件：上記設問＝3> 1. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった 2. 仕事が忙しかった 3. 仕事に早く復帰したかった 4. 仕事に戻るのが難しそうだった 5. 昇給・昇格などが遅れそうだった 6. 収入減となり、経済的に苦しくなる 7. 保育所、認定こども園などに預けることができた 8. 配偶者が育児休業制度を利用した 9. 配偶者が無職、祖父母等の親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった 10. 子育てや家事に専念するため退職した 11. 職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった） 12. 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった 13. 育児休業を取得できることを知らなかった 14. その他（ ）

問 29-1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

<回答条件：問 29 母親＝2> ■育児休業取得した方におうかがいします。

(1) 母親

1. 育児休業取得後、職場に復帰した
2. 現在も育児休業中である
3. 育児休業中に離職した

<回答条件：問 29 父親＝2> ■育児休業取得した方におうかがいします。

(2) 父親

1. 育児休業取得後、職場に復帰した
2. 現在も育児休業中である
3. 育児休業中に離職した

問 29-2 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所、認定こども園入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

※ 年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1.」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1.」を選択してください。

<回答条件：問 29-1 (1)＝1>

■育児休業取得後、職場に復帰した方におうかがいします。

(1) 母親

1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった
2. それ以外だった

<回答条件：問 29-1 (2)＝1>

■育児休業取得後、職場に復帰した方におうかがいします。

(2) 父親

1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった
2. それ以外だった

問 29-3 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

<回答条件：問 29-1 (1)＝2> ■現在も育児休業中の方におうかがいします。

(1) 母親

1. 1歳になるまで育児休業を取得したい
2. 1歳になる前に復帰したい

<回答条件：問 29-1 (2)＝2> ■現在も育児休業中の方におうかがいします。

(2) 父親

1. 1歳になるまで育児休業を取得したい
2. 1歳になる前に復帰したい

すべての方に、子育て環境や支援についてうかがいます。

問 30 あなたは、自分にとって子育てを楽しんでいると感じるときが多いと思いますか。それとも大変と感じるときが多いと思いますか。

1. 楽しいと感じることの方が多い
2. 楽しいと感じることと大変と感じることが同じくらい
3. 大変と感じることの方が多い
4. わからない
5. その他（ ）

＜回答条件：問 30＝1＞■子育てを楽しんでいると感じるときが多い方におうかがいします。

問 30-1 楽しいと感じるのはどのような時ですか。（あてはまる番号すべて）

1. 子どもの成長を感じる時
2. 子どもがかわいいと感じる時
3. 子どもとの絆を感じる時
4. その他（ ）

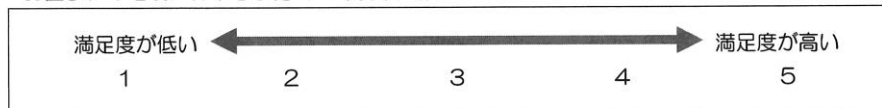
問 31 あなたは、子育てに関する情報をどこ（誰・何）から入手しますか。（あてはまる番号すべて）

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 親族 | 2. 近所の人、知人、友人 |
| 3. 子育てサークルの仲間 | 4. 保育所、認定こども園、学校 |
| 5. 役場や町の機関の窓口 | 6. 町の広報やパンフレット |
| 7. テレビ、ラジオ、新聞 | 8. 子育て雑誌 |
| 9. インターネット（パソコン利用） | 10. インターネット（携帯・スマホ利用） |
| 11. その他（ ） | |

問 32 子育てについて考えたとき、今後、行政や関係機関の取り組みとして必要と思われること、充実してほしいと思われることは何ですか。（あてはまる番号3つまで）

1. 子育て相談の充実
2. 子ども同士、高齢者などとの交流の機会の充実
3. 地域社会全体で子どもたちを見守り育てていく体制づくり
4. バランスのよい食生活に関する知識の普及
5. 母子保健の充実
6. 一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育
7. 自然や文化とのふれあい、人との付き合い方を学ぶための体験活動の充実
8. 小児医療の充実や乳幼児医療費の助成制度の拡充
9. 交通マナーの向上などの交通安全啓発活動
10. 防犯意識の啓発活動
11. ひとり親家庭への支援
12. 障害のある子どもと家庭への支援
13. 児童虐待の防止・発見・対応
14. 乳児保育、延長保育などの拡充
15. 病児・病後児保育の実施
16. 家庭と仕事が両立できるよう、各種支援事業の周知
17. 労働時間改善など、企業や事業主へのはたらきかけ
18. 公共施設や公園などの安全性の確保
19. バリアフリーのまちづくり
20. その他（ ）

問 33 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。



＜回答条件：問 15-1＝2＞■認可保育所を利用している方におうかがいします。

1. 希望する保育所へ入所しやすくなる
2. 保育士の目が行き届きやすくなるので、質の高い保育を受けることができる
3. 家庭的な保育環境になる
4. 効率のよい保育所運営が期待できる
5. 保育士とのコミュニケーションがとりやすい
6. 一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育
7. その他（具体的に： _____）
8. 特にない

1. 各行事における達成感や子どもたちの一体感が少なくなる
2. 小学校と一緒に入学できるお友達が少なくなる
3. 集団生活の中での様々な経験ができなくなる
4. その他（具体的に： ）
5. 特にない

[illegible]

問 37 最後に教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。